洗足学園音楽大学

大学院音楽研究科

2022年度シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
音楽教育学研究[金5]	木下　晶子	1
音楽教育学演習I(前)[火3]、(後)[木4]	佐藤　昌弘	12
音楽教育学演習II月3 [YU JIEHUI]　金井公美子クラス	金井　公美子	23
音楽教育学演習II金2 [JIN YUHUI]　董芳勝クラス	董　芳勝	34
音楽教育学演習II土4 [WU SHIYU]　三道ひかりクラス	三道　ひかり	45
音楽教育学演習II木3 [CHEN ITING]　佐藤昌弘クラス	佐藤　昌弘	56
音楽教育学演習II木3 [CHEN YUE]　味府美香クラス	味府　美香	67
音楽教育学演習II火5 [BI WENQI]　駒﨑達也クラス	駒﨑　達也	78
音楽教育学演習II金1 [LI SU]　木下晶子クラス	木下　晶子	89
音楽表現研究I[金4]	佐藤　昌弘	100
音楽表現研究II[金4]	佐藤　昌弘	111
副論文作成研究	那須田　務	122
音楽・音響デザイン特殊研究1[水3]山下ゼミ	山下　康介	133
音楽・音響デザイン特殊研究1[火4]上倉ゼミ	上倉　紀行	144
音楽・音響デザイン特殊研究2[木5]	栗山　和樹	155
ライヴ・エレクトロニクス研究1[火3]森ゼミ	森　威功	166
ライヴ・エレクトロニクス研究2[火4]	森　威功	177
デジタル・オーケストレーション研究1[火5]	森　威功	188
デジタル・オーケストレーション研究2[火5]	森　威功	199
録音・音響特殊研究1[木2]	徳永　宏	210
録音・音響特殊研究2[木4]	徳永　宏	221
映像特殊研究1[木3]	山田　剛志	232
映像特殊研究2[木3]	山田　剛志	243
作曲法特殊研究1[月3](作曲)	井上　渚	254
作曲法特殊研究1[金4](二胡)	大江　千佳子	265
作曲法特殊研究2[木5](作曲)	赤石　直哉	276
作曲法特殊研究2[金4](二胡)	大江　千佳子	287
楽曲分析法特殊研究1[水2]	久保　哲朗	298
楽曲分析法特殊研究2[金2]	久行　敏彦	309
アンサンブル特殊研究1[木4]	桑原　ゆう	320
アンサンブル特殊研究2[水3]	松浦　真沙	331
プロフェッショナル特殊研究I(前)[金3](後)[実習]	柳澤　涼子	342
プロフェッショナル特殊研究II(前)[金3](後)[実習]	柳澤　涼子	353
オペラ研究1・2[水4-5、木2-4]	柳澤　涼子	364
アンサンブル研究1[月2]	櫻田　亮	375
アンサンブル研究2[月2]	櫻田　亮	386
歌曲研究1[月4]日本　フランス	柳澤　涼子	397
歌曲研究1[月4]日本[金4]イタリア	柳澤　涼子	408

歌曲研究1[月4]日本[金4]ドイツ	柳澤　涼子	・・・・・・・・	419
歌曲研究1[月4]フランス[金4]イタリア	柳澤　涼子	・・・・・・・・	430
歌曲研究1[月4]フランス[金4]ドイツ	柳澤　涼子	・・・・・・・・	441
歌曲研究1[金4]ドイツ　イタリア	柳澤　涼子	・・・・・・・・	452
歌曲研究2[月4]日本　フランス	柳澤　涼子	・・・・・・・・	463
歌曲研究2[月4]日本[金4]イタリア	柳澤　涼子	・・・・・・・・	474
歌曲研究2[月4]日本[金4]ドイツ	柳澤　涼子	・・・・・・・・	485
歌曲研究2[月4]フランス[金4]イタリア	柳澤　涼子	・・・・・・・・	496
歌曲研究2[月4]フランス[金4]ドイツ	柳澤　涼子	・・・・・・・・	507
歌曲研究2[金4]ドイツ　イタリア	柳澤　涼子	・・・・・・・・	518
合唱指導法研究[木3-4]	相澤　直人	・・・・・・・・	529
プロフェッショナル特殊研究1[火4]2台ピアノ	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	540
プロフェッショナル特殊研究1[月4]ピアノ作品分析演習	久行　敏彦	・・・・・・・・	551
プロフェッショナル特殊研究1[月1][月3][火2]伴奏法	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	562
プロフェッショナル特殊研究1[火2]大学院オーケストラ演習	渡部　亨	・・・・・・・・	573
プロフェッショナル特殊研究1[月2]SX・EP特別講座	渡部　亨	・・・・・・・・	584
プロフェッショナル特殊研究1[月1-3]スペシャル公開講座	沼田　園子	・・・・・・・・	595
プロフェッショナル特殊研究1[金1]オーケストラスタディ	井手上　達	・・・・・・・・	606
プロフェッショナル特殊研究1[金1]ポピュラー奏法研究	原田　昭宏	・・・・・・・・	617
プロフェッショナル特殊研究1[土3]	松尾　祐孝	・・・・・・・・	628
プロフェッショナル特殊研究2[火4]2台ピアノ	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	639
プロフェッショナル特殊研究2[月4]ピアノ作品分析演習	久行　敏彦	・・・・・・・・	650
プロフェッショナル特殊研究2[月1][月3][火2]伴奏法	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	661
プロフェッショナル特殊研究2[火2]大学院オーケストラ演習	渡部　亨	・・・・・・・・	672
プロフェッショナル特殊研究2[月2]SX・EP特別講座	渡部　亨	・・・・・・・・	683
プロフェッショナル特殊研究2[金1]オーケストラスタディ	井手上　達	・・・・・・・・	694
プロフェッショナル特殊研究2[金2]奏法研究・伴奏法研究	赤塚　博美	・・・・・・・・	705
プロフェッショナル特殊研究2[土5]	松尾　祐孝	・・・・・・・・	716
プロフェッショナル特殊研究3[月1-3]スペシャル公開講座	沼田　園子	・・・・・・・・	727
プロフェッショナル特殊研究3[土3]	松尾　祐孝	・・・・・・・・	738
プロフェッショナル特殊研究4[土5]	松尾　祐孝	・・・・・・・・	749
アンサンブル研究1[月2]クラシックアンサンブル	赤塚　博美	・・・・・・・・	760
アンサンブル研究2[火4]クラシックアンサンブル	赤塚　博美	・・・・・・・・	771
作曲・編曲法1[金3]	三宅　康弘	・・・・・・・・	782
作曲・編曲法2[木4]編曲演習	赤塚　博美	・・・・・・・・	793
アンサンブル研究1	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	804
アンサンブル研究1	渡部　亨	・・・・・・・・	815
アンサンブル研究1	沼田　園子	・・・・・・・・	826
アンサンブル研究1[月2]	山澤　洋之	・・・・・・・・	837

アンサンブル研究1[土4]	松尾　祐孝	・・・・・・・・	848
アンサンブル研究2	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	859
アンサンブル研究2	渡部　亨	・・・・・・・・	870
アンサンブル研究2	沼田　園子	・・・・・・・・	881
アンサンブル研究2[月2]	山澤　洋之	・・・・・・・・	892
アンサンブル研究2[土4]	松尾　祐孝	・・・・・・・・	903
打楽器の変遷と奏法の研究1[水2]	古川　玄一郎	・・・・・・・・	914
打楽器の変遷と奏法の研究2[水2]	古川　玄一郎	・・・・・・・・	925
コンチェルト研究1[木3]	江崎　昌子	・・・・・・・・	936
コンチェルト研究2[木3]	江崎　昌子	・・・・・・・・	947
チェンバロ研究[火2]	上薗　未佳	・・・・・・・・	958
音楽教育特殊研究1[金3]	董　芳勝	・・・・・・・・	969
音楽教育特殊研究2[金3]	董　芳勝	・・・・・・・・	980
音楽教育特殊研究3[火4]	駒﨑　達也	・・・・・・・・	991
音楽教育特殊研究4[火4]	駒﨑　達也	・・・・・・・・	1002
合奏指導法研究1[水2]	渡部　亨	・・・・・・・・	1013
合奏指導法研究1	沼田　園子	・・・・・・・・	1024
合奏指導法研究1	石井　喜久子	・・・・・・・・	1035
合奏指導法研究1金4ﾎﾟﾋﾟｭﾗｰｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ（後)火4ﾊﾞﾝﾄﾞｱﾚﾝｼﾞ	赤塚　博美	・・・・・・・・	1046
合奏指導法研究1[土6]	松尾　祐孝	・・・・・・・・	1057
合奏指導法研究1[水6]	石井　喜久子	・・・・・・・・	1068
合奏指導法研究2[水2]	渡部　亨	・・・・・・・・	1079
合奏指導法研究2	沼田　園子	・・・・・・・・	1090
合奏指導法研究2	石井　喜久子	・・・・・・・・	1101
合奏指導法研究2(前)月3ﾊﾞﾝﾄﾞｱﾚﾝｼﾞ金3ﾎﾟﾋﾟｭﾗｰｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ	赤塚　博美	・・・・・・・・	1112
合奏指導法研究2[土6]	松尾　祐孝	・・・・・・・・	1123
合奏指導法研究2[水6]	石井　喜久子	・・・・・・・・	1134
作品研究法[月4]那須田クラス	那須田　務	・・・・・・・・	1145
作品研究法[金2]那須田クラス	那須田　務	・・・・・・・・	1156
作品研究法[金2]森・鹿野クラス	森　威功	・・・・・・・・	1167
楽曲分析法[火1]伊藤クラス	伊藤　康英	・・・・・・・・	1178
楽曲分析法[水3]久行クラス	久行　敏彦	・・・・・・・・	1189
音楽教育学演習Ⅱ[シラバス用]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	1200
音楽・音響デザイン特殊研究1[シラバス用]	森　威功	・・・・・・・・	1211
歌曲研究1[シラバス用]	柳澤　涼子	・・・・・・・・	1222
歌曲研究2[シラバス用]	柳澤　涼子	・・・・・・・・	1233
プロフェッショナル特殊研究1[シラバス用]	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	1244
プロフェッショナル特殊研究2[シラバス用]	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	1255
専門器楽実習Ⅰ（PF）	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	1266

専門器楽実習Ⅰ(WI)	渡部　亨	1277
専門器楽実習Ⅰ(SI)	沼田　園子	1288
専門器楽実習Ⅰ(PI)	石井　喜久子	1299
専門器楽実習Ⅰ(EO)	赤塚　博美	1310
専門器楽実習Ⅰ(WA)	松尾　祐孝	1321
専門器楽実習Ⅱ(PF)	鳥羽瀬　宗一郎	1332
専門器楽実習Ⅱ(WI)	渡部　亨	1343
専門器楽実習Ⅱ(SI)	沼田　園子	1354
専門器楽実習Ⅱ(PI)	石井　喜久子	1365
専門器楽実習Ⅱ(EO)	赤塚　博美	1376
専門器楽実習Ⅱ(WA)	松尾　祐孝	1387
演奏法研究Ⅰ(PF)	鳥羽瀬　宗一郎	1398
演奏法研究Ⅰ(WI)	渡部　亨	1409
演奏法研究Ⅰ(SI)	沼田　園子	1420
演奏法研究Ⅰ(PI)	石井　喜久子	1431
演奏法研究Ⅰ(EO)	赤塚　博美	1442
演奏法研究Ⅰ(WA)	松尾　祐孝	1453
演奏法研究Ⅱ(PF)	鳥羽瀬　宗一郎	1464
演奏法研究Ⅱ(WI)	渡部　亨	1475
演奏法研究Ⅱ(SI)	沼田　園子	1486
演奏法研究Ⅱ(PI)	石井　喜久子	1497
演奏法研究Ⅱ(EO)	赤塚　博美	1508
演奏法研究Ⅱ(WA)	松尾　祐孝	1519
声楽実習Ⅰ(VO)	柳澤　涼子	1530
声楽実習Ⅱ(VO)	柳澤　涼子	1541
演奏法研究Ⅰ(VO)	柳澤　涼子	1552
演奏法研究Ⅱ(VO)	柳澤　涼子	1563
創作研究Ⅰ(CO)	清水　昭夫	1574
創作研究Ⅱ(CO)	清水　昭夫	1585
作曲理論研究Ⅰ(CO)	清水　昭夫	1596
作曲理論研究Ⅱ(CO)	清水　昭夫	1607
創作制作研究Ⅰ(SC)	森　威功	1618
創作制作研究Ⅱ(SC)	森　威功	1629
音楽音響理論研究Ⅰ(SC)	森　威功	1640
音楽音響理論研究Ⅱ(SC)	森　威功	1651
副科研究1(MP)	佐藤　昌弘	1662
副科研究2(MP)	佐藤　昌弘	1673
副科研究3(MP)	佐藤　昌弘	1684
副科研究4(MP)	佐藤　昌弘	1695

科目名	音楽教育学研究　[金5]						
代表教員	木下　晶子	授業コード	IE140100	科目コード	IE1401	期間	通年
担当教員	佐藤　昌弘						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

主題：音楽教育学の基礎的な研究方法および研究内容
到達目標：
(1) 研究倫理の考え方を身につけ、研究遂行および論文執筆のための基礎を習得する。
(2) 音楽教育学の分野と方法に関する知見を広げ、自らの研究を位置づける。
(3) 日本の音楽教育の変遷と現状について理解する。
(4) グローバルな視点により音楽教育の今日的課題と研究動向に関する認識を深め、自らの研究の意義を明確にする。

2．授業概要

状況に応じて同時双方向型の遠隔授業を実施する。予定および実施方法の詳細はポータルに掲示する。

(前期)
第1回：音楽教育学の研究と分野について概観する。
第2回：研究テーマの設定方法について学ぶ。
第3～7回：資料収集の方法に関する知識と研究倫理の考え方を身につけ、先行研究の文献講読を進める。
第8～12回：音楽教育学研究の分野と方法について知見を広げる。
第13～15回：日本における音楽教育の変遷および今日的課題について理解を深める。
(後期)
第1回：研究の進捗状況の発表および意見交換を行う。
第2～12回：音楽教育学の重要文献を精読し、論理的・批判的思考を身につける。
第13～15回：研究計画の再検討を行う。

授業は、文献講読を主体とし、講義、発表、意見交換、討論などを取り入れる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

文献の要約および考察、発表準備など、毎回の授業において課題を指示する。各回、2時間程の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

議論への参加・授業の課題（40%）
発表（30%）
期末レポート（30%）

発表は個別で行い、内容・資料の分析・考察・説明の明瞭さ・時間管理の観点から総合的に評価する。
期末レポートの詳細については、後期第12回授業で説明する予定である。授業内容の理解度に重点を置いて評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜、資料を紹介・配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
修士1年を対象とした授業である。受講生の研究テーマおよび関心に応じて、授業内容、講義順序などを変更することがある。

授業計画	
	［前期］
1	音楽教育学の研究と分野についての概論
2	研究テーマの設定方法

3	文献探索の方法
4	文献収集の方法
5	研究倫理
6	先行研究の文献購読：ブックレポートの作成要領

7	先行研究の文献購読：ブックレポートの発表
8	音楽教育学の研究分野：学校教育
9	音楽教育学の研究分野：専門教育・社会教育
10	音楽教育学の研究方法：哲学的・歴史的研究

11	音楽教育学の研究方法：質的研究
12	音楽教育学の研究方法：量的研究
13	日本の音楽教育：教育制度・カリキュラムの変遷
14	日本の音楽教育：学習指導要領・教科書の変遷

15	日本の音楽教育：今日的課題
授業計画	
	［後期］
1	研究の進捗状況の発表と意見交換
2	音楽教育学の基礎文献購読：教育思想・哲学

3	音楽教育学の基礎文献購読：教育史
4	音楽教育学の基礎文献購読：教育心理学
5	音楽教育学の基礎文献購読：カリキュラム論
6	音楽教育学の基礎文献購読：授業論

7	音楽教育学の基礎文献購読：教育評価論
8	音楽教育学の基礎文献購読：分野横断的な教育
9	音楽教育学の基礎文献購読：幼児教育
10	音楽教育学の基礎文献購読：専門教育

11	音楽教育学の基礎文献購読：社会教育
12	音楽教育学の基礎文献購読：国際比較
13	研究課題および研究対象の再検討
14	研究方法の再検討

15	研究計画の再検討

科目名	音楽教育学演習Ⅰ （前） ［火3］、（後） ［木4］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE141000	科目コード	IE1410	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
音楽教育の歴史、諸分野についての関連資料のレビュー

到達目標：
資料に基づき、日本と他国の音楽教育を概観し、その違いについて把握する。ならびに、今日の音楽教育学の諸分野における研究について理解する力を身に付ける。

２．授業概要

前期は、日中の音楽教育の諸問題と、諸外国の音楽教育の動向について、比較研究を行う。後期は、今日の音楽教育学の諸分野を対象に、その内容や研究方法についての理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

関連資料のレビューが中心となるため、授業時間外での資料の探索や読解が必要であり、これにはおよそ2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と、レポートもしくはプレゼンテーションでの成果に基づき、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』2019 音楽之友社

各回のテーマに関する資料：
授業内で配布、紹介する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］日中の音楽教育の諸問題と諸外国の音楽教育の動向
1	前期ガイダンス
2	日本の音楽教育の歴史的背景　明治・大正

3	日本の音楽教育の歴史的背景　昭和－学習指導要領の変遷
4	学校教育における日本の伝統音楽の実際－伝統音楽の体験を交えて
5	日本の学習指導要領－表現領域「歌唱」の指導内容
6	日本の学習指導要領－表現領域「歌唱」の指導方法と実践

7	日本の学習指導要領－表現領域「器楽」の指導内容
8	日本の学習指導要領の目標と評価の一体化－中学校を中心に
9	中国の義務課程標準の指導内容の分析
10	日本と中国の音楽教育の比較

11	資料講読1：諸外国の音楽教育の変遷－ゴダーイ・オルフを中心に
12	資料講読2：諸外国の音楽教育の現代の動向
13	プレゼンテーション2：諸外国の音楽教育－鑑賞教育
14	プレゼンテーション2：諸外国の音楽教育－鑑賞教育

15	前期総括
授業計画	
	［後期］今日における音楽教育学の諸問題
1	後期ガイダンス
2	人と音楽に関する音楽教育学

3	学校教育と音楽教育学
4	社会教育・生涯学習と音楽教育学
5	情報化社会と音楽教育学
6	文化史と音楽教育学

7	音楽教育の理論と実践について
8	研究倫理について
9	音楽教育学における調査研究について
10	音楽教育学における文献研究について

11	音楽教育学における観察研究について
12	演奏(歌唱・器楽)に関する授業づくり研究
13	創作に関する授業づくり研究
14	鑑賞に関する授業づくり研究

15	後期総括

科目名	音楽教育学演習II 月3 [YU JIEHUI]　金井公美子クラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	IE1415A0	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	「音楽教育学演習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：各自の研究テーマに基づいた修士論文の執筆
目標：修士論文の完成

2. 授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、担当教員の個人指導のもとに進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。少ないときで2時間ほど、多いときで総計10時間ほどに及ぶことが想定される。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

基準として、授業（中間発表を含む）の参加態度を成績評価の50%、修士論文の出来を成績評価の50%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『レポート・論文のまとめ方』新田誠吾 2019 すばる社

その他、各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案

3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定

7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出

11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討

15	前期の総括及び中間発表の準備
授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表

3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成１　序論

7	論文作成２　第1章作成
8	論文作成３　第1章推敲
9	論文作成４　第2章作成
10	論文作成５　第2章推敲

11	論文作成６　第3章作成
12	論文作成７　第3章推敲
13	論文作成８　結論
14	論文の仕上げと見直し

15	論文要旨作成

科目名	音楽教育学演習II 金2 [JIN YUHUI]　董芳勝クラス						
代表教員	董　芳勝	授業コード	IE1415B0	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	「音楽教育学演習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：各自の研究テーマに基づいた修士論文の執筆
目標：修士論文の完成

2. 授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、担当教員の個人指導のもとに進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。少ないときで2時間ほど、多いときで総計10時間ほどに及ぶことが想定される。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

基準として、授業（中間発表を含む）の参加態度を成績評価の50%、修士論文の出来を成績評価の50%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『レポート・論文のまとめ方』新田誠吾 2019 すばる社

その他、各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案

3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定

7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出

11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討

15	前期の総括及び中間発表の準備
授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表

3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成１　序論

7	論文作成２　第1章作成
8	論文作成３　第1章推敲
9	論文作成４　第2章作成
10	論文作成５　第2章推敲

11	論文作成６　第3章作成
12	論文作成７　第3章推敲
13	論文作成８　結論
14	論文の仕上げと見直し

15	論文要旨作成

科目名	音楽教育学演習II 土4 [WU SHIYU]　三道ひかりクラス						
代表教員	三道　ひかり	授業コード	IE1415C0	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	「音楽教育学演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：各自の研究テーマに基づいた修士論文の執筆
目標：修士論文の完成

２．授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、担当教員の個人指導のもとに進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。少ないときで2時間ほど、多いときで総計10時間ほどに及ぶことが想定される。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

基準として、授業（中間発表を含む）の参加態度を成績評価の50%、修士論文の出来を成績評価の50%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『レポート・論文のまとめ方』新田誠吾 2019 すばる社

その他、各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案

3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定

7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出

11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討

15	前期の総括及び中間発表の準備
授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表

3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成１　序論

7	論文作成２　第1章作成
8	論文作成３　第1章推敲
9	論文作成４　第2章作成
10	論文作成５　第2章推敲

11	論文作成６　第3章作成
12	論文作成７　第3章推敲
13	論文作成８　結論
14	論文の仕上げと見直し

15	論文要旨作成

科目名	音楽教育学演習II 木3 [CHEN ITING]　佐藤昌弘クラス						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE1415DO	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	「音楽教育学演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：各自の研究テーマに基づいた修士論文の執筆
目標：修士論文の完成

２．授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、担当教員の個人指導のもとに進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。少ないときで2時間ほど、多いときで総計10時間ほどに及ぶことが想定される。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

基準として、授業（中間発表を含む）の参加態度を成績評価の50%、修士論文の出来を成績評価の50%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『レポート・論文のまとめ方』新田誠吾 2019 すばる社

その他、各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案

3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定

7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出

11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討

15	前期の総括及び中間発表の準備
授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表

3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成１　序論

7	論文作成２　第1章作成
8	論文作成３　第1章推敲
9	論文作成４　第2章作成
10	論文作成５　第2章推敲

11	論文作成６　第3章作成
12	論文作成７　第3章推敲
13	論文作成８　結論
14	論文の仕上げと見直し

15	論文要旨作成

科目名	音楽教育学演習II 木3 [CHEN YUE]　味府美香クラス						
代表教員	味府　美香	授業コード	IE1415EO	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	「音楽教育学演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：各自の研究テーマに基づいた修士論文の執筆
目標：修士論文の完成

２．授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、担当教員の個人指導のもとに進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。少ないときで2時間ほど、多いときで総計10時間ほどに及ぶことが想定される。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

基準として、授業（中間発表を含む）の参加態度を成績評価の50%、修士論文の出来を成績評価の50%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『レポート・論文のまとめ方』新田誠吾 2019 すばる社

その他、各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案

3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定

7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出

11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討

15	前期の総括及び中間発表の準備
授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表

3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成１　序論

7	論文作成２　第1章作成
8	論文作成３　第1章推敲
9	論文作成４　第2章作成
10	論文作成５　第2章推敲

11	論文作成６　第3章作成
12	論文作成７　第3章推敲
13	論文作成８　結論
14	論文の仕上げと見直し

15	論文要旨作成

科目名	音楽教育学演習II 火5 [BI WENQI]　駒﨑達也クラス						
代表教員	駒﨑　達也	授業コード	IE1415FO	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	「音楽教育学演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：各自の研究テーマに基づいた修士論文の執筆
目標：修士論文の完成

２．授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、担当教員の個人指導のもとに進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。少ないときで2時間ほど、多いときで総計10時間ほどに及ぶことが想定される。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

基準として、授業（中間発表を含む）の参加態度を成績評価の50%、修士論文の出来を成績評価の50%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『レポート・論文のまとめ方』新田誠吾 2019 すばる社

その他、各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案

3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定

7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出

11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討

15	前期の総括及び中間発表の準備
授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表

3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成１　序論

7	論文作成２　第1章作成
8	論文作成３　第1章推敲
9	論文作成４　第2章作成
10	論文作成５　第2章推敲

11	論文作成６　第3章作成
12	論文作成７　第3章推敲
13	論文作成８　結論
14	論文の仕上げと見直し

15	論文要旨作成

科目名	音楽教育学演習II 金1 [LI SU]　木下晶子クラス						
代表教員	木下　晶子	授業コード	IE1415G0	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	「音楽教育学演習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

主題：各自の研究テーマに基づいた修士論文の執筆
目標：修士論文の完成

2．授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、担当教員の個人指導のもとに進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。少ないときで2時間ほど、多いときで総計10時間ほどに及ぶことが想定される。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

基準として、授業（中間発表を含む）の参加態度を成績評価の50%、修士論文の出来を成績評価の50%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『レポート・論文のまとめ方』新田誠吾 2019 すばる社

その他、各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案

3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定

7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出

11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討

15	前期の総括及び中間発表の準備
授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表

3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成１　序論

7	論文作成２　第1章作成
8	論文作成３　第1章推敲
9	論文作成４　第2章作成
10	論文作成５　第2章推敲

11	論文作成６　第3章作成
12	論文作成７　第3章推敲
13	論文作成８　結論
14	論文の仕上げと見直し

15	論文要旨作成

科目名	音楽表現研究Ⅰ ［金4］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE144000	科目コード	IE1440	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：作編曲法の基礎
到達目標：音楽教育学の音楽表現領域に必要とされる作編曲法の知識と技能を習得

２．授業概要

前期：簡単なメロディの作曲、和声と形式の基礎

後期：歌とピアノ曲の作曲を中心に

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：各回の学習範囲について予備知識を調べ、確認する。約1時間の所要時間が想定される。
復習：授業で学習した事柄について要点をまとめ、課題を作成する。約2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（70%）
提出課題の評価（30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
オリジナルのスライドを毎回使用、配付
参考文献：
ヤマハ新総合音楽講座5『コード進行法』1990
『新実徳英の作曲入門』新実徳英著 2010音楽之友社
『8小節から始める曲作りの方法50』藤原豊 植田彰著 2010 リットー・ミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	前期：簡単なメロディの作曲、和声と形式の基礎
1	前期ガイダンス
2	和音の種類、既成曲のメロディの分析

3	8小節のメロディの作り方①モティーフの活用
4	8小節のメロディの作り方②フレージングについて
5	二部形式について
6	三部形式について

7	三和音とカデンツ
8	三和音の第1転回形
9	三和音の第2転回形
10	属七の和音

11	長七の和音と短七の和音
12	コードパターン
13	借用和音
14	非和声音

15	前期総括
授業計画	
	後期：歌とピアノ曲の作曲を中心に
1	後期ガイダンス
2	転調について

3	伴奏の書法
4	伴奏付けの実際
5	対旋律について
6	歌の作曲法

7	歌の伴奏の作り方
8	変奏曲形式について
9	変奏曲の作曲
10	複合三部形式について

11	複合三部形式のピアノ曲の作曲①主部の作り方
12	複合三部形式のピアノ曲の作曲②中間部の作り方
13	複合三部形式のピアノ曲の作曲③再現部とコーダの作り方
14	任意の形式によるピアノ曲の作曲

15	後期総括

科目名	音楽表現研究II ［金4］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE144500	科目コード	IE1445	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：作編曲法の基礎
到達目標：音楽教育学の音楽表現領域に必要とされる作編曲法の知識と技能を習得

２．授業概要

前期：簡単なメロディの作曲、和声と形式の基礎

後期：歌とピアノ曲の作曲を中心に

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：各回の学習範囲について予備知識を調べ、確認する。約1時間の所要時間が想定される。
復習：授業で学習した事柄について要点をまとめ、課題を作成する。約2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（70%）
提出課題の評価（30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
オリジナルのスライドを毎回使用、配付
参考文献：
ヤマハ新総合音楽講座5『コード進行法』1990
『新実徳英の作曲入門』新実徳英著 2010音楽之友社
『8小節から始める曲作りの方法50』藤原豊 植田彰著 2010 リットー・ミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	前期：簡単なメロディの作曲、和声と形式の基礎
1	前期ガイダンス
2	和音の種類、既成曲のメロディの分析

3	8小節のメロディの作り方①モティーフの活用
4	8小節のメロディの作り方②フレージングについて
5	二部形式について
6	三部形式について

7	三和音とカデンツ
8	三和音の第1転回形
9	三和音の第2転回形
10	属七の和音

11	長七の和音と短七の和音
12	コードパターン
13	借用和音
14	非和声音

15	前期総括
授業計画	
	後期：歌とピアノ曲の作曲を中心に
1	後期ガイダンス
2	転調について

3	伴奏の書法
4	伴奏付けの実際
5	対旋律について
6	歌の作曲法

7	歌の伴奏の作り方
8	変奏曲形式について
9	変奏曲の作曲
10	複合三部形式について

11	複合三部形式のピアノ曲の作曲①主部の作り方
12	複合三部形式のピアノ曲の作曲②中間部の作り方
13	複合三部形式のピアノ曲の作曲③再現部とコーダの作り方
14	任意の形式によるピアノ曲の作曲

15	後期総括

科目名	副論文作成研究						
代表教員	那須田　務	授業コード	IE206000	科目コード	IE2060	期間	通年
担当教員	西釋　英里香、越懸澤　麻衣						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全（MP除く）			科目分類	専門選択		
前提科目	1年次の専門必修科目						
教員免許状							

1．主題・到達目標

主題：各自のテーマに基づいた研究とその成果を取りまとめる。

目標：副論文を作成する。

2．授業概要

今年度は基本的に対面形式で行うが、新型コロナウィルス感染状況によっては遠隔授業の可能性もある。各自の演奏や作品の理論的裏付けとなる根拠や考察を、個人指導を通じて、論文の形でまとめる。優れた演奏・作品には理論に裏付けされた優れた洞察がその根底にあることを常に意識して研究を進め、質の高い論文の完成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、論文執筆等々、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

授業（中間発表を含む）への参加態度（３０％）
論文（７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自のテーマに応じて随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
論文はワードプロセッサーで作成する。論文としての書式・ルールで作成するため、それらに対応できるよう準備し心がけること。 なお、一年次に「作品研究法」「楽曲分析法」を履修できなかった人は、今年度併せて履修することが望ましい。

授業計画	
	［前期］ ただし、実際の進め方については、それぞれの状況が異なるので、詳細は指導教員と相談すること。
1	オリエンテーション
2	テーマ探求１　基本

3	テーマ探求２　応用
4	テーマの決定と研究計画立案
5	研究計画立案
6	資料・文献の探索と収集１　基本

7	資料・文献の探索と収集２　応用
8	資料・文献の探索と収集３　発展
9	資料・文献の探索と収集４　確認
10	資料・文献からのデータ抽出１　基本

11	資料・文献からのデータ抽出２　応用
12	資料・文献からのデータ抽出３　発展
13	資料・文献からのデータ抽出４　確認
14	研究テーマと計画の調整

15	中間発表の準備
授業計画	
	［後期］
1	中間発表の要旨作成　前半
2	中間発表の要旨作成　後半

3	中間発表（公開）
4	論文作成（必要な資料・文献の追加）１　基本
5	論文作成（必要な資料・文献の追加）２　応用
6	論文作成（必要な資料・文献の追加）３　発展

7	論文作成（必要な資料・文献の追加）４　確認
8	論文作成１　基本
9	論文作成２　応用
10	論文作成３　発展

11	論文作成４　確認
12	論文作成５　まとめ
13	論文提出後の見直し１　前半
14	論文提出後の見直し２　後半

15	大学保存用論文の仕上げ

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究１　［水3］山下ゼミ						
代表教員	山下　康介	授業コード	IE2631A0	科目コード	IE2631	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座では下記の３分野にクラス分けを行い、それぞれ実践的かつ専門性の高い制作技術や知識を学び作品を創作する。
創作制作研究（レッスン）と並びカリキュラムの軸となる講座のため院1年次に必ず履修すること。
・劇伴音楽・ゲーム音楽（担当教員：山下康介）
・ヴォーカル曲・ポップス（担当教員：上倉紀行）
・電子音楽・サウンドデザイン（担当教員：森威功）
また、その成果を他者と共有しディスカッションを繰り返すことによって、院生として研究を進めるために不可欠な分析能力やリサーチ能力、言語化能力、プレゼンテーション能力を総合的に養うことを目標とする。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、感染状況により対面および遠隔授業を適宜判断し実施する。
本講座はゼミ形式で実施するため、各々の研究テーマに沿って創作および文献の調査等を自主的に行い、積極的に授業に参加することが求められる。各回の授業は下記の内容を複合的に組み合わせて実施する。
・担当教員またはゲストによるレクチャー
・学生による研究報告と作品発表
・レコーディング
・グループワーク
詳細については、初回のガイダンスで担当教員に確認すること。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レクチャーで紹介された作品の視聴や研究報告および作品発表の準備などを週3時間程度行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（研究報告や作品発表を含む）：７０％
課題提出：３０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

クラス別に必要に応じて配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
音楽・音響デザインコースの院1年生のみを対象とし、各々コースより指定されたクラスを受講すること。他クラスの聴講や院２年生の聴講は認めない。 また、クラス分けはレッスン配当調査アンケートの回答と入試の成績、面談の内容を加味して決定する。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス：授業の進め方と年間計画の説明など
2	レクチャー：映画音楽の歴史と変遷

3	レクチャー：映画音楽の思想と理念
4	レクチャー：映画音楽の楽曲分析
5	研究報告会（映画音楽）
6	レコーディング実習（録音：映画音楽）

7	レコーディング実習（ミックスダウン：映画音楽）
8	前期中間発表会
9	レクチャー：ゲーム音楽の歴史と変遷
10	レクチャー：ゲーム音楽のスタイルや制作手法の変遷について

11	レクチャー：ゲーム音楽の楽曲分析
12	研究報告（ゲーム音楽）
13	レコーディング実習（録音：ゲーム音楽）
14	レコーディング実習（ミックスダウン：ゲーム音楽）

15	前期作品講評会
授業計画	
	［後期］
1	研究報告会（夏期課題）
2	レクチャー：ヴォーカル曲を中心としたポピュラー音楽の歴史と変遷

3	レクチャー：ポピュラー音楽のスタイルや制作手法の変遷について
4	レクチャー：ポピュラー音楽の楽曲分析
5	研究報告会（ポピュラー音楽）
6	レコーディング実習（録音：ポピュラー音楽）

7	レコーディング実習（ミックスダウン：ポピュラー音楽）
8	後期中間発表会
9	レクチャー：電子音響音楽の歴史と変遷
10	レクチャー：電子音響音楽のスタイルや制作手法の変遷について

11	レクチャー：電子音響音楽の楽曲分析
12	研究報告会（電子音響音楽）
13	レコーディング実習（録音：電子音響音楽）
14	レコーディング実習（ミックスダウン：電子音響音楽）

15	後期作品講評会

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究１　［火4］上倉ゼミ						
代表教員	上倉　紀行	授業コード	IE2631B0	科目コード	IE2631	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座では下記の３分野にクラス分けを行い、それぞれ実践的かつ専門性の高い制作技術や知識を学び作品を創作する。
創作制作研究（レッスン）と並びカリキュラムの軸となる講座のため院1年次に必ず履修すること。
・劇伴音楽・ゲーム音楽（担当教員：山下康介）
・ヴォーカル曲・ポップス（担当教員：上倉紀行）
・電子音楽・サウンドデザイン（担当教員：森威功）
また、その成果を他者と共有しディスカッションを繰り返すことによって、院生として研究を進めるために不可欠な分析能力やリサーチ能力、言語化能力、プレゼンテーション能力を総合的に養うことを目標とする。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、感染状況により対面および遠隔授業を適宜判断し実施する。
本講座はゼミ形式で実施するため、各々の研究テーマに沿って創作および文献の調査等を自主的に行い、積極的に授業に参加することが求められる。各回の授業は下記の内容を複合的に組み合わせて実施する。
・担当教員またはゲストによるレクチャー
・学生による研究報告と作品発表
・レコーディング
・グループワーク
詳細については、初回のガイダンスで担当教員に確認すること。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レクチャーで紹介された作品の視聴や研究報告および作品発表の準備などを週3時間程度行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（研究報告や作品発表を含む）：７０％
課題提出：３０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

クラス別に必要に応じて配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
音楽・音響デザインコースの院1年生のみを対象とし、各々コースより指定されたクラスを受講すること。他クラスの聴講や院２年生の聴講は認めない。 また、クラス分けはレッスン配当調査アンケートの回答と入試の成績、面談の内容を加味して決定する。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス：授業の進め方と年間計画の説明など
2	レクチャー：映画音楽の歴史と変遷

3	レクチャー：映画音楽の思想と理念
4	レクチャー：映画音楽の楽曲分析
5	研究報告会（映画音楽）
6	レコーディング実習（録音：映画音楽）

7	レコーディング実習（ミックスダウン：映画音楽）
8	前期中間発表会
9	レクチャー：ゲーム音楽の歴史と変遷
10	レクチャー：ゲーム音楽のスタイルや制作手法の変遷について

11	レクチャー：ゲーム音楽の楽曲分析
12	研究報告（ゲーム音楽）
13	レコーディング実習（録音：ゲーム音楽）
14	レコーディング実習（ミックスダウン：ゲーム音楽）

15	前期作品講評会
授業計画	
	［後期］
1	研究報告会（夏期課題）
2	レクチャー：ヴォーカル曲を中心としたポピュラー音楽の歴史と変遷

3	レクチャー：ポピュラー音楽のスタイルや制作手法の変遷について
4	レクチャー：ポピュラー音楽の楽曲分析
5	研究報告会（ポピュラー音楽）
6	レコーディング実習（録音：ポピュラー音楽）

7	レコーディング実習（ミックスダウン：ポピュラー音楽）
8	後期中間発表会
9	レクチャー：電子音響音楽の歴史と変遷
10	レクチャー：電子音響音楽のスタイルや制作手法の変遷について

11	レクチャー：電子音響音楽の楽曲分析
12	研究報告会（電子音響音楽）
13	レコーディング実習（録音：電子音響音楽）
14	レコーディング実習（ミックスダウン：電子音響音楽）

15	後期作品講評会

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究２　［木5］						
代表教員	栗山　和樹	授業コード	IE263200	科目コード	IE2632	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択		
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

フィルムスコア特殊研究を主題とし、映画音楽作曲家作品研究を行い、フィルムスコアリングの技法を学びます。

２．授業概要

近年の映画音楽界を代表する作家の作品を、専門的に研究考察する方法を身につけ、作品創作する技能を身につけます。
秋季には課題として作曲した作品を映像にあわせ、自ら指揮しレコーディングする実習を行います（授業内で選抜された学生のみ）。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

取り上げる作曲家については、必ず事前に代表的な音楽を聴いておいてください。
また復習として、授業で得た内容を整理、ファイリングしておくことを推奨します。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
「研究内容が大学院生研究レベルにあるかどうか」を評価の基準とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「映画音楽の技法」音楽之友社　ISBNコード：978-4-276-10618-5
授業内で使用するので必ず購入すること

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
以下を履修条件とします。 教養としての映画音楽研究を目指す方ではなく、映画音楽作家を目指す方々を対象に講義を展開します。 そのため、学部レベルの管弦楽法、和声法の知識を有する者とします。

授業計画	
	前期は、ジェームス・ニュートン・ハワードの作品を中心に映画音楽を分析、研究する。
1	映画音楽の分類
2	映画音楽制作のプロセス

3	映画音楽メディア解説
4	転調について
5	映画音楽の理論的配置と実作視聴
6	アメリカ映画の音楽目的分析前半

7	アメリカ映画分析中盤 ）
8	アメリカ映画分析後半
9	音楽を配置する場所、しない場所
10	映画音楽目的分析課題実施

11	提出課題制作
12	映画音楽のスタート／ストップ
13	選曲によるスポッティング実施
14	スポッティング実施提出

15	前期内容のまとめと講評
授業計画	
	映画音楽の作曲技法を学ぶ
1	スポッティング
2	主体的音楽「設定」について

3	主体的音楽「心理表現」
4	旋律作法
5	小段落の音楽
6	トランジション

7	主体的音楽「動的変化」
8	UnderDialogue
9	感情を揺さぶる音楽
10	Music Effect

11	支援的表現音楽
12	性格を描く音楽
13	連続的変化する心理を描く
14	迫力ある音楽

15	後期内容のまとめと講評

科目名	ライヴ・エレクトロニクス研究１　［火3］森ゼミ						
代表教員	森　威功	授業コード	IE264100	科目コード	IE2641	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

サウンド制作の基礎であるアナログ減算合成方式からFFT分析・再合成など高度な音声信号処理技術まで包括的に学ぶ。さらに、これらの技術が映画音楽や電子音響音楽の制作で同様に活用されているかを研究しサウンドデザインについての理解を深める。

２．授業概要

前期：アナログ減算合成方式の実習、　Maxの基本的なプログラミング手法を学び、様々な音合成、音響処理モジュールを制作する。

後期：高度な音響処理技術の習得、各々の方向性に基づいた作品を制作し授業内もしくは学内での演奏会で発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の６０％）　平常点（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。

参考文献：

『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版

『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］
1	アナログ減算合成１（音色の三要素）
2	アナログ減算合成２（モジュレーション）

3	前期作品発表
4	Maxプログラミングの基礎
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（加算合成、減算合成）
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（変調合成）

7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（グラニュラ合成）
10	シグナル・ルーティングとGUI制作

11	音声入力分析１（基礎）
12	音声入力分析２（応用）
13	プログラミング実習１（基礎）
14	プログラミング実習２（応用）

15	前期作品発表とまとめ
授業計画	
	［後期］
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎

3	FFT応用
4	FFT（実用的な活用）
5	Jitter objectを用いた映像処理１　（準備）
6	Jitter objectを用いた映像処理２（　ムービーの再生関連）

7	Jitter objectを用いた映像処理3（マトリックス処理）
8	Jitter objectを用いた映像処理4（画像の加工）
9	Jitter objectを用いた映像処理5（画像の合成、描画）
10	企画発表

11	制作実習１（企画）
12	制作実習２（各インターフェイスの作成）
13	制作実習３（パッチのくみ上げ）
14	制作実習４（デバック作業）

15	後期作品発表と総括

科目名	ライヴ・エレクトロニクス研究２　［火4］						
代表教員	森　威功	授業コード	IE264200	科目コード	IE2642	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

サウンド制作の基礎であるアナログ減算合成方式からFFT分析・再合成など高度な音声信号処理技術まで包括的に学ぶ。さらに、これらの技術が映画音楽や電子音響音楽の制作で同様に活用されているかを研究しサウンドデザインについての理解を深める。

２．授業概要

前期：アナログ減算合成方式の実習、　Maxの基本的なプログラミング手法を学び、様々な音合成、音響処理モジュールを制作する。

後期：高度な音響処理技術の習得、各々の方向性に基づいた作品を制作し授業内もしくは学内での演奏会で発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の６０％）　平常点（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。

参考文献：

『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版

『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］
1	アナログ減算合成１（音色の三要素）
2	アナログ減算合成２（モジュレーション）

3	前期作品発表
4	Maxプログラミングの基礎
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（加算合成、減算合成）
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（変調合成）

7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（グラニュラ合成）
10	シグナル・ルーティングとGUI制作

11	音声入力分析１（基礎）
12	音声入力分析２（応用）
13	プログラミング実習１（基礎）
14	プログラミング実習２（応用）

15	前期作品発表とまとめ
授業計画	
	［後期］
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎

3	FFT応用
4	FFT（実用的な活用）
5	Jitter objectを用いた映像処理１　（準備）
6	Jitter objectを用いた映像処理２（　ムービーの再生関連）

7	Jitter objectを用いた映像処理3（マトリックス処理）
8	Jitter objectを用いた映像処理4（画像の加工）
9	Jitter objectを用いた映像処理5（画像の合成、描画）
10	企画発表

11	制作実習１（企画）
12	制作実習２（各インターフェイスの作成）
13	制作実習３（パッチのくみ上げ）
14	制作実習４（デバック作業）

15	後期作品発表と総括

科目名	デジタル・オーケストレーション研究１　[火5]						
代表教員	森　威功	授業コード	IE265100	科目コード	IE2651	期間	通年
担当教員	鹿野　草平						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択		
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の音楽制作の工程は以前よりもシンプルであるが、生楽器の録音を伴う作業は基本的に変わっていない。
この講座では、各教員の講義を参考にしながら、実際の音楽制作の流れを体験することにより、学生は音楽制作に必要な知識とスキルを得ることができる。

２．授業概要

原則、対面授業の実施を予定していますが、新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業とする場合があります。

この講座は各教員による講義・実習を通して実際の作品を制作する。　更にその作品をプロの演奏家により録音して作品を完成させる 、一連のミュージック・プロダクションを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義における課題曲の楽曲分析は事前に済ませておくこと。
録音した楽曲は、各自のスコアと照らし合わせ、録音時に生じた相違点は修正しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
（指導教員が、履修者個々の指向性・研究過程・研究成果を総合的に考慮して、成績評価を決定する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修に際しては以下の条件を満たすこと。 １、コンピュータ、MIDI、デジタルオーディオに関する基本的な知識を持っていること。 ２、スコア、パート譜が作成できること。

授業計画	
	［前期］ 各教員の講義を受け、デジタルオーケストレーションの作品の参考とする。
1	ガイダンス（講座概要）
2	デジタルオーケストレーション作品制作概論

3	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（音楽論）
4	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
5	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
6	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（制作論）

7	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（音楽論）
8	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
9	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
10	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（制作論）

11	作品制作
12	作品制作指導
13	デジタルオーケストレーション作品発表
14	デジタルオーケストレーション作品発表と講評

15	前期まとめと総評
授業計画	
	［後期］ 実際のプロダクションの流れに従いながら録音まで体験する。
1	後期ガイダンス（講座概要）
2	山下康介 ミュージックプロダクション（音楽論）

3	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
4	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
5	山下康介 ミュージックプロダクション（制作論）
6	各自実習用作品の準備（作品の構想）

7	作品指導（スコアの確認）
8	作品指導（パート譜の確認）
9	作品のレコーディング（前半）
10	作品のレコーディング(後半)

11	録音した作品のミックス作業
12	録音した作品のミックス作業（マスタリング）
13	作品発表
14	作品発表会の講評

15	後期まとめと総評

科目名	デジタル・オーケストレーション研究２　［火5］						
代表教員	森　威功	授業コード	IE265200	科目コード	IE2652	期間	通年
担当教員	鹿野　草平						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択		
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の音楽制作の工程は以前よりもシンプルであるが、生楽器の録音を伴う作業は基本的に変わっていない。
この講座では、各教員の講義を参考にしながら、実際の音楽制作の流れを体験することにより、学生は音楽制作に必要な知識とスキルを得ることができる。

２．授業概要

原則、対面授業の実施を予定していますが、新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業とする場合があります。

この講座は各教員による講義・実習を通して実際の作品を制作する。　更にその作品をプロの演奏家により録音して作品を完成させる 、一連のミュージック・プロダクションを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義における課題曲の楽曲分析は事前に済ませておくこと。
録音した楽曲は、各自のスコアと照らし合わせ、録音時に生じた相違点は修正しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
（指導教員が、履修者個々の指向性・研究過程・研究成果を総合的に考慮して、成績評価を決定する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修に際しては以下の条件を満たすこと。 １、コンピュータ、MIDI、デジタルオーディオに関する基本的な知識を持っていること。 ２、スコア、パート譜が作成できること。

授業計画	
	［前期］ 各教員の講義を受け、デジタルオーケストレーションの作品の参考とする。
1	ガイダンス（講座概要）
2	デジタルオーケストレーション作品制作概論

3	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（音楽論）
4	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
5	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
6	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（制作論）

7	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（音楽論）
8	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
9	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
10	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（制作論）

11	作品制作
12	作品制作指導
13	デジタルオーケストレーション作品発表
14	デジタルオーケストレーション作品発表と講評

15	前期まとめと総評
授業計画	
	［後期］ 実際のプロダクションの流れに従いながら録音まで体験する。
1	後期ガイダンス（講座概要）
2	山下康介 ミュージックプロダクション（音楽論）

3	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
4	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
5	山下康介 ミュージックプロダクション（制作論）
6	各自実習用作品の準備（作品の構想）

7	作品指導（スコアの確認）
8	作品指導（パート譜の確認）
9	作品のレコーディング（前半）
10	作品のレコーディング(後半)

11	録音した作品のミックス作業
12	録音した作品のミックス作業（マスタリング）
13	作品発表
14	作品発表会

15	後期まとめと総評

科目名	録音・音響特殊研究１　[木2]						
代表教員	徳永　宏	授業コード	IE266100	科目コード	IE2661	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

サウンドレコーディングの基礎から応用まで、作品制作を交えながら習得。
そして現代の録音は多様化した各種メディアに最適化する必要性が求められます。
各種楽器やDAW音源の収音、編集、ミキシングなどすべての行程においてそれを意識する事を理解します。

２．授業概要

1：録音に於ける基本技術の安定的運用法を学ぶ。
2：各種録音技術を実践し個人作品の発表などに用いる素材の収音、編集ミックスを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

1：参考書、配布テキストによる予習。
2：授業内で録音した素材の編集、調整を各自のDAW内で研究する。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の60%）平常点（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献
「サウンドレコーディング技術概論」一般社団法人　日本音楽スタジオ協会

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］
1	録音プロセス概要：基礎
2	音響基礎：音の性質、デシベルと音圧レベル

3	音響基礎：楽器の音響的な性質
4	録音基礎：モノーラル～ステレオフォニック収音
5	編集基礎：録音物の時間的編集
6	イコライゼーション、音質概要

7	ダイナミクス、音量管理概要
8	電気音響基礎：電気の基礎と基本回路
9	DAW音源の扱い方
10	オーケストラ収音概説

11	ミックスダウンテクニック：残響付加
12	ミックダウンテクニック：特殊表現
13	聴覚の周波数特性、ラウドネス等価について
14	マスタリング行程の有効性について

15	後期にむけての作品制作概要
授業計画	
	［後期］
1	録音プロセス概要：応用的な録音行程とは
2	録音実習：録音計画書の記し方 （プランニング基礎）

3	電気音響基礎：オーディオ回路
4	録音実習：ピアノ
5	電気音響基礎：デジタル技術の基礎
6	録音実習：ヴォーカル

7	サラウンド技術の基礎：5.1サラウンド
8	録音実習：弦楽器
9	各種録音フォーマット
10	録音実習：管楽器

11	編集基礎：録音物の音程編集
12	録音実習：各種合奏
13	各種メディアに対するミックスの考え方及び具体的手法
14	録音実習：効果音など様々な音源に対してにのアプローチ

15	作品発表と総括

科目名	録音・音響特殊研究２　［木4］						
代表教員	徳永　宏	授業コード	IE266200	科目コード	IE2662	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

サウンドレコーディングの基礎から応用まで、作品制作を交えながら習得。
そして現代の録音は多様化した各種メディアに最適化する必要性が求められます。
各種楽器やDAW音源の収音、編集、ミキシングなどすべての行程においてそれを意識する事を理解します。

２．授業概要

1：録音に於ける基本技術の安定的運用法を学ぶ。
2：各種録音技術を実践し個人作品の発表などに用いる素材の収音、編集ミックスを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

1：参考書、配布テキストによる予習。
2：授業内で録音した素材の編集、調整を各自のDAW内で研究する。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の60%）平常点（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献
「サウンドレコーディング技術概論」一般社団法人　日本音楽スタジオ協会

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］
1	録音プロセス概要：基礎
2	音響基礎：音の性質、デシベルと音圧レベル

3	音響基礎：楽器の音響的な性質
4	録音基礎：モノーラル～ステレオフォニック収音
5	編集基礎：録音物の時間的編集
6	イコライゼーション、音質概要

7	ダイナミクス、音量管理概要
8	電気音響基礎：電気の基礎と基本回路
9	DAW音源の扱い方
10	オーケストラ収音概説

11	ミックスダウンテクニック：残響付加
12	ミックダウンテクニック：特殊表現
13	聴覚の周波数特性、ラウドネス等価について
14	マスタリング行程の有効性について

15	後期にむけての作品制作概要
授業計画	
	［後期］
1	録音プロセス概要：応用的な録音行程とは
2	録音実習：録音計画書の記し方 （プランニング基礎）

3	電気音響基礎：オーディオ回路
4	録音実習：ピアノ
5	電気音響基礎：デジタル技術の基礎
6	録音実習：ヴォーカル

7	サラウンド技術の基礎：5.1サラウンド
8	録音実習：弦楽器
9	各種録音フォーマット
10	録音実習：管楽器

11	編集基礎：録音物の音程編集
12	録音実習：各種合奏
13	各種メディアに対するミックスの考え方及び具体的手法
14	録音実習：効果音など様々な音源に対してにのアプローチ

15	作品発表と総括

科目名	映像特殊研究１　[木3]						
代表教員	山田　剛志	授業コード	IE267100	科目コード	IE2671	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

当授業では、いわゆる通常の映像制作ではなく、インタラクティブ（双方向的）な特性を持った映像の仕組みや考え方の習得を目指す。最終的には、自身の目指す映像と音の表現を実現するための、アイディアの出し方やプロトタイプ制作の研究をすることが目的である。

２．授業概要

学習効果を上げるために、対面とオンライン（オンデマンド）形式を交えながら授業を実施する。オンライン授業の詳細は第1回授業で説明する。

前期では一般的な映像の制作方法を概観し、インタラクティブな映像制作の概要について学習する。後期では作品の表現を実現するための複合的なツールの使い方、考え方、制作方法の習得を目指す。限られた時間で創作するため、効率的な作業計画、実施に努めること。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

PCの基本操作、各アプリケーションの基本的な使用方法は、事前に予習しておくこと。予習には、最低30分程度時間がかかることが想定される。

・PCの基本操作10分程度
・各アプリケーションの基本的な使用方法20分程度

主に使用するソフトウェア：Unity, MAYA
また、復習には40分程度と想定。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み40%　作品への取り組み60%、
期末の作品提出が必須となります。自身でスケジュールを管理の上、制作に必要な時間の確保をすること。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

※参考文献（進行具合に寄って変更する可能性があります）
・Unityの教科書 Unity 2018完全対応版
・Mayaベーシックス　3DCG基礎力育成ブック

その他、指導教員の指示に従い準備すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修希望者が多数の場合は、学年により履修制限をする可能性がある。 必ず初回ガイダンスには参加し、自身の学びたい事との合致の有無を確認すること。 欠席や遅刻等が原因よる授業への遅れは、自身で取り戻す姿勢を持つこと。 成績評価のために、作品の提出を必須とする。

授業計画	
	インタラクティブな映像コンテンツの概要を中心に、演出を交えながらUnityの習得を目指す
1	初回ガイダンス
2	映像制作の基礎1（映像の歴史と概要）

3	映像制作の基礎2（映像の企画、映像と音楽）
4	Uniyの導入
5	Unity基本操作と概要
6	Unityゲーム制作1-1（素材づくり、物理演算）

7	Unityゲーム制作1-2（スクリプト制御）
8	Unityゲーム制作1-3（必要な要素の追加）
9	Unityゲーム制作1-4（音楽を鳴らしてみる）
10	Unityゲーム制作2-1（キャラクターを動かす）

11	Unityゲーム制作2-2（地形を作る）
12	Unityゲーム制作2-3（敵キャラクターを設定）
13	Unityゲーム制作2-4（エフェクトとライトを追加）
14	Unityゲーム制作2-5（ブラッシュアップ）

15	前期のまとめとふりかえり
授業計画	
	簡易な3Dオブジェクトの作成と、表現をしたい世界観の構築のためのワークフローを習得する。最終的には自身で企画を立て、ひとつの作品制作を実践していく。
1	後期初回ガイダンス、MAYAの導入
2	MAYAの基本操作

3	MAYAで簡単なモデリングをしてみよう
4	MAYAでモデリング演習
5	MAYAでのマテリアルとテクスチャ
6	MAYAマテリアルとテクスチャおさらい

7	MAYAでアニメーションをつけてみる
8	MAYAで作った素材をUnityへ読み込む
9	Unityでエフェクトを作ってみる
10	Unityでアニメーションをつける

11	Unityで映像編集をしてみる
12	映像企画についてのおさらい
13	映像企画の実践と作品制作
14	作品制作

15	後期のまとめとふりかえり

科目名	映像特殊研究２　［木3］						
代表教員	山田　剛志	授業コード	IE267200	科目コード	IE2672	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

当授業では、いわゆる通常の映像制作ではなく、インタラクティブ（双方向的）な特性を持った映像の仕組みや考え方の習得を目指す。最終的には、自身の目指す映像と音の表現を実現するための、アイディアの出し方やプロトタイプ制作の研究をすることが目的である。

２．授業概要

学習効果を上げるために、対面とオンライン（オンデマンド）形式を交えながら授業を実施する。オンライン授業の詳細は第1回授業で説明する。

前期では一般的な映像の制作方法を概観し、インタラクティブな映像制作の概要について学習する。後期では作品の表現を実現するための複合的なツールの使い方、考え方、制作方法の習得を目指す。限られた時間で創作するため、効率的な作業計画、実施に努めること。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

PCの基本操作、各アプリケーションの基本的な使用方法は、事前に予習しておくこと。予習には、最低30分程度時間がかかることが想定される。

・PCの基本操作10分程度
・各アプリケーションの基本的な使用方法20分程度

主に使用するソフトウェア：Unity, MAYA
また、復習には40分程度と想定。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み40%　作品への取り組み60%、
期末の作品提出が必須となります。自身でスケジュールを管理の上、制作に必要な時間の確保をすること。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

※参考文献（進行具合に寄って変更する可能性があります）
・Unityの教科書 Unity 2018完全対応版
・Mayaベーシックス　3DCG基礎力育成ブック

その他、指導教員の指示に従い準備すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修希望者が多数の場合は、学年により履修制限をする可能性がある。 必ず初回ガイダンスには参加し、自身の学びたい事との合致の有無を確認すること。 欠席や遅刻等が原因よる授業への遅れは、自身で取り戻す姿勢を持つこと。 成績評価のために、作品の提出を必須とする。

授業計画	
	インタラクティブな映像コンテンツの概要を中心に、演出を交えながらUnityの習得を目指す
1	初回ガイダンス
2	映像制作の基礎1（映像の歴史と概要）

3	映像制作の基礎2（映像の企画、映像と音楽）
4	Uniyの導入
5	Unity基本操作と概要
6	Unityゲーム制作1-1（素材づくり、物理演算）

7	Unityゲーム制作1-2（スクリプト制御）
8	Unityゲーム制作1-3（必要な要素の追加）
9	Unityゲーム制作1-4（音楽を鳴らしてみる）
10	Unityゲーム制作2-1（キャラクターを動かす）

11	Unityゲーム制作2-2（地形を作る）
12	Unityゲーム制作2-3（敵キャラクターを設定）
13	Unityゲーム制作2-4（エフェクトとライトを追加）
14	Unityゲーム制作2-5（ブラッシュアップ）

15	前期のまとめとふりかえり
授業計画	
	簡易な3Dオブジェクトの作成と、表現をしたい世界観の構築のためのワークフローを習得する。最終的には自身で企画を立て、ひとつの作品制作を実践していく。
1	後期初回ガイダンス、MAYAの導入
2	MAYAの基本操作

3	MAYAで簡単なモデリングをしてみよう
4	MAYAでモデリング演習
5	MAYAでのマテリアルとテクスチャ
6	MAYAマテリアルとテクスチャおさらい

7	MAYAでアニメーションをつけてみる
8	MAYAで作った素材をUnityへ読み込む
9	Unityでエフェクトを作ってみる
10	Unityでアニメーションをつける

11	Unityで映像編集をしてみる
12	映像企画についてのおさらい
13	映像企画の実践と作品制作
14	作品制作

15	後期のまとめとふりかえり

科目名	作曲法特殊研究１　［月3］（作曲）						
代表教員	井上　渚	授業コード	IE2701A0	科目コード	IE2701	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲法には古今様々なスタイルが存在するが、本授業においては特に２０世紀以降の作曲法（和声、対位法、リズム、奏法）に焦点を当て、講義・実作をとおして各々の書法のテクニックを発展向上させることを主題とする。

前期は講義を中心に近代までの作曲法の復習・確認、２０世紀以降の新しい語法の解説など、主に理論面での学修を深めていく。後期はそれぞれの研究テーマに沿ったプレゼンテーション、実作品のスケッチ、小品の作曲を行い、個々の作曲能力、知識のさらなる向上を目指す。

２．授業概要

学生の技量に合わせて目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、プレゼンテーションのための資料の作成など、事前に余裕をもって準備すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声 理論と実習 Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）
『380 BASSES ET CHANTS DONNES 』(H.Challan著／Leduc社刊)
『和声の変遷』（Ch.ケックラン 著・清水脩 訳／音楽之友社）
『音楽言語の技法（我が音楽語法）』（O.Messiaen／yamaha music media）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　各々の目標の設定（研究分野の聞き取り含む）
2	近代までの作曲法の復習・確認 （和声法：バロック～古典派まで）

3	実作品の分析、和声課題の実施 （バロック～古典まで）
4	近代までの作曲法の復習・確認 （和声法：ロマン派～近代まで）
5	実作品の分析、和声課題の実施 （ロマン派～近代まで）
6	近代までの作曲法の復習・確認 （対位法：ルネサンス～バロックまで）

7	実作品の分析、対位法課題の実施 （ルネサンス～バロックまで）
8	近代までの作曲法の復習・確認 （対位法：古典派～近代まで）
9	実作品の分析、対位法課題の実施 （古典派～近代まで）
10	近代までの作曲法の復習・確認 （リズム）

11	近代までの作曲法の復習・確認 （奏法）
12	ジャズの語法
13	ミニマルミュージック
14	現代の作曲技法

15	前期のまとめと講評
授業計画	
	［後期］
1	プレゼンテーションのテーマ決め
2	各研究テーマによるプレゼンテーション

3	各研究テーマによるプレゼンテーション
4	作品のスケッチ・講評
5	各研究テーマによるプレゼンテーション
6	各研究テーマによるプレゼンテーション

7	作品のスケッチ・講評
8	各研究テーマによるプレゼンテーション
9	各研究テーマによるプレゼンテーション
10	作品のスケッチ・講評

11	各研究テーマによるプレゼンテーション
12	各研究テーマによるプレゼンテーション
13	作品のスケッチ・講評
14	研究テーマに基づく小品の発表

15	研究テーマに基づく小品の発表 １年間の総括

科目名	作曲法特殊研究１　［金4］（二胡）						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	IE2701B0	科目コード	IE2701	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	C0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
西洋音楽における五線を用いる記譜法は、今日では 世界に広く浸透し、あらゆる音楽の記譜に用いられる ようになってきた。しかし、五線記譜法は全ての音楽 を書き表すのに適しているというわけではなく、今日 でも各地域の文化、伝統によって独自の記譜法が定着 している楽器や、口伝によって受け継がれている音楽 も存在する。本授業では、①五線記譜法とそれ以外の記譜法の違 いを研究し、相互に書き表す方法を修得すること ② 様々な楽器の奏法やおもに西洋音楽の語法を考察し、各自の専攻へ 応用できるようになることを主題とする。
作曲法特殊研究１では、主に二胡の記譜法と五線記譜法との連携を研究する。西洋音楽の学修の基礎であるソルフェージュ、和声学を取り入れながらさまざまな作品の分析とその演奏解釈の研究を行っていく。
到達目標：
楽典、和声学の知識を修得し、西洋音楽の古典派の音楽の作品を分析できるようにする。またソルフェージュ能力を向上させ、1ページ程度の平易な楽曲を初見で弾けるようにする。

２．授業概要

ソルフェージュ系の学修（聴音、視唱、各自の専攻楽器を用いた初見視奏）と理論系の学修（和声学、楽曲分析）の2つを併せたフォルマシオンミュージュカルの形態で授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：指示した楽曲を聴いておくこと。想定時間は1時間
復習：与えられた課題を実施すること。想定時間は1時間程度。
このほかに日頃より多くの楽譜を書き、それを演奏することで最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

授業参加姿勢50%　授業内課題、レポートでの評価50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『音楽分析基礎講座』（洗足学園音楽大学）
『和声　理論と実習ⅠⅡ』（島岡譲 他共著／音楽之友社）
『楽典』（石桁真礼生 他共著／音楽之友社）
参考文献：
『楽譜の書き方』（平石博一著／東京ハッスルコピー）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］『楽典』の本を用いながら西洋音楽理論の基礎の学修を中心に行う。取り上げる各項目についてフォルマシオンミュージカルの方法を用い、ソルフェージュ、所見視奏の能力の向上をはかる。
1	ガイダンス 西洋音楽の楽譜に関する基本事項の確認
2	記譜の研究１ 二胡の数字譜から西洋の楽譜への変換

3	記譜の研究２ 西洋の楽譜から二胡の数字譜への変換
4	記譜の研究３ 西洋音楽のリズムと拍子
5	音楽理論と実習１ 音程に関する理論の確認および聴音、視唱による学修
6	音楽理論と実習２ 転回音程について

7	音楽理論と実習３ 三和音に関する考察および聴音、視唱による学修
8	音楽理論と実習4 七の和音に関する考察および聴音、視唱による学修
9	音楽理論と実習5 和音の転回形に関する考察および聴音、視唱による学修
10	音楽理論と実習6 音階の研究① 長調、短調の基本事項の確認および聴音、視唱による学修

11	音楽理論と実習7 音階の研究② 調の相互関係についての考察および聴音、視唱による学修
12	音楽理論と実習8 音階の研究③ 移調ぴょび転調の考察
13	音楽理論と実習9 和音の機能に関する考察および聴音、視唱による学修
14	音楽理論と実習10 楽譜における曲想、奏法、装飾音の研究

15	前期の総括と講評
授業計画	
	［後期］ 理論的な学修として、西洋音楽の和声的側面を考察する。本学作成『音楽分析基礎講座』テキストおよび和声ー理論と実習第1巻を中心に進める。また音楽分析基礎講座テキストで取り上げられている各種の作品を用いながら、ソルフェージュ、所見視奏の能力の向上をはかる
1	西洋音楽の和声分析１ 旋律・和音・低音の三要素に関する考察
2	西洋音楽の和声分析２ 様々な楽譜の還元

3	西洋音楽の和声分析３ 非和声音の研究１　経過音、刺繍音、倚音を中心に
4	西洋音楽の和声分析４ 非和声音の研究２　掛留音、先取音、逸音、保続音を中心に
5	西洋音楽の和声分析5 終止形についての考察
6	和声学実習１ 和音の配置について

7	和声学実習２ 基本形の連結１ドミナント→トニックの連結を中心に
8	和声学実習3 基本形の連結2　Ⅱ→Ⅴの連結を中心に
9	和声学実習4 基本形の連結3　　基本形の総括
10	和声学実習5 第1転回形の連結１ ドミナント→トニックの連結を中心に

11	和声学実習6 第1転回形の連結2 Ⅱ、Ⅳを含めた連結を中心に
12	和声学実習7 第1転回形の連結3 第1転回形の総括
13	和声学実習8 第2転回形の連結１ Ⅰの第2転回形の用い方及びその連結方法
14	和声学実習9 第2転回形の連結2 Ⅴ、Ⅳの第2転回形の用い方及びその連結方法

15	後期の総括と講評

科目名	作曲法特殊研究２　［木5］（作曲）						
代表教員	赤石　直哉	授業コード	IE2702A0	科目コード	IE2702	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次に引き続き、様々なスタイルの作曲法を学ぶ。
各様式の作品分析・理論研究を通して、より精緻なスタイル作曲法の習熟を図ることを主題とする。
また、それらを活かした種々の課題作成を行い、将来的に教育現場での活用も視野に入れた実用的な書法も学ぶ。
前期は講義を中心にスケッチを進めていき、後期に各々の選んだスタイルで小品の作品発表（プレゼンテーション）を行う。

２．授業概要

学生の技量に合わせて目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、プレゼンテーションのためのスライド・資料の作成など、事前に余裕をもって準備すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「和声　理論と実習III」（音楽之友社）
「総合和声」（音楽之友社）
「380 BASSES ET CHANTS DONNES」（H.Challan／Leduc社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、スタイル作曲／バロック(1) 作品分析
2	スタイル作曲／バロック(2) 理論研究（コラール）

3	スタイル作曲／バロック(3) モティーフのスケッチ
4	スタイル作曲／古典(1) 作品分析
5	スタイル作曲／古典(2) 理論研究（弦四）
6	スタイル作曲／古典(3) モティーフのスケッチ

7	スタイル作曲／ロマン派(1) 作品分析
8	スタイル作曲／ロマン派(2) 理論研究（ピアノ小品）
9	スタイル作曲／ロマン派(3)　モティーフのスケッチ
10	スタイル作曲／近現代(1) 作品分析

11	スタイル作曲／近現代(2) 理論研究（室内楽）
12	スタイル作曲／近現代(3) モティーフのスケッチ
13	スタイル作曲／ジャズ(1) 作品分析
14	スタイル作曲／ジャズ(2) 理論研究（トリオ）

15	スタイル作曲／ジャズ(3) モティーフのスケッチ
授業計画	
	［後期］
1	スタイル作曲／BGM(1) 作品分析
2	スタイル作曲／BGM(2) 理論研究（フィルム・スコア）

3	スタイル作曲／BGM(3) モティーフのスケッチ
4	小品発表(1)実施例の提示（担当講師によるプレゼンテーション）
5	小品発表(2)スタイルを選択し担当学生がプレゼンテーション
6	小品発表(3)それぞれの作品についての分析、改善点の指摘

7	小品発表(4)作品の改定及び全体の講評
8	楽器による書法の変化(1) 弦楽器
9	楽器による書法の変化(2) 管楽器
10	楽器による書法の変化(3) 鍵盤楽器

11	課題作り(1) 聴音・視唱（単旋律）
12	課題作り(2) 聴音・視唱（複旋律）
13	課題作り(3) 和声課題（バス課題）
14	課題作り(4) 和声課題（ソプラノ課題）

15	作成課題の講評、一年間の総括

科目名	作曲法特殊研究２　［金4］（二胡）						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	IE2702B0	科目コード	IE2702	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
作曲法特殊研究1で学修した内容の発展として、さらに高度な各種の作品の分析を行い、西洋音楽の演奏解釈の研究を行っていく。様々な楽器の奏法や音楽語法を考察し、各自の専攻へ 応用できるようになることを主題とする。
到達目標：
●転調をしない非和声音を含めた和声課題ができるようになる。
●西洋音楽の古典派、ロマン派の音楽の作品を分析できるようにする。
●平易な楽曲を各自の専攻楽器に編曲し弾けるようにする。

２．授業概要

ソルフェージュ系の学修（聴音、視唱、各自の専攻楽器を用いた初見視奏）と理論系の学修（和声学、楽曲分析）の2つを併せたフォルマシオンミュージュカルの形態で授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：指示した楽曲を聴いておくこと。想定時間は1時間
復習：与えられた課題を実施すること。想定時間は1時間程度。
このほかに日頃より多くの楽譜を書き、それを演奏することで最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

授業参加姿勢50%　授業内課題、レポートでの評価50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『音楽分析基礎講座』（洗足学園音楽大学）
『和声　理論と実習ⅠⅡⅢ』（島岡譲 他共著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）
参考文献：
『楽譜の書き方』（平石博一著／東京ハッスルコピー）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］理論的な学修として、西洋音楽の和声的側面を考察する。本学作成『音楽分析基礎講座』テキストおよび和声ー理論と実習第1巻を中心に進める。また音楽分析基礎講座テキストで取り上げられている各種の作品を用いながら、フォルマシオンミュージカルを行い、ソルフェージュ、所見視奏の能力の向上をはかる
1	西洋音楽の和声分析１ ドッペルドミナントの考察１ ドッペルドミナント７および９について西洋音楽の和声分析7
2	西洋音楽の和声分析２ ドッペルドミナントの考察２ 増六の和音を中心に

3	西洋音楽の和声分析3 副Ｖの和音の考察
4	西洋音楽の和声分析4 準固有和音の考察
5	西洋音楽の和声分析５ ナポリのⅡの考察
6	西洋音楽の和声分析6 転調に関する考察　全音階的転調を中心に

7	西洋音楽の和声分析7 転調に関する考察　半音階的転調を中心に
8	和声学実習１ 作曲法特殊研究１で学修した内容の確認、復習
9	和声学実習２ 属７の和音　各転回形の連結
10	和声学実習３ 属７の和音根音省略形の連結

11	和声学実習４ 属９の和音　長調での連結
12	和声学実習５ 属9の和音　短調での連結
13	和声学実習６ ソプラノ課題　ドミナント→トニックの連結を中心に
14	和声学実習７ ソプラノ課題　総合的なソプラノ課題

15	前期のまとめと講評
授業計画	
	［後期］理論的な学修として、西洋音楽の和声的側面を考察する。和声一理論と実習第２巻を中心に進める。また様々な実作品を用いてのソルフェージュ（フォルマシオンミュージカル）を行い、分析力、所見視奏の能力の向上をはかる
1	和声学実習８ Ⅱ７、Ⅳ７の連結
2	和声学実習９ 準固有和音の連結

3	和声学実習10 ドッペルドミナントの連結１　基本的な連結
4	和声学実習11 ドッペルドミナントの連結２　各種のドッペルドミナントを用いた連結
5	和声学実習12 ナポリ、ドリアの和音の連結
6	和声学実習13 転調を含む課題１　転調方法について

7	和声学実習14 転調２　転調を含む課題の実施
8	和声学実習15 非和声音を含む課題の実施（経過音、刺繍音）
9	和声学実習16 非和声音を含む課題の実施（倚音、掛留音）
10	和声学実習17 非和声音を含む課題の実施（先取音、逸音）

11	楽曲研究１ 音楽の形式について 二部形式、三部形式、複合三部形式
12	楽曲研究２ 変奏曲について
13	楽曲研究３ ロンド形式について
14	楽曲研究４ ソナタ形式について

15	総括 西洋音楽の作品から各自の専攻楽器への編曲、演奏

科目名	楽曲分析法特殊研究１　[水2]						
代表教員	久保　哲朗	授業コード	IE271100	科目コード	IE2711	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業においては、これまでに修得してきた音楽知識を、楽曲分析を行うための方法論へと結びつけることを主題とする。
西洋音楽は中世・ルネッサンス期から現代まで、様々な時代、また作曲家様式に則って大きく発展を遂げてきた。それは多くの作曲家が、過去の作品を研究・継承し、また発展させてきた歴史に他ならない。それぞれの様式を理解した上で楽曲を分析することで、歴史性や構造性等、西洋音楽の根幹となる思想が垣間見られるだろう。
本授業では、多様な楽曲をそれぞれの様式に則った視点で分析、また作曲に応用する力を身につけることを目標とする。

２．授業概要

対面授業とする。各授業で様々な楽曲を分析し、学生同士でディスカッションを行う。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、合わせてそれらの様式に則った短い楽曲を作曲する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

分析する楽曲の予習がきわめて重要である。基本的には各自分析した内容を精査しながら授業を進めていく。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定 楽式論基礎１：1部、2部、3部形式とロンド形式について
2	楽式論基礎２：ソナタ形式とその他の形式について

3	楽曲研究　J.S.バッハ様式１　フーガ形式
4	楽曲研究　J.S.バッハ様式２　自由なフーガ形式
5	楽曲の創作　J.S.バッハ様式による楽曲作成
6	楽曲研究　W.A.モーツァルト様式１　ソナタ形式

7	楽曲研究　W.A.モーツァルト様式２　発展的なソナタ形式
8	楽曲の創作　W.A.モーツァルト様式による楽曲作成
9	楽曲研究　L.v.ベートーヴェン１　ソナタ形式の提示部における拡張
10	楽曲研究　L.v.ベートーヴェン２　ソナタ形式の展開部における拡張

11	楽曲研究　L. v. ベートーヴェン３　フーガ形式の拡張
12	楽曲研究　R. シューマン様式１　小品集の統一的な主題の扱い
13	楽曲研究　R. シューマン様式２　小品集の形式分析
14	楽曲の創作　R. シューマン様式による楽曲作成

15	前期のまとめと講評
授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究　F. リスト様式１　ソナタ形式の提示部における拡張
2	楽曲研究　F. リスト様式２　ソナタ形式の展開部における拡張

3	楽曲研究　F.リスト様式３　ソナタ形式の再現部における拡張
4	楽曲研究　R.ワーグナー様式１　全音階技法
5	楽曲研究　R.ワーグナー様式２　半音階技法
6	楽曲の創作　R.ワーグナー様式による楽曲作成

7	楽曲研究　ドビュッシー様式１　全音音階
8	楽曲研究　ドビュッシー様式２　開かれた形式
9	楽曲の創作　ドビュッシー様式による楽曲作成
10	楽曲研究　シェーンベルク様式１　無調作品

11	楽曲研究　シェーンベルク様式２　１２音技法
12	楽曲の創作　シェーンベルク様式による楽曲作成
13	楽曲研究　1950年以降の音楽の潮流１　トータル・セリエリズム
14	楽曲研究　1950年以降の音楽の潮流２　トーン・クラスター、偶然性の音楽

15	楽曲研究　1950年以降の音楽の潮流３　その他の潮流 １年間の総括

科目名	楽曲分析法特殊研究２　［金2］						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	IE271200	科目コード	IE2712	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲法という言葉はさまざまなテクニックを指すが、本授業においては特に和声法について、これまでに修得してきたテクニックをさらに向上させることを主題とする。

和声法は２０世紀にH.シャランをはじめとする理論家によって大きな発展を遂げた。日本においても島岡譲氏らによる『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅲ』（音楽之友社）により例えば模倣反復進行、偶成和音、保続音、２個の主題の同時的提示をもつバス課題、階梯導入をもつバス課題など、さまざまな概念や課題様式が考案された。さらに、特にフランスにおいて特定の作曲家の和声様式に基づく課題などへと発展し今日に至る。

本授業では、それらの課題様式における難度の高い課題を中心に修得するとともに、それらの課題を作成する力を身につけることを目標とする。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、感染状況をみて遠隔授業と対面授業を適宜判断し実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

学生の技量に合わせて目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声 理論と実習 Ⅲ』（音楽之友社）
『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）
『Vingt Leçons d'Harmonie』（O.メシアン著／LEDUC社刊）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	課題の創作　階梯導入をもつバス課題

3	模範例作成　階梯導入をもつバス課題
4	課題の研究　H. シャラン 380 の和声課題集第９巻
5	課題の創作　H. シャランの様式による課題（第９巻）
6	模範例作成　H. シャランの様式による課題（第９巻）

7	課題の研究　H. シャラン 380 の和声課題集第 10 巻
8	課題の創作　H. シャランの様式による課題（第 10 巻）
9	模範例作成　H. シャランの様式による課題（第 10 巻）
10	課題の研究　音楽大学入試におけるバス課題

11	課題の創作　音楽大学入試におけるバス課題
12	課題の研究　音楽大学入試におけるソプラノ課題
13	課題の創作　音楽大学入試におけるソプラノ課題
14	模範例作成　音楽大学入試における課題

15	前期のまとめと講評
授業計画	
	［後期］
1	課題の研究　J.P. ラモー様式
2	課題の創作　J.P. ラモー様式

3	模範例作成　J.P. ラモー様式
4	課題の研究　C. フランク様式
5	課題の創作　C. フランク様式
6	模範例作成　C. フランク様式

7	課題の研究　G. フォーレ様式
8	課題の創作　G. フォーレ様式
9	模範例作成　G. フォーレ様式
10	課題の研究　C. ドビュッシー様式

11	課題の創作　C. ドビュッシー様式
12	模範例作成　C. ドビュッシー様式
13	課題の研究　M. ラヴェル様式
14	課題の創作　M. ラヴェル様式

15	模範例作成　M. ラヴェル様式 １年間の総括

科目名	アンサンブル特殊研究１　［木4］						
代表教員	桑原　ゆう	授業コード	IE272100	科目コード	IE2721	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・楽器の構造や奏法を研究し、自身の作品に応用することを目標とする。
・演奏者に、高精度に意図が伝わる譜面をつくるためにどうすべきか研究する。作曲者としての考えを演奏者にどう伝えるか、アイデアの言語化も意識して行う。
・実際の音出しやグループワークなども取り入れる。
・自作だけでなく、編曲を通しての研究も積極的に行う。旋律に対する和声付けについても、西洋音楽における和声法にとどまらず、多様なスタイルに対応できることを目指す。

２．授業概要

・管弦楽法や演奏の視点で楽曲分析を行い、各楽器の特徴的な奏法、効果的な用い方、よく響く音の配置などを考察、研究する。それをもとに作曲作品や編曲作品に取り組み、スコア、パート譜を完成させる。
・20世紀以降の作品に用いられた特殊奏法についても、積極的に取り入れる。また、記譜法についても研究し、西洋音楽の通常の記譜法で表せないことも、どう記譜すべきか模索する。
・実際に奏者をむかえ、作品の音出し、奏法についてのレクチャーや実用的なアドバイスを受ける機会も検討している。学生がいま現在必要としている内容を、臨機応変に、且つ積極的に取り入れたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施し、完成させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

授業への参加姿勢や、毎回の課題の完成度が含まれる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献や資料については、その都度指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	授業概要説明 各自の創作スタイルのプレゼンテーション①
2	各自の創作スタイルのプレゼンテーション② アンサンブル演習（各自のスタイルによる）

3	擦弦楽器にフォーカスした楽曲研究①
4	譜面の作成演習（擦弦楽器①）
5	アンサンブル演習（擦弦楽器①）
6	擦弦楽器にフォーカスした楽曲研究②

7	譜面の作成演習（擦弦楽器②）
8	アンサンブル演習（擦弦楽器②）
9	撥弦楽器にフォーカスした楽曲研究①
10	譜面の作成演習（撥弦楽器①）

11	アンサンブル演習（撥弦楽器①）
12	撥弦楽器にフォーカスした楽曲研究②
13	譜面の作成演習（撥弦楽器②）
14	アンサンブル演習（撥弦楽器②）

15	前期のまとめ
授業計画	
	［後期］
1	管楽器にフォーカスした楽曲研究①
2	譜面の作成演習（管楽器①）

3	アンサンブル演習（管楽器①）
4	管楽器にフォーカスした楽曲研究②
5	譜面の作成演習（管楽器②）
6	アンサンブル演習（管楽器②）

7	管楽器にフォーカスした楽曲研究③
8	譜面の作成演習（管楽器③）
9	アンサンブル演習（管楽器③）
10	種類の違う楽器を組み合わせたアンサンブルの研究

11	種類の違う楽器の組み合わせによる譜面の作成①
12	種類の違う楽器の組み合わせによる譜面の作成②
13	アンサンブル演習（種類の違う楽器の組み合わせ①）
14	アンサンブル演習（種類の違う楽器の組み合わせ②）

15	１年間の総括

科目名	アンサンブル特殊研究２　［水3］						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	IE272200	科目コード	IE2722	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

民族楽器などを含むさまざまな楽器の構造や奏法を研究し、自身の作品に応用させていく。授業内で音出しをしながら作曲と演奏の両面につなげると共に、自身の作品だけでなく編曲（アンサンブル）を通しての研究も積極的に行っていく。旋律に対する和声付けについても、西洋音楽における和声法にとどまらず、様々なスタイルのものを積極的に取り入れていく。アンサンブル特殊研究１では扱わなかった声楽や西洋の新しい楽器、古楽器、さまざまな民族楽器についても研究する。

２．授業概要

授業では、さまざまな楽器とその特徴的・効果的な使い方、またよく響かせることができる音の配置などについて考察する。実際に奏者を迎え、作品の音出しや、奏法についてのレクチャーをお願いしたり、直接質問などをできるような機会も作っていく。また、西洋音楽の記譜法によって表現できない、あるいは表現したいことが通常の記譜では表せないことなどが出てきた場合は、記譜法についても研究する。最終的には楽譜を制作し、アンサンブル可能な形へとスコア、パート譜等を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施し、完成させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）
平常点には授業への参加姿勢や毎回の課題の達成度、そして授業内でのアンサンブルの完成度が含まれる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、その都度指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　各自のスタイルによる小品作曲
2	鍵盤楽器についての研究

3	合奏譜のスケッチ作成（鍵盤楽器）
4	合奏譜の制作（鍵盤楽器）
5	アンサンブル演習（鍵盤楽器）
6	西洋の新しい楽器についての研究 （特に現代的な奏法について）

7	合奏譜のスケッチ作成（西洋の新しい楽器）
8	合奏譜の制作（西洋の新しい楽器）①
9	合奏譜の制作（西洋の新しい楽器）②
10	アンサンブル演習（西洋の新しい楽器）

11	声楽についての研究
12	合奏譜のスケッチ作成(声楽+α)
13	合奏譜の制作(声楽+α)
14	アンサンブル演習(声楽+α)

15	前期のまとめ
授業計画	
	［後期］
1	日本の伝統的な楽器について
2	合奏譜のスケッチ作成（日本の伝統的な楽器）

3	合奏譜の制作（日本の伝統的な楽器）①
4	合奏譜の制作（日本の伝統的な楽器）②
5	アンサンブル演習（日本の伝統的な楽器）
6	西洋の古楽器について

7	合奏譜のスケッチ作成（西洋の古楽器）
8	合奏譜の制作（西洋の古楽器）①
9	合奏譜の制作（西洋の古楽器）②
10	アンサンブル演習（西洋の古楽器）

11	様々な民族楽器について
12	合奏譜のスケッチ作成（民族楽器）
13	合奏譜の制作（民族楽器）①
14	合奏譜の制作（民族楽器）　②

15	アンサンブル演習（民族楽器）および１年間の総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究I （前） ［金3］ （後） ［実習］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE275100	科目コード	IE2751	期間	通年
担当教員	河原　義、宮部　小牧						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	外国人教授の授業は、通訳が付かない場合もあるので、ある程度の外国語（英語・伊語など）理解力が必要						
教員免許状							

1．主題・到達目標

学生各自の研究テーマおよび目標にあわせて、招聘教授・本学客員教授による指導により、専門家としてのスキル向上を目指す。

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

演奏法・表現法の演習を行う。その他演奏家にとって必要なスキルを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に教員から与えられた課題をよく理解して、各自で必ず復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢とその成果を評価する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自研究テーマに沿って準備する。その他ガイダンス時に各指導教員より指示がある

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
演奏曲、研究課題は各レッスン担当教員と相談すること

授業計画	
	［前期］ 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性もある。
1	前期ガイダンス（演奏法に関する演習）
2	各自の研究テーマにより課題を選曲し研究する

3	イタリア語研究課題について
4	イタリア語における母音発語法
5	イタリア語における子音発語法
6	歌唱における呼吸運動について

7	イタリア語における言葉と響きについて
8	課題における表現法の演習　基本
9	課題における表現法の演習　応用
10	演習とまとめ

11	舞台演技講座
12	芝居台本の読み方
13	台本に対する考え方及び感じ方
14	舞台での動き方

15	台本から読み解く表現の統括
授業計画	
	［後期］ 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	後期ガイダンス（表現法に関する演習）
2	感情表現と身体表現についての考察

3	ヨーロッパにおける感情表現について
4	慣習から考察する表現、演奏法について
5	身体表現を加えた演奏法の演習
6	課題による舞台表現の演習

7	課題による舞台表現及び舞台マナーについての考察
8	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習　基本
9	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習　応用
10	与えられた課題による舞台表現の演習とまとめ

11	日本歌曲特別講座
12	フランス歌曲特別講座
13	ドイツ歌曲特別講座
14	イタリア歌曲特別講座

15	１年間の授業の統括

科目名	プロフェッショナル特殊研究II （前） ［金3］ （後） ［実習］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE275200	科目コード	IE2752	期間	通年
担当教員	河原　義、宮部　小牧						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	外国人教授の授業は、通訳が付かない場合もあるので、ある程度の外国語（英語・伊語など）理解力が必要						
教員免許状							

1．主題・到達目標

学生各自の研究テーマおよび目標にあわせて、招聘教授・本学客員教授による指導により、専門家としてのスキル向上を目指す。

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

演奏法・表現法の演習を行う。その他演奏家にとって必要なスキルを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に教員から与えられた課題をよく理解して、各自で必ず復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢とその成果を評価する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自研究テーマに沿って準備する。その他ガイダンス時に各指導教員より指示がある

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
演奏曲、研究課題は各レッスン担当教員と相談すること

授業計画	
	［前期］ 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性もある。
1	前期ガイダンス（演奏法に関する演習）
2	各自の研究テーマにより課題を選曲し研究する

3	イタリア語研究課題について
4	イタリア語における母音発語法
5	イタリア語における子音発語法
6	歌唱における呼吸運動について

7	イタリア語における言葉と響きについて
8	課題における表現法の演習　基本
9	課題における表現法の演習　応用
10	演習とまとめ

11	舞台演技講座
12	芝居台本の読み方
13	台本に対する考え方及び感じ方
14	舞台での動き方

15	台本から読み解く表現の統括
授業計画	
	［後期］ 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	後期ガイダンス（表現法に関する演習）
2	感情表現と身体表現についての考察

3	ヨーロッパにおける感情表現について
4	慣習から考察する表現、演奏法について
5	身体表現を加えた演奏法の演習
6	課題による舞台表現の演習

7	課題による舞台表現及び舞台マナーについての考察
8	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習　基本
9	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習　応用
10	与えられた課題による舞台表現の演習とまとめ

11	日本歌曲特別講座
12	フランス歌曲特別講座
13	ドイツ歌曲特別講座
14	イタリア歌曲特別講座

15	１年間の授業の統括

科目名	オペラ研究１・２　［水4-5、木2-4］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE275300	科目コード	IE2753d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オペラ歌手として舞台に立つための様々な基礎的内容の習得、各々の声に応じた作品による音楽表現・舞台身体表現の研究を踏まえ、オペラ・ガラコンサートにおいて課題の作品を完成させる。

２．授業概要

遠隔授業を併用する。実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

前期、モーツァルト及びドイツオペラを題材とし、発語を中心に研究する。
後期は一部演目を変えて、「オペラガラコンサート」に向けて稽古を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回与えられた課題、問題点を解決できるよう自主練習をすること

４．成績評価の方法及び基準

授業の参加姿勢、習熟度を評価する。
更に成果発表であるオペラガラコンサートでの評価を含める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自分の演奏する楽譜に関しては各自で用意する。版について指定のある場合は事前に告知する。その他、必要なものは授業内で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
各自課題とするオペラ作品のヴォーカル・スコアを準備すること。 欠席回数、遅刻早退回数が多い場合は単位認定を行わない。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンスと授業概要説明
2	コレペティトールによる音楽研究 ドイツオペラ又はモーツァルト作品から、原語における発語の基礎

3	コレペティトールによる音楽研究 各自課題のオペラにおける楽譜の解析
4	コレペティトールによる音楽研究 各自の課題から、各原語の発語の基礎
5	コレペティトールによる音楽研究 各自の課題から、楽譜の解析と読解
6	指揮者による音楽研究 各自の課題から、言葉と音のつながりについて

7	指揮者による音楽研究 各自の課題から、各キャラクターの音楽表現について
8	指揮者による音楽研究 各自の課題による役作りと音の表現について
9	演出家による音楽研究 各自の課題の作品の背景について
10	演出家による音楽研究 各自の課題のキャラクターの分析について

11	声楽講師による音楽研究 各自の課題より言語から発生する声に対しての問題を研究する
12	声楽講師による音楽研究 各自の課題より、声の表現と身体表現について
13	声楽講師による音楽研究 各自の課題における発声を基本とする台詞表現について
14	指揮者と演出家よる音楽チェック

15	前期まとめとして、授業内発表
授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス・後期オペラガラコンサートに向けて、演目の決定
2	声楽講師による音楽研究／各曲の作品考察　基本

3	声楽講師による音楽研究／各曲の作品考察　応用
4	演出家による作品への考察
5	演出家による各場面への考察
6	立ち稽古（荒立ち） 各自の課題に対する演技への考察

7	立ち稽古 各自の課題についてのキャラクターについての考察
8	立ち稽古 各自の課題役についての基本動作
9	立ち稽古 各自の課題について、舞台上の道具の扱い等
10	立ち稽古　各演目の演技の基本

11	立ち稽古　各演目の動きの応用
12	各演目荒通し
13	各演目荒通し　確認
14	G.P.　演奏会へ向けて音楽チェック

15	「オペラ・ガラコンサート」成果発表

科目名	アンサンブル研究１　[月2]						
代表教員	櫻田　亮	授業コード	IE275500	科目コード	IE2755	期間	通年
担当教員	柳澤　涼子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キリスト教宗教音楽の声楽作品について、独唱曲、重唱曲、合唱曲を総合的に演習・研究し、それぞれの演奏に必要な技術、表現力などを修得する。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

主にバロック時代や古典派の、ミサ曲、オラトリオなどから、作品を全曲あるいは抜粋して取り上げて演習・研究し、履修年度内に研究発表演奏会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自の研究課題について、授業内で教員から与えられるアドヴァイスに従い、必要な予備研究等を行う。

４．成績評価の方法及び基準

研究発表演奏会での演奏内容、授業への参加姿勢を評価の対象とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で発表する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修年度内に行われる研究発表演奏会への出演を前提として履修すること。必要に応じて補講を行う場合があるので、できる限り参加すること。また各自の研究課題以外に、他の学生の研究課題にも興味を持ち、積極的に授業に臨むこと。 授業への出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 授業の進度により変更有
1	前期ガイダンス
2	研究課題曲の選定

3	研究課題曲の決定
4	研究課題曲のディクションと解釈
5	パート練習実践
6	自分と違うパートの指導実践

7	意見交換を含めてのパート練習実践
8	独唱曲の聴きあい
9	意見交換を含めて独唱曲を研究
10	個々に研究し再度独唱曲の聴きあい

11	本番を想定しての独唱曲の演奏
12	フィードバッグをしさらに独唱曲の研究
13	独唱曲おさらい会
14	前期反省会

15	後期に向けてのガイダンス

授業計画
［後期］ 授業の進度により変更有

1	後期ガイダンス
2	研究発表演奏会に向けて曲目の意見交換

3	研究発表演奏会に向けての曲目選定
4	研究発表演奏会に向けての曲目決定
5	ソリストをオーディション
6	ソリスト決定

7	研究課題曲のパート練習
8	研究課題曲のディクションと解釈
9	歌唱演習
10	歌唱演習及び表現の研究

11	パートごと課題曲を演奏
12	フィードバック後の課題曲の演奏
13	全体合唱合わせ
14	研究発表演奏会に向けて最終確認

15	研究発表演奏会のG.P

科目名	アンサンブル研究２　[月2]						
代表教員	櫻田　亮	授業コード	IE275600	科目コード	IE2756	期間	通年
担当教員	柳澤　涼子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キリスト教宗教音楽の声楽作品について、独唱曲、重唱曲、合唱曲を総合的に演習・研究し、それぞれの演奏に必要な技術、表現力などを修得する。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

主にバロック時代や古典派の、ミサ曲、オラトリオなどから、作品を全曲あるいは抜粋して取り上げて演習・研究し、履修年度内に研究発表演奏会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自の研究課題について、授業内で教員から与えられるアドヴァイスに従い、必要な予備研究等を行う。

４．成績評価の方法及び基準

研究発表演奏会での演奏内容、授業への参加姿勢を評価の対象とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で発表する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修年度内に行われる研究発表演奏会への出演を前提として履修すること。必要に応じて補講を行う場合があるので、できる限り参加すること。また各自の研究課題以外に、他の学生の研究課題にも興味を持ち、積極的に授業に臨むこと。 授業への出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 授業の進度により変更有
1	前期ガイダンス
2	研究課題曲の選定

3	研究課題曲の決定
4	研究課題曲のディクションと解釈
5	パート練習実践
6	自分と違うパートの指導実践

7	意見交換を含めてのパート練習実践
8	独唱曲の聴きあい
9	意見交換を含めて独唱曲を研究
10	個々に研究し再度独唱曲の聴きあい

11	本番を想定しての独唱曲の演奏
12	フィードバッグをしさらに独唱曲の研究
13	独唱曲おさらい会
14	前期反省会

15	後期に向けてのガイダンス
授業計画	
	［後期］ 授業の進度により変更有
1	後期ガイダンス
2	研究発表演奏会に向けて曲目の意見交換

3	研究発表演奏会に向けての曲目選定
4	研究発表演奏会に向けての曲目決定
5	ソリストをオーディション
6	ソリスト決定

7	研究課題曲のパート練習
8	研究課題曲のディクションと解釈
9	歌唱演習
10	歌唱演習及び表現の研究

11	パートごと課題曲を演奏
12	フィードバック後の課題曲の演奏
13	全体合唱合わせ
14	研究発表演奏会に向けて最終確認

15	研究発表演奏会のG.P

科目名	歌曲研究１　［月4］日本　フランス						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2757A0	科目コード	IE2757	期間	通年
担当教員	悦田　比呂子、土屋　雅子、服部　真由子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究１　［月4］日本［金4］イタリア						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2757B0	科目コード	IE2757	期間	通年
担当教員	悦田　比呂子、相田　麻純、前田　孝子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究１　［月4］日本［金4］ドイツ						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2757C0	科目コード	IE2757	期間	通年
担当教員	悦田　比呂子、宮部　小牧						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究１　［月4］フランス［金4］イタリア						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2757D0	科目コード	IE2757	期間	通年
担当教員	土屋　雅子、相田　麻純、前田　孝子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究１　［月4］フランス［金4］ドイツ						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2757E0	科目コード	IE2757	期間	通年
担当教員	土屋　雅子、宮部　小牧						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究１　［金4］ドイツ　イタリア						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2757F0	科目コード	IE2757	期間	通年
担当教員	宮部　小牧、前田　孝子、相田　麻純						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究２　［月4］日本　フランス						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2758A0	科目コード	IE2758	期間	通年
担当教員	悦田　比呂子、土屋　雅子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究２　［月4］日本［金4］イタリア						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2758B0	科目コード	IE2758	期間	通年
担当教員	悦田　比呂子、相田　麻純、前田　孝子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究２　［月4］日本［金4］ドイツ						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2758C0	科目コード	IE2758	期間	通年
担当教員	悦田　比呂子、宮部　小牧						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究２　［月4］フランス［金4］イタリア						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2758D0	科目コード	IE2758	期間	通年
担当教員	土屋　雅子、相田　麻純、前田　孝子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究２　［月4］フランス［金4］ドイツ						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2758E0	科目コード	IE2758	期間	通年
担当教員	土屋　雅子、宮部　小牧						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究２　［金4］ドイツ　イタリア						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE2758F0	科目コード	IE2758	期間	通年
担当教員	宮部　小牧、前田　孝子、相田　麻純						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	合唱指導法研究　[木3-4]						
代表教員	相澤　直人	授業コード	IE277000	科目コード	IE2770	期間	通年
担当教員	柳澤　涼子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期は現在、恒例となっているNHK全国学校音楽コンクールの課題曲（本年度は、中学校の部及び高等学校の部のみ）に集中的に取り組み、分析を含めて曲を音楽的に高めていく過程を共有し、学ぶことが中心となる。詩、曲ともに毎年書き下ろされるこの課題曲を、全国の中高の合唱部と同時期に取り組むことによって、日本の合唱界を支える音楽教育にも興味を拡大し、将来の活動の糧となることを期待する。　また、前期では上記の課題曲に加えて、受講生のレベルや音色などを加味して他数曲決定し、授業内で指示をする。

後期は、昨年度に実習できなかった、名田綾子氏の作品「歌は繋いだ手のように」を中心に取り組む。

授業内では他声部、伴奏楽器との対峙・融和といった、合唱ならではの要素はもちろんだが、音楽そのもの（特に、作曲家が楽譜に書ききれないニュアンスや、最も音楽的であるべきexpressive noteについて）を、作曲家でも合唱指揮者でもある目線から指導する。また、声楽家が合唱の指導（ヴォイストレーニングや指揮／指導）を依頼されるケースは非常に多いため、現場で必要な考え方やスキルなども授業内で積極的に共有し、考えていきたい。

なお、成果発表の場として、前期に試演会、また後期は「合唱の祭典」への出演を予定している。

２．授業概要

感染症対策をしながら、対面での授業を行うことを基本とし、オンライン授業の必要がある場合はその方法については授業内で指示をする。
演奏会の曲目の反復練習を中心とし、前期の試演会・後期の演奏会（「合唱の祭典」）に向けて自身の技術の向上を図り、その経緯を将来の自身の演奏・指導現場に生かせる様にすることを最終の目標とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各曲の音取り、読み込みを必ずしてから講義に臨み、楽譜との個人的な戦い、プライベートな時間、場にならないよう留意すること。
また、　声楽コースの学生としてのプライドと自覚を持ち、発声練習など、毎回の稽古に必要な事前のウォーミングアップは各自で行ってから臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と受講態度、個人の技術、表現者としての意欲を総合して評価をする。
前期の試演会、および後期の演奏会を欠席する者には単位を与えられない。日程などは初回授業でアナウンスする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示をする

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
前期、後期の演奏会に欠席した者の単位は認められないため、スケジュール管理、体調管理など、プロ意識を持って臨むこと。 また、前期及び後期の演奏会日程や講義日程（演奏会後の授業分を、演奏会前に振り替えるなど、イレギュラーがある）を初回授業時に説明するので、全員参加のこと。

授業計画	
	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部の課題曲を取り上げ演奏する他、時間と相談をしながらその他の曲も扱う。
1	ガイダンス。NHK全国学校音楽コンクール課題曲（中・高校）のパート・歌唱部分を確認し、演奏会に向けて講義を進める際の確認事項を説明する。その後に、練習予定。
2	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のリーディング

3	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のテキストの理解と音の確認
4	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲の作品の流れの展開を把握する
5	音楽稽古（１） リーディング
6	音楽稽古（２） 曲全体のフォルムを構築する

7	音楽稽古（３） 楽譜に書かれないニュアンスなど
8	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のまとめ。
9	音楽稽古（４） 詩と音楽の解釈について
10	演奏会に向けての総合練習（１） これまでのポイントの再確認

11	演奏会に向けての総合練習（２）　通し稽古・ピアニストとのトータルアンサンブル
12	前期演奏会に向けての総合練習（３）　G.P.
13	前期演奏会当日リハーサル
14	前期演奏会本番

15	後期に扱う楽曲の事前練習
授業計画	
	後期の講義内容、扱う楽曲については未定。前期講義中にパートバランスや音楽的な内容、いま学生にとって必要と思われることなどを考え、指示する。
1	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（１） リズムのニュアンス
2	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（２） メロディー及びフレーズにニュアンス

3	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（３）　ハーモニーのニュアンス
4	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（４）　ことばのニュアンス
5	演奏会に向けて（楽曲の分析、解説など）
6	演奏会に向けての練習（１）　音取りや詩（発音）などの確認

7	演奏会に向けての練習（２）　ハーモニーを確認しながらのリーディング
8	演奏会に向けての練習（３）　全体の流れを把握
9	演奏会に向けての練習（４）　これまでに学んだ各種ニュアンスの確認
10	演奏会に向けての練習（５）　ピアノ及び伴奏楽器とのアンサンブルを考える

11	演奏会に向けての総合練習（１）　これまでのポイントの再確認
12	演奏会に向けての総合練習（２）　通し稽古とアンサンブルの精度を整えるための練習
13	演奏会に向けての総合練習（３）　一年間の総まとめ
14	後期演奏会前リハーサル

15	後期演奏会本番

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　［火4］2台ピアノ						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	IE2801A1	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾・イタリア式装飾の演奏技法

3	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
4	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～

7	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
8	器楽伴奏法（１）～器楽伴奏におけるピアニストの役割～
9	ピアノ連弾、2台ピアノ作品の作品研究と楽曲分析
10	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～

11	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
12	指導法特別講座 （１）初期指導における教材研究
13	指導法特別講座 （２）幼児からのソルフェージュの流れ、指導法
14	指導法特別講座 （３）演奏の土台となるテクニックの養成

15	指導法特別講座 （４）オンラインレッスンの組み立て方
授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	指導法特別講座 （５）バロック・古典作品の指導の実践～バッハ・ソナチネを中心に～
2	指導法特別講座 （6）ロマン派作品の指導の実践～ピティナコンペ課題曲を中心に～

3	指導法特別講座 （7）近現代作品の指導の実践～邦人作品を中心に～
4	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～
5	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
6	指揮者によるオペラ研究（２）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～

7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～コレペティトールにおける歌唱指導～
8	歌曲伴奏法（２）～歌曲と独奏曲の相違点～
9	器楽伴奏法（２）～コンチェルト伴奏についての研究。オーケストラ版の奏法について～
10	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》

11	近現代作品における奏法研究～ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》～
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性

15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　［月4］ピアノ作品分析演習						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	IE2801A2	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	浦壁　信二、鳥羽瀬　宗一郎						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾・イタリア式装飾の演奏技法

3	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
4	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～

7	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
8	器楽伴奏法（１）～器楽伴奏におけるピアニストの役割～
9	ピアノ連弾、2台ピアノ作品の作品研究と楽曲分析
10	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～

11	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
12	指導法特別講座 （１）初期指導における教材研究
13	指導法特別講座 （２）幼児からのソルフェージュの流れ、指導法
14	指導法特別講座 （３）演奏の土台となるテクニックの養成

15	指導法特別講座 （４）オンラインレッスンの組み立て方
授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	指導法特別講座 （５）バロック・古典作品の指導の実践～バッハ・ソナチネを中心に～
2	指導法特別講座 （6）ロマン派作品の指導の実践～ピティナコンペ課題曲を中心に～

3	指導法特別講座 （7）近現代作品の指導の実践～邦人作品を中心に～
4	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～
5	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
6	指揮者によるオペラ研究（２）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～

7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～コレペティトールにおける歌唱指導～
8	歌曲伴奏法（２）～歌曲と独奏曲の相違点～
9	器楽伴奏法（２）～コンチェルト伴奏についての研究。オーケストラ版の奏法について～
10	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》

11	近現代作品における奏法研究～ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》～
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性

15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　［月1］［月3］［火2］伴奏法						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	IE2801A3	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	原田　愛、冨平　恭平、服部　容子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾・イタリア式装飾の演奏技法

3	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
4	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～

7	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
8	器楽伴奏法（１）～器楽伴奏におけるピアニストの役割～
9	ピアノ連弾、2台ピアノ作品の作品研究と楽曲分析
10	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～

11	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
12	指導法特別講座 （１）初期指導における教材研究
13	指導法特別講座 （２）幼児からのソルフェージュの流れ、指導法
14	指導法特別講座 （３）演奏の土台となるテクニックの養成

15	指導法特別講座 （４）オンラインレッスンの組み立て方
授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	指導法特別講座 （５）バロック・古典作品の指導の実践～バッハ・ソナチネを中心に～
2	指導法特別講座 （6）ロマン派作品の指導の実践～ピティナコンペ課題曲を中心に～

3	指導法特別講座 （7）近現代作品の指導の実践～邦人作品を中心に～
4	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～
5	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
6	指揮者によるオペラ研究（２）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～

7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～コレペティトールにおける歌唱指導～
8	歌曲伴奏法（２）～歌曲と独奏曲の相違点～
9	器楽伴奏法（２）～コンチェルト伴奏についての研究。オーケストラ版の奏法について～
10	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》

11	近現代作品における奏法研究～ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》～
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性

15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　［火2］大学院オーケストラ演習						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2801C1	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	岩本　伸一						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次はプロの演奏家から指導、練習法と本番を通じて心構えや演奏姿勢を学ぶ。

２．授業概要

年度初めに以下の２項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。
A＝特別アンサンブル研究1.2（小編成）
ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。
B＝室内オーケストラ研究１1.2

３．授業時間外の学習（予習復習について）

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。
室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング（CDを含む）を責任を持って予習し、練習に臨む事。

４．成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜（スコア）を準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
A＝３～８重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。 B＝オーケストラ団員としての積極的な授業参加。

授業計画	
	［前期］ A＝特別アンサンブル研究1.2（小編成） B＝室内オーケストラ研究１．２ 定期演奏会（6月・前田ホール）
1	前期ガイダンス
2	特別アンサンブル研究　三重奏曲の分析

3	特別アンサンブル研究　三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究　四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究　四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究　五重奏曲の楽曲分析

7	特別アンサンブル研究　五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究　六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究（三重奏曲　研究演奏練習）
10	特別アンサンブル研究（四重奏曲　研究演奏練習）

11	特別アンサンブル研究（五重奏曲　研究演奏練習）
12	室内オーケストラ分奏　（序曲　研究演奏練習）
13	室内オーケストラ分奏（研究発表会前半総合練習）
14	室内オーケストラ分奏（研究発表会後半総合練習

15	特別アンサンブル研究（研究演奏会）

授業計画

	［後期］ A＝特別アンサンブル研究1.2（小編成） 後期 アンサンブル研究コンサート（12月・SM） B＝大学院コンチェルトの夕べ（10月・前田ホール） 学園オペラ管弦楽団(未定) 大学院オラトリオ（未定）
1	後期ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析（フルート）

3	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析（オーボエ）
4	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏の分析（クラリネット）
5	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏の分析（サクソフォン）
6	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（フルート）

7	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（オーボエ）
8	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（クラリネット）
9	特別アンサンブル研究　金管楽器特殊編成
10	室内オーケストラ分奏（コンチェルトの夕べ）ピアノ協奏曲

11	室内オーケストラ分奏（コンチェルトの夕べ）弦楽器協奏曲
12	特別アンサンブル研究（オラトリオアンサンブル研究コンサート練習）
13	特別アンサンブル研究（オラトリオアンサンブル研究コンサート演奏会）
14	特別アンサンブル研究（オペラ研究コンサート練習）

15	特別アンサンブル研究（オペラ研究コンサート演奏会）

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　［月2］SX・EP特別講座						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2801C2	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	岩本　伸一						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次はプロの演奏家から指導、練習法と本番を通じて心構えや演奏姿勢を学ぶ。

２．授業概要

年度初めに以下の２項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。
特別アンサンブル研究1.2（小編成）
ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。
室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング（CDを含む）を責任を持って予習し、練習に臨む事。

４．成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜（スコア）を準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
サクソルン族（SX・EP）３～８重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	特別アンサンブル研究　三重奏曲の分析

3	特別アンサンブル研究　三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究　四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究　四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究　　五重奏曲の楽曲分析

7	特別アンサンブル研究　五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究　六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究（三重奏曲　研究演奏練習）
10	特別アンサンブル研究（四重奏曲　研究演奏練習）

11	特別アンサンブル研究　（五重奏曲　研究演奏練習）
12	サクソルン族のアンサンブル2重奏
13	サクソルン族のアンサンブル3重奏
14	サクソルン族のアンサンブル4重奏

15	全体で後期管楽器プロフェッショナル研究か会 プログラム立案会議
授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析（フルート）

3	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析（オーボエ）
4	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏の分析（クラリネット）
5	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏の分析（サクソフォン）
6	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（フルート）

7	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（オーボエ）
8	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（クラリネット）
9	特別アンサンブル研究　金管楽器特殊編成
10	管楽器プロフェッショナル研究演奏会レッスン１ ピアノを含まない曲目

11	管楽器プロフェッショナル研究演奏会レッスン１２
12	管楽器プロフェッショナル研究演奏会レッスン３ ピアノを含む曲目
13	管楽器プロフェッショナル研究演奏会レッスン４ ピアノを含む曲目
14	管楽器プロフェッショナル研究演奏会全体リハーサル

15	管楽器プロフェッショナル研究演奏会本番

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　［月1-3］スペシャル公開講座							
代表教員	沼田　園子	授業コード	IE2801D0	科目コード	IE2801	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	SI			科目分類	専門選択			
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

著名なアーチスト達の公開レッスンを通して演奏水準を高める。
オーケストラの経験を通して幅広い音楽性を身に着ける。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

世界的に活躍する著名なアーチスト達の公開レッスン及び外部招聘演奏家による特別レッスンを行う。
ピアニストとして田中麻紀講師を迎えている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

しっかりと練習をした上で講座を受けてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢。出欠席の講師の先生方への連絡、学生同士の連絡を徹底して滞りなく授業ができるよう努力する姿勢を評価の一部とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト。楽譜など受講学生が各自で用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
聴講生も楽譜を持参すること。

授業計画	
	［前期］
1	前期オリエンテーション
2	ベートーヴェン　ヴァイオリンソナタについて研究

3	ベートーヴェン　チェロソナタについて研究
4	バッハ　チェロ組曲について研究
5	バッハ　チェロ組曲についての見解
6	バッハ　無伴奏パルティータＮＯ．1について研究

7	室内管弦楽団 ベートーヴェン　交響曲について
8	フェデリコアゴスティーニ客員教授特別レッスン（前半チーム）
9	フェデリコアゴスティーニ客員教授特別レッスン（後半チーム）
10	バッハ無伴奏　ソナタNO.2

11	シュターミッツ　協奏曲の研究
12	ブラームス　協奏曲の研究
13	チャイコフスキー　ヴァイオリン協奏曲の研究
14	グラズノフ　ヴァイオリン協奏曲の研究

15	ブラームス　ソナタＮＯ．1の研究
授業計画	
	［後期］
1	後期オリエンテーション
2	ブラームス　ヴァイオリンソナタＮＯ．2の研究

3	ブラームス　チェロソナタの研究
4	ブラームス　ヴィオラソナタＮＯ．1の研究
5	ブラームス　ヴィオラソナタＮＯ．2の研究
6	バッハ　無伴奏ソナタNO.2について研究

7	室内管弦楽団 ブラームス　交響曲について
8	オレグ・クリサ教員教授特別レッスン
9	竹澤恭子客員教授特別レッスン
10	バッハ無伴奏　ソナタNO.3

11	バッハ無伴奏　パルティータNO.2の研究
12	バッハ無伴奏　パルティータNO.3
13	グリーグ　ヴァイオリンソナタの研究
14	モーツァルト　ヴァイオリン協奏曲の研究

15	バルトーク　協奏曲の研究

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　［金1］オーケストラスタディ						
代表教員	井手上　達	授業コード	IE2801E0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	石井　喜久子、清水　太						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各種打楽器のオーケストラ、吹奏楽の中での演奏法、楽器の歴史、楽器メンテナンス方法、作編曲法、コンチェルト研究、バッハ研究その他、打楽器の可能性を考察し、打楽器をどの場所でどのように関連させていくことが出来るかというノウハウ、またその実践方法や、その実践にあたり知っておくとよい知識を学ぶ。様々な視点から打楽器について学習することにより、大学院を修了後、演奏、指導、音楽療法など社会の中の多種な場での打楽器を活かした活動に繋げていくことを可能にすることを目標とする。

２．授業概要

　基本対面での実施となります。未入国の留学生など、場合によっては同時双方向型の遠隔授業の併用も検討します。
複数担当教員がそれぞれ複数回の授業でそれぞれの専門的な知識と経験に基づいた講座、演習指導を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講学生は各担当教員の事前の指示による授業内容の予習、演習の場合は事前練習を行うことが望ましい。授業後にはその内容を自分がきちんと理解出来ているかという確認、また、特に演習授業の場合は授業受講後に課題習得のための練習を行うことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢、演習課題の消化と実践演奏技量などを考慮し決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト、楽譜など受講学生がそれぞれ準備する。著作物の取り扱いについては使用方法に問題がないかそのつど確認する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］
1	オーケストラスタディ１：オーケストラの歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
2	オーケストラスタディ２：主に古典、ロマン派の時代の具体的な楽曲（モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどの交響曲他）を取り上げ、その中で演奏される各種打楽器の奏法、音色の解釈などを実演を交えながら学習する。

3	オーケストラスタディ３：２０世紀以降の楽曲における打楽器群の奏法や音色についての学習。また、現代作品での特殊奏法などについて、楽曲の音源を聴きながら確認と実演を伴う学習を行う。
4	吹奏楽打楽器研究１：吹奏楽の歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
5	吹奏楽打楽器研究２：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、リズムについて考察する。
6	吹奏楽打楽器研究３：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、特に鍵盤打楽器が担うメロディー、ハーモニーについて考察する。

7	バッハ研究１：　マリンバなどの鍵盤打楽器で演奏されることも多いバッハの作品のアナリーゼ。また、バッハを軸にバロック以前の音楽と楽器、そこから近現代の音楽まで、どのような関連性を見られるか、など、歴史と楽器の成り立ちを検証し、知識を深める。
8	打楽器奏法実習1：各種民族打楽器の基本奏法を学ぶ
9	作編曲法1: スネアドラム、バスドラム、シンバルを使ってマーチ曲を作曲してみよう！
10	作編曲法2: 楽譜の作成方法、作曲の手法などの実践と考察

11	楽器のメンテナンス方法を学ぶ１：ティンパニのメンテナンスについて。
12	打楽器のメンテナンスについて２：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のメンテナンスについて。
13	打楽器のチューンングについて１：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のチューニングについて。
14	楽器のチューニング方法を学ぶ２：ティンパニのチューニングについて。

15	打楽器奏法実習2：カスタネットの奏法研究。
授業計画	
	［後期］
1	オーケストラスタディ４：オーケストラ奏者を目指す上で必要な事柄を学ぶ。オーディションに向けての心構え、練習方法について。
2	オーケストラスタディ５：実際にオーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの演奏のポイント、注意すべき点などを学習する。この回では特にスネアドラムのパートに焦点をあてる。

3	オーケストラスタディ６：オーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの中から、シンバと、、トライアングル、タンバリンなどをはじめとする小物楽器のパートに焦点をあてて学習する。
4	オーケストラスタディ７：ティンパニのレパートリーの学習。
5	オーケストラスタディ８：シロフォン、グロッケンシュピールなどの鍵盤打楽器パートの学習。
6	吹奏楽打楽器研究４：具体的な例として吹奏楽曲「ぐるりよざ」を取り上げ、曲の中で演奏される打楽器パートの効果的な奏法を学ぶ。また、スコアを見ながら打楽器パートと他楽器のパートがどのように絡んでいるか、それによる各所でのバランスの取り方などを確認。

7	バッハ研究２：　例としてバッハ無伴奏チェロ組曲の中の1曲を取り上げ、打楽器であるマリンバでこの作品演奏する上でのアプローチの仕方について研究する。
8	コンチェルト研究１：マルチパーカッションのための協奏曲の研究
9	コンチェルト研究２：鍵盤打楽器のための協奏曲の研究
10	作編曲法3: 最終課題 打楽器アンサンブル作品の発表 任意の編成で作品を完成させ、実演する

11	楽器メンテナンス３：鍵盤打楽器のメンテナンスについて学習する。
12	楽器メンテナンス４：金属打楽器、小物打楽器のメンテナンスについて学習する。
13	海外招聘講師及び客員教授による特別レッスン。
14	打楽器奏法実習３：ハンドパーカッションの基本奏法を学ぶ

15	履修学生が将来目指す職業の中で、この授業で学んだ様々な事をどのように活かしていけるかについての発表とディスカッション。１年間の授業の統括とする。

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　［金1］ポピュラー奏法研究						
代表教員	原田　昭宏	授業コード	IE2801F0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	赤塚　博美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性を更に深く研究する。それぞれの研究論文の内容も含め、専門的に追求することを目標とする。

２．授業概要

音楽家として活動をするために必要な知識を得て、実習を行ないながら、それぞれのレベルアップを目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習の授業が多いので、予習、復習は、積極的に行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み・・70%、課題評価・・30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	課題を実習しながら、より深く音楽を追求していく。
1	音楽基礎講座　ソルフェージュや理論など指導者になるために必要な知識を学ぶ。
2	音楽基礎講座　キーボードハーモニーや伴奏付けなど指導者になるために必要な知識を学ぶ。

3	JSL講座(留学生のための) 日本語を第2外国語とする学生の日本語講座　授業を受けるための日本語
4	JSL講座(留学生のための) 日本語を第2外国語とする学生の日本語講座　音楽を表現するために使う日本語
5	大衆音楽研究 分数コードやsus2の和音など80年代以降に生まれた新しい響きの和音について解説
6	大衆音楽研究 David Foster の作品の和声進行や転調についての分析

7	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガン　アレンジの基礎（アレンジ手法・構成・ジャンル・リズム・コード進行）
8	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガン　アレンジの基礎（イントロ・エンディング・間奏等）
9	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアレンジ　コードプログレッション1（Diatonic Scale Chords）
10	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアレンジ　コードプログレッション2

11	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアレンジ3　楽曲アナリーゼ（虹の彼方に）
12	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアンサンブル4　アレンジ、コードプログレッション
13	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアンサンブル4　アレンジとコードプログレッション応用編
14	ポピュラー奏法特別研究 作品発表とディスカッション

15	バンドアレンジ研究 課題のアレンジ実習　構成の考え方
授業計画	
1	バンドアレンジ研究 アレンジ曲の演奏
2	バンドアレンジ研究 アレンジ曲のアンサンブルと音色研究

3	バンドアレンジ研究 アンサンブル実習とアレンジの確認と実際　基本
4	バンドアレンジ研究 アンサンブル実習とアレンジの確認と実際　応用
5	即興演奏実習 モチーフを使ったクラシックスタイル即興演奏の実際
6	即興演奏実習 クラシックスタイル即興演奏の実際２

7	即興演奏実習 ポピュラースタイル即興演奏の実際
8	キーボード研究（パイプオルガン） パイプオルガンの歴史
9	キーボード研究（パイプオルガン） 奏法研究
10	キーボード研究（チェンバロ） 歴史と楽器の種類

11	キーボード研究（チェンバロ） 通奏低音奏法入門
12	即興演奏実習 モチーフ即興のためのトレーニング
13	即興演奏実習 モチーフ即興のスタイル研究
14	即興演奏実習 モチーフ即興の分析とまとめ

15	電子オルガンの演奏法　アコースティック楽器の奏法研究

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　[土3]						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2801G0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を５回で１クールとして、1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。　総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「プロフェッショナル特殊研究３」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	［前期］ 大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「プロフェッショナル特殊研究３」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。
1	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究

3	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説

7	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 / 研究成果発表と講評

11	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独唱曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服

15	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲研究 / 研究成果発表と講評
授業計画	
	［後期］ 講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究

3	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説

7	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独唱曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 研究成果発表と講評

11	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服

15	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 研究成果発表と講評

科目名	プロフェッショナル特殊研究２　［火4］2台ピアノ						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	IE2802A1	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾・イタリア式装飾の演奏技法

3	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
4	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～

7	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
8	器楽伴奏法（１）～器楽伴奏におけるピアニストの役割～
9	ピアノ連弾、2台ピアノ作品の作品研究と楽曲分析
10	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～

11	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
12	指導法特別講座 （１）初期指導における教材研究
13	指導法特別講座 （２）幼児からのソルフェージュの流れ、指導法
14	指導法特別講座 （３）演奏の土台となるテクニックの養成

15	指導法特別講座 （４）オンラインレッスンの組み立て方
授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	指導法特別講座 （５）バロック・古典作品の指導の実践～バッハ・ソナチネを中心に～
2	指導法特別講座 （６）ロマン派作品の指導の実践～ピティナコンペ課題曲を中心に～

3	指導法特別講座 （７）近現代作品の指導の実践～邦人作品を中心に～
4	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～
5	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
6	指揮者によるオペラ研究（２）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～

7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～コレペティトールにおける歌唱指導～
8	歌曲伴奏法（２）～歌曲と独奏曲の相違点～
9	器楽伴奏法（２）～コンチェルト伴奏についての研究。オーケストラ版の奏法について～
10	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》

11	近現代作品における奏法研究～ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》～
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性

15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究２　［月4］ピアノ作品分析演習						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	IE2802A2	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	浦壁　信二、鳥羽瀬　宗一郎						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾・イタリア式装飾の演奏技法

3	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
4	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～

7	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
8	器楽伴奏法（１）～器楽伴奏におけるピアニストの役割～
9	ピアノ連弾、2台ピアノ作品の作品研究と楽曲分析
10	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～

11	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
12	指導法特別講座 （１）初期指導における教材研究
13	指導法特別講座 （２）幼児からのソルフェージュの流れ、指導法
14	指導法特別講座 （３）演奏の土台となるテクニックの養成

15	指導法特別講座 （４）オンラインレッスンの組み立て方
授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	指導法特別講座 （５）バロック・古典作品の指導の実践～バッハ・ソナチネを中心に～
2	指導法特別講座 （６）ロマン派作品の指導の実践～ピティナコンペ課題曲を中心に～

3	指導法特別講座 （７）近現代作品の指導の実践～邦人作品を中心に～
4	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～
5	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
6	指揮者によるオペラ研究（２）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～

7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～コレペティトールにおける歌唱指導～
8	歌曲伴奏法（２）～歌曲と独奏曲の相違点～
9	器楽伴奏法（２）～コンチェルト伴奏についての研究。オーケストラ版の奏法について～
10	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》

11	近現代作品における奏法研究～ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》～
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性

15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究２　［月1］［月3］［火2］伴奏法						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	IE2802A3	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	原田　愛、冨平　恭平、服部　容子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾・イタリア式装飾の演奏技法

3	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
4	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～

7	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
8	器楽伴奏法（１）～器楽伴奏におけるピアニストの役割～
9	ピアノ連弾、2台ピアノ作品の作品研究と楽曲分析
10	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～

11	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
12	指導法特別講座 （１）初期指導における教材研究
13	指導法特別講座 （２）幼児からのソルフェージュの流れ、指導法
14	指導法特別講座 （３）演奏の土台となるテクニックの養成

15	指導法特別講座 （４）オンラインレッスンの組み立て方
授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	指導法特別講座 （５）バロック・古典作品の指導の実践～バッハ・ソナチネを中心に～
2	指導法特別講座 （６）ロマン派作品の指導の実践～ピティナコンペ課題曲を中心に～

3	指導法特別講座 （７）近現代作品の指導の実践～邦人作品を中心に～
4	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～
5	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
6	指揮者によるオペラ研究（２）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～

7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～コレペティトールにおける歌唱指導～
8	歌曲伴奏法（２）～歌曲と独奏曲の相違点～
9	器楽伴奏法（２）～コンチェルト伴奏についての研究。オーケストラ版の奏法について～
10	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》

11	近現代作品における奏法研究～ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》～
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性

15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究２　［火2］大学院オーケストラ演習						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2802C1	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	岩本　伸一						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

２年次はさらに高度なオーケストラスタディや演奏法を研究する。

２．授業概要

年度初めに以下の２項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。
A＝特別アンサンブル研究1.2（小編成）
ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。
B＝室内オーケストラ研究1.2

３．授業時間外の学習（予習復習について）

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。
室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング（CDを含む）を責任を持って予習し、練習に臨む事。

４．成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜（スコア）を準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
A＝３～８重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。 B＝オーケストラ団員としての積極的な授業参加。

授業計画	
	［前期］ A＝特別アンサンブル研究1.2（小編成） 前期 研究発表会（７月・講堂） 後期 アンサンブル研究コンサート（12月・SM） B＝室内オーケストラ研究1.2 定期演奏会（6月・前田ホール）
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究　三重奏曲の分析

3	特別アンサンブル研究　三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究　四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究　四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究　五重奏曲の楽曲分析

7	特別アンサンブル研究　五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究　六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究（三重奏曲　研究演奏練習）
10	特別アンサンブル研究（四重奏曲　研究演奏練習）

11	特別アンサンブル研究（五重奏曲　研究演奏練習）
12	室内オーケストラ分奏（序曲　研究演奏練習）
13	室内オーケストラ分奏（研究発表会前半総合練習）
14	室内オーケストラ分奏（研究発表会後半総合練習）

15	特別アンサンブル研究（研究演奏会）

授業計画

	［後期］ A＝特別アンサンブル研究1.2（小編成） 後期 アンサンブル研究コンサート（１２月・講堂） B＝室内オーケストラ研究1.2 大学院コンチェルトの夕べ（10月・前田ホール） 学部・大学院オペラ管弦楽団(未定） 大学院オラトリオ（未定）
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析(フルート）

3	特別アンサンブル研究１．２　ピアノ三重奏曲の分析（オーボエ）
4	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析（クラリネット）
5	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析（サクソフォン）
6	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（フルート）

7	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（オーボエ）
8	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（クラリネット）
9	特別アンサンブル研究　金管楽器特殊編成
10	室内オーケストラ分奏（コンチェルトの夕べ）ピアノ協奏曲

11	室内オーケストラ分奏（コンチェルトの夕べ）弦楽器協奏曲
12	特別アンサンブル研究（オラトリオアンサンブル研究コンサート練習）
13	特別アンサンブル研究（アンサンブル研究コンサート演奏会）
14	特別アンサンブル研究（オペラ研究コンサート練習）

15	特別アンサンブル研究（オペラ研究コンサート演奏会）

科目名	プロフェッショナル特殊研究２　［月2］SX・EP特別講座						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2802C2	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	岩本　伸一						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

２年次はさらに高度な練習法と本番を通じて心構えや演奏姿勢を学ぶ。

２．授業概要

年度初めに以下の２項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。
特別アンサンブル研究1.2（小編成）
ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。
室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング（CDを含む）を責任を持って予習し、練習に臨む事。

４．成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜（スコア）を準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
サクソルン族（SX・EP）３～８重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	特別アンサンブル研究　三重奏曲の分析

3	特別アンサンブル研究　三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究　四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究　四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究　　五重奏曲の楽曲分析

7	特別アンサンブル研究　五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究　六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究（三重奏曲　研究演奏練習）
10	特別アンサンブル研究（四重奏曲　研究演奏練習）

11	特別アンサンブル研究　（五重奏曲　研究演奏練習）
12	サクソルン族のアンサンブル2重奏
13	サクソルン族のアンサンブル3重奏
14	サクソルン族のアンサンブル4重奏

15	全体で後期管楽器プロフェッショナル研究会 プログラム立案会議
授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析（フルート）

3	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析（オーボエ）
4	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏の分析（クラリネット）
5	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏の分析（サクソフォン）
6	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（フルート）

7	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（オーボエ）
8	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（クラリネット）
9	特別アンサンブル研究　金管楽器特殊編成
10	管楽器プロフェッショナル研究演奏会レッスン１ ピアノを含まない曲目

11	管楽器プロフェッショナル研究演奏会レッスン２ ピアノを含まない曲目
12	管楽器プロフェッショナル研究演奏会レッスン３ ピアノを含む曲目
13	管楽器プロフェッショナル研究演奏会レッスン４ ピアノを含む曲目
14	管楽器プロフェッショナル研究演奏会全体リハーサル

15	管楽器プロフェッショナル研究演奏会本番

科目名	プロフェッショナル特殊研究２　［金1］オーケストラスタディ						
代表教員	井手上　達	授業コード	IE2802E0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	石井　喜久子、清水　太						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各種打楽器のオーケストラ、吹奏楽の中での演奏法、楽器の歴史、楽器メンテナンス方法、音楽療法の分野での打楽器が持つ可能性, バッハ研究その他、打楽器をどの場所でどのように関連させていくことが出来るかというノウハウ、またその実践方法や、その実践にあたり知っておくとよい知識を学ぶ。様々な視点から打楽器について学習することにより、大学院を修了後、社会の中の多種な場での打楽器を活かした活動に繋げていくことを目標とする。

２．授業概要

　基本対面での実施となります。未入国の留学生など、場合によっては同時双方向型の遠隔授業の併用も検討します。
複数担当教員がそれぞれ複数回の授業でそれぞれの専門的な知識と経験に基づいた講座、演習指導を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講学生は各担当教員の事前の指示による授業内容の予習、演習の場合は事前練習を行うことが望ましい。授業後にはその内容を自分がきちんと理解出来ているかという確認、また、特に演習授業の場合は授業受講後に課題習得のための練習を行うことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢、演習課題の消化と実践演奏技量などを考慮し決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト、楽譜など受講学生がそれぞれ準備する。著作物の取り扱いについては使用方法に問題がないかそのつど確認する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］
1	オーケストラスタディ１：オーケストラの歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
2	オーケストラスタディ２：主に古典、ロマン派の時代の具体的な楽曲（モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどの交響曲他）を取り上げ、その中で演奏される各種打楽器の奏法、音色の解釈などを実演を交えながら学習する。

3	オーケストラスタディ３：２０世紀以降の楽曲における打楽器群の奏法や音色についての学習。また、現代作品での特殊奏法などについて、楽曲の音源を聴きながら確認と実演を伴う学習を行う。
4	吹奏楽打楽器研究１：吹奏楽の歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
5	吹奏楽打楽器研究２：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、リズムについて考察する。
6	吹奏楽打楽器研究３：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、特に鍵盤打楽器が担うメロディー、ハーモニーについて考察する。

7	バッハ研究１：　マリンバなどの鍵盤打楽器で演奏されることも多いバッハの作品のアナリーゼ。また、バッハを軸にバロック以前の音楽と楽器、そこから近現代の音楽まで、どのような関連性を見られるか、など、歴史と楽器の成り立ちを検証し、知識を深める。
8	打楽器奏法実習1：各種民族打楽器の基本奏法を学ぶ
9	作編曲法1: スネアドラム、バスドラム、シンバルを使ってマーチ曲を作曲してみよう！
10	作編曲法2: 楽譜の作成方法、作曲の手法などの実践と考察

11	楽器のメンテナンス方法を学ぶ１：ティンパニのメンテナンスについて。
12	打楽器のメンテナンスについて２：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のメンテナンスについて。
13	打楽器のチューンングについて１：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のチューニングについて。
14	楽器のチューニング方法を学ぶ２：ティンパニのチューニングについて。

15	打楽器奏法実習2：カスタネットの奏法研究。
授業計画	
	［後期］
1	オーケストラスタディ４：オーケストラ奏者を目指す上で必要な事柄を学ぶ。オーディションに向けての心構え、練習方法について。
2	オーケストラスタディ５：実際にオーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの演奏のポイント、注意すべき点などを学習する。この回では特にスネアドラムのパートに焦点をあてる。

3	オーケストラスタディ６：オーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの中から、シンバと、、トライアングル、タンバリンなどをはじめとする小物楽器のパートに焦点をあてて学習する。
4	オーケストラスタディ７：ティンパニのレパートリーの学習。
5	オーケストラスタディ８：シロフォン、グロッケンシュピールなどの鍵盤打楽器パートの学習。
6	吹奏楽打楽器研究４：具体的な例として吹奏楽曲「ぐるりよざ」を取り上げ、曲の中で演奏される打楽器パートの効果的な奏法を学ぶ。また、スコアを見ながら打楽器パートと他楽器のパートがどのように絡んでいるか、それによる各所でのバランスの取り方などを確認。

7	バッハ研究２：　例としてバッハ無伴奏チェロ組曲の中の1曲を取り上げ、打楽器であるマリンバでこの作品演奏する上でのアプローチの仕方について研究する。
8	コンチェルト研究１：マルチパーカッションのための協奏曲の研究
9	コンチェルト研究２：鍵盤打楽器のための協奏曲の研究
10	作編曲法3: 最終課題 打楽器アンサンブル作品の発表 任意の編成で作品を完成させ、実演する

11	楽器メンテナンス３：鍵盤打楽器のメンテナンスについて学習する。
12	楽器メンテナンス４：金属打楽器、小物打楽器のメンテナンスについて学習する。
13	海外招聘講師及び客員教授による特別レッスン。
14	打楽器奏法実習３：ハンドパーカッションの基本奏法を学ぶ

15	履修学生が将来目指す職業の中で、この授業で学んだ様々な事をどのように活かしていけるかについての発表とディスカッション。１年間の授業の統括とする。

科目名	プロフェッショナル特殊研究２　［金2］奏法研究・伴奏法研究						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE2802F0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	原田　昭宏						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性を更に深く研究する。それぞれの研究論文の内容も含め、専門的に追求することを目標とする。

２．授業概要

即興演奏、楽器法、奏法研究などを深く研究することにより、電子オルガンのレベルの高い演奏や表現に結び付ける

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習の授業が多いので、予習、復習は、積極的に行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み・・70%、課題評価・・30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	課題を実習しながら、より深く音楽を追求していく。
1	ポピュラー奏法研究　電子オルガンの音色研究（合成音色の考察）
2	ポピュラー奏法研究　電子オルガンの音色研究２（定位とリズム音色の考察）

3	ポピュラー奏法研究　電子オルガンの音色研究3（音色に対するタッチ表現の考察）
4	ポピュラー奏法研究　電子オルガンの音色研究4　（ミキシングの考察）
5	ポピュラー奏法研究　電子オルガンのヴォイシング1
6	ポピュラー奏法研究　電子オルガンのヴォイシング2　（コード進行）

7	ポピュラー奏法研究　電子オルガンの楽曲研究（アレンジの考察）
8	即興演奏実習　コードトレーニング①長調　基礎
9	即興演奏実習　コードトレーニング②　長調　応用
10	即興演奏実習　コードトレーニング③短調　基礎

11	即興演奏実習　コードトレーニング④短調　応用
12	B即興　基礎
13	B即興　応用
14	B即興　発展

15	即興演奏に於けるコードプログレッション
授業計画	
1	伴奏法研究　伴奏の考え方について　概論
2	伴奏法研究（アコースティック楽器とのデュオについて） 選曲のポイントとアレンジのポイント

3	伴奏法研究（アコースティック楽器とのデュオについて） アコースティック楽器との演奏の場合の、音色のポイント
4	伴奏法研究（声楽やアコースティック楽器の伴奏の場合） オーケストラ作品に書かれていない作品の伴奏の場合、アレンジや音色のポイント
5	伴奏法研究 実際の楽器や声楽との試演、発表
6	楽器研究と奏法（木管楽器）オーボエの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。

7	楽器研究と奏法（木管楽器）フルートの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
8	楽器研究と奏法（弦楽器）バイオリンの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
9	楽器研究と奏法（弦楽器）チェロの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
10	楽器研究と奏法（金管楽器）ホルンの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。

11	楽器研究と奏法（金管楽器）トロンボーンの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
12	楽器研究と奏法（打楽器）打楽器の実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
13	大衆音楽研究　概論
14	大衆音楽研究　作品分析

15	大衆音楽研究　実習

科目名	プロフェッショナル特殊研究２　［土5］						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2802G0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	GH			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を５回で１クールとして、1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。　総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「プロフェッショナル特殊研究４」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究

3	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 導入編～研究に向けての概説

7	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 研究成果発表と講評

11	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服

15	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 研究成果発表と講評
授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究

3	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 導入編～研究に向けての概説

7	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 研究成果発表と講評

11	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 機材設置の基礎と実践
13	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 演奏実践第一段階・・・問題点の洗い出し
14	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 演奏実践第二段階・・・問題点の克服

15	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 研究成果発表と講評

科目名	プロフェッショナル特殊研究３　［月1-3］スペシャル公開講座						
代表教員	沼田　園子	授業コード	IE2803D0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

著名なアーチスト達の公開レッスンを通して演奏水準を高める。
オーケストラの経験を通して幅広い音楽性を身に着ける。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

世界的に活躍する著名なアーチスト達の公開レッスン及び外部招聘演奏家による特別レッスンを行う。
ピアニストとして田中麻紀講師を迎えている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

しっかりと練習をした上で講座を受けてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢。出欠席の講師の先生方への連絡、学生同士の連絡を徹底して滞りなく授業ができるよう努力する姿勢を評価の一部とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト。楽譜など受講学生が各自で用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
聴講生も楽譜を持参すること。

授業計画	
	［前期］
1	前期オリエンテーション
2	ベートーヴェン　ヴァイオリンソナタについて研究

3	ベートーヴェン　チェロソナタについて研究
4	バッハ　チェロ組曲について研究
5	バッハ　チェロ組曲についての見解
6	バッハ　無伴奏パルティータＮＯ．1について研究

7	室内管弦楽団 ベートーヴェン　交響曲について
8	フェデリコアゴスティーニ客員教授特別レッスン（前半チーム）
9	フェデリコアゴスティーニ客員教授特別レッスン（後半チーム）
10	バッハ無伴奏　ソナタNO.2

11	シュターミッツ　協奏曲の研究
12	ブラームス　協奏曲の研究
13	チャイコフスキー　ヴァイオリン協奏曲の研究
14	グラズノフ　ヴァイオリン協奏曲の研究

15	ブラームス　ソナタＮＯ．1の研究
授業計画	
	［後期］
1	後期オリエンテーション
2	ブラームス　ヴァイオリンソナタＮＯ．2の研究

3	ブラームス　チェロソナタの研究
4	ブラームス　ヴィオラソナタＮＯ．1の研究
5	ブラームス　ヴィオラソナタＮＯ．2の研究
6	バッハ　無伴奏ソナタNO.2について研究

7	室内管弦楽団 ブラームス　交響曲について
8	オレグ・クリサ教員教授特別レッスン
9	竹澤恭子客員教授特別レッスン
10	バッハ無伴奏　ソナタNO.3

11	バッハ無伴奏　パルティータNO.2の研究
12	バッハ無伴奏　パルティータNO.3
13	グリーグ　ヴァイオリンソナタの研究
14	モーツァルト　ヴァイオリン協奏曲の研究

15	バルトーク　協奏曲の研究

科目名	プロフェッショナル特殊研究３　[土3]						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2803G0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業末ジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を５回で１クールとして、1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
大学院修士課程２年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。１年目の「プロフェッショナル特殊研究１」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。当然のことながら、「プロフェッショナル特殊研究１」を履修していることが望ましい。

授業計画	
	大学院修士課程２年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。１年目の「プロフェッショナル特殊研究１」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。
1	講師Ａレッスン（第１クール）～古典合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究

3	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究

7	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

11	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独唱曲応用研究 / 楽譜徹底研究
13	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服

15	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～作品背景徹底研究、2)楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究

3	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用湯研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究

7	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独唱曲応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・改善必要点の洗い出し
9	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

11	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 譜楽譜徹底研究お
13	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服

15	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究４　［土5］						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2804G0	科目コード	IE2804	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を５回で１クールとして、1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

各レッスンゲスト講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。
総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
大学院修士課程２年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。１年目の「プロフェッショナル特殊研究２」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。当然のことながら、「プロフェッショナル特殊研究２」を履修していることが望ましい。

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～作品背景徹底研究、2)楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 楽譜徹底研究

3	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 導入編～作品背景徹底研究

7	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

11	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 楽譜徹底研究
13	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要問題点の克服

15	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～作品背景徹底研究、2)楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 楽譜徹底研究

3	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究

7	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

11	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 機材設置の基礎と実践
13	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 演奏実践第一段階・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 演奏実践第二段階・・・改善必要点の克服

15	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

科目名	アンサンブル研究１　［月2］クラシックアンサンブル							
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE281100	科目コード	IE2811	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	E0			科目分類	専門選択			
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

スコアリーディングにより、オーケストラ作品を課題として取り上げ、音楽表現の方法やアンサンブルテクニックを学ぶ。（クラシック）
電子オルガンによるポピュラー作品のアンサンブルを取り上げる。バンドの中でのキーボードとしての役割なども学び、経験する。（ポピュラー）　電子オルガン２台又は３台によるアンサンブル、指揮とともに、又はバンドのメンバーとともに演奏することにより、音楽を立体的に感じられるようになることを到達目標にする。集大成として、演奏会で本番を行う。

２．授業概要

指揮者と共に電子オルガン２台又は３台によるアンサンブル実習（クラシック）
電子オルガンによるアンサンブル、ドラムなどバンドメンバーとの共演によるアンサンブル実習（ポピュラー）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲目決定後、譜読み、音色作りを行う。それと同時に楽曲について、下調べをしておくこと。参考音源なども聞いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏の準備状況（評価の50%）
楽曲に対する理解力、表現力（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
アンサンブルのため、極力、欠席をしないこと。

授業計画	
1	ガイダンス【クラシック】授業概要、目標設定
2	クラシックアンサンブル①選曲並びに課題研究

3	クラシックアンサンブルの実習②2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習　基本
4	クラシックアンサンブルの実習③2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習　応用
5	クラシックアンサンブルの実習④パート毎の音色研究
6	クラシックアンサンブルの実習⑤2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定

7	クラシックアンサンブル実習⑥2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定　基本
8	クラシックアンサンブル実習⑦2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定　応用
9	クラシックアンサンブル実習⑧　楽器と奏法の関係について　基本
10	クラシックアンサンブル実習⑨　楽器と奏法の関係について　応用

11	クラシックアンサンブル実習⑩　曲全体のまとめ方と表現について
12	ポピュラーアンサンブル実習①アンサンブル概要並びに選曲
13	ポピュラーアンサンブル実習②バンドスタイルの形態の研究
14	ポピュラーアンサンブル実習③課題曲のアレンジ分析

15	ポピュラーアンサンブル実習④課題のアレンジ分析と音出し
授業計画	
1	ポピュラーアンサンブル実習⑤エレクトリックベース奏法研究とアレンジ
2	ポピュラーアンサンブル実習⑥エレクトリックギターの奏法研究とアレンジ

3	ポピュラーアンサンブル実習⑦ドラムの奏法研究とアレンジ
4	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習
5	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習　アレンジ作品の音出しとクリニック
6	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習　アレンジ作品の発表とまとめ

7	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習　キーボーディストとしてのアレンジのポイント
8	クラシックアンサンブル実習　演奏会用課題曲の音出しとバランス研究
9	クラシックアンサンブル実習　ソリストとの合わせ
10	クラシックアンサンブル実習　ソリストとの合わせ　ホールでのバランスや音作り

11	スコアリーディング研究　課題曲の譜読み
12	スコアリーディング研究　譜読みと分析
13	スコアリーディング研究　音色研究
14	スコアリーディンク研究　フレーズの解釈と表現

15	スコアリーディング研究　本番でのバランス作り、リバーブなどの設定研究

科目名	アンサンブル研究２　［火4］クラシックアンサンブル							
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE281200	科目コード	IE2812	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	EO			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スコアリーディングにより、オーケストラ作品を課題として取り上げ、音楽表現の方法やアンサンブルテクニックを学ぶ。（クラシック）
電子オルガンによるポピュラー作品のアンサンブルを取り上げる。バンドの中でのキーボードとしての役割なども学び、経験する。（ポピュラー）　電子オルガン２台又は３台によるアンサンブル、指揮とともに、又はバンドのメンバーとともに演奏することにより、音楽を立体的に感じられるようになることを到達目標にする。集大成として、演奏会で本番を行う。

２．授業概要

指揮者と共に電子オルガン２台又は３台によるアンサンブル実習（クラシック）
電子オルガンによるアンサンブル、ドラムなどバンドメンバーとの共演によるアンサンブル実習（ポピュラー）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲目決定後、譜読み、音色作りを行う。それと同時に楽曲について、下調べをしておくこと。参考音源なども聞いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏の準備状況（評価の50%）
楽曲に対する理解力、表現力（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
アンサンブルのため、極力、欠席をしないこと。

授業計画	
	クラシックアンサンブルに関して、前期は、秋に行われる管楽器とのコンチェルトを課題曲にし、その準備を中心に進める。
1	ガイダンス【クラシック】授業概要、目標設定
2	クラシックアンサンブル①選曲並びに課題研究

3	クラシックアンサンブルの実習②2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習
4	クラシックアンサンブルの実習③2台又は3台など複数楽器でのアンサンブル。管楽器（木管）の譜読みと奏法研究
5	クラシックアンサンブルの実習④金管楽器の譜読みと奏法研究
6	クラシックアンサンブルの実習⑤弦楽器の譜読みと奏法研究

7	クラシックアンサンブル実習⑥2台又は3台でのアンサンブルに於ける音色研究
8	クラシックアンサンブル実習⑦2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定
9	クラシックアンサンブル実習⑧　ソロ部分の音楽研究
10	クラシックアンサンブル実習⑨　指揮合わせ

11	クラシックアンサンブル実習⑩　曲全体のまとめ方と表現について
12	ポピュラーアンサンブル実習①アンサンブル概要並びに選曲
13	ポピュラーアンサンブル実習②バンドスタイルの形態の研究
14	ポピュラーアンサンブル実習③課題曲のアレンジ分析

15	ポピュラーアンサンブル実習④課題のアレンジ分析と音出し
授業計画	
	クラシックアンサンブルに関して、後期は、冬に行われる弦楽器のコンチェルトを課題曲にし、その準備を中心に進める。
1	ポピュラーアンサンブル実習⑤エレクトリックベース奏法研究とアレンジ
2	ポピュラーアンサンブル実習⑥エレクトリックギターの奏法研究とアレンジ

3	ポピュラーアンサンブル実習⑦ドラムの奏法研究とアレンジ
4	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習
5	クラシックアンサンブル実習　ソリスト(フルート・オーボエ）との合わせ
6	クラシックアンサンブル実習　ソリスト（クラリネット・サックス）との合わせ

7	クラシックアンサンブル実習　ソリスト（金管楽器）との合わせ
8	管楽器コンチェルトのリハーサルに於けるサウンド作り
9	クラシックアンサンブル実習　弦楽器コンチェルトとのパート分け
10	クラシックアンサンブル実習　譜読み（木管楽器の譜読みと奏法研究）

11	クラシックアンサンブル実習　譜読み（金管楽器の譜読みと奏法研究）
12	クラシックアンサンブル実習　譜読み（弦楽器の譜読みと奏法研究）
13	スコアリーディング研究　音色研究
14	ソリストと共に指揮合わせ

15	スコアリーディング研究　本番でのバランス作り、リバーブなどの設定研究

科目名	作曲・編曲法１　[金3]						
代表教員	三宅　康弘	授業コード	IE282100	科目コード	IE2821	期間	通年
担当教員	赤塚　博美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンを用いた作編曲ができるようになる。
そのため、基本的な形式から曲の分析をはじめ、形式を重視した作曲をし、授業内発表していく。

２．授業概要

前期は、同じ鍵盤楽器であるピアノ作品を用いて、様々な形式を分析する。
また、2部形式とソナタ形式の作曲に取り組み、ピアノで音出しをする。
後期は、電子オルガンのために書かれたオリジナル作品を分析し、楽器の奏法や機能に着目した作曲法について研究する。
また、ピアノ作品を用いて変奏曲を分析し、変奏曲の作曲に取り組み、電子オルガンで音出しをする。
【授業内容により、遠隔授業も数回程度併用して実施する】

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自分が分析担当になった作品は、自力で分析譜を作成し、授業前にクラスルームにデータをアップしておき、発表当日は演奏しながら分析発表を行うこと。
自分が分析担当になっていない作品も、事前に音源を聴いておくこと。
年に3回行われる作品提出・発表は、授業内に分析した作曲家のアイディアを参考に作曲すること。
想定必要時間は2時間程度になる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点30%、分析発表30%、作品提出・発表40%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
本授業履修後は、様々なスタイルのクラシック・ポピュラー作品を作編曲する「作曲・編曲法2」を履修することが望まれる。既存の電子オルガン音楽に満足することなく、大学院生として、新たな電子オルガンの世界を切り開いていく人材となることを期待したい。

授業計画	
	［前期］ ＊各回の授業内容は、進度により変更することがある。
1	ガイダンス 様々な音楽形式について
2	ブルクミュラーの分析（作品a） 2部形式の作曲法（旋律作法a）

3	ブルクミュラーの分析（作品b） 2部形式の作曲法（旋律作法a'）
4	ブルクミュラーの分析（作品c） 2部形式の作曲法（旋律作法b）
5	ブルクミュラーの分析（作品d） 2部形式の作曲法（伴奏形）
6	ブルクミュラーの分析（作品e） 2部形式の作曲法（アーティキュレーション）

7	ブルクミュラーの分析（作品f） 2部形式の作曲法（ダイナミクス）
8	作品発表①（2部形式）
9	ソナチネの分析（作品g） ソナタ形式の作曲法（提示部第1主題）
10	ソナチネの分析（作品h） ソナタ形式の作曲法（提示部移行部）

11	ソナチネの分析（作品i） ソナタ形式の作曲法（提示部第2主題）
12	ソナチネの分析（作品j） ソナタ形式の作曲法（提示部コデッタ）
13	ソナチネの分析（作品k） ソナタ形式の作曲法（展開部）
14	ソナチネの分析（作品l） ソナタ形式の作曲法（再現部第1主題）

15	ソナチネの分析（作品m） ソナタ形式の作曲法（再現部第2主題）
授業計画	
	［後期］ ＊各回の授業内容は、進度により変更することがある。
1	作品発表②（ソナタ形式）
2	変奏曲の分析（作品A） 電子オルガン作品の分析（JOC作品初級）

3	変奏曲の分析（作品B） 電子オルガン作品の分析（JOC作品中級）
4	変奏曲の分析（作品C） 電子オルガン作品の分析（アマービレ作品）
5	変奏曲の分析（作品D） 電子オルガン作品の分析（プレイヤー作品初級）
6	変奏曲の分析（作品E） 電子オルガン作品の分析（プレイヤー作品中級）

7	変奏曲の分析（作品F） 電子オルガン作品の分析（日本の現代作品）
8	変奏曲の分析（作品G） 電子オルガン作品の分析（オランダの現代作品）
9	変奏曲の分析（作品H） 変奏曲の作曲法（刺繍音・経過音）
10	変奏曲の分析（作品I） 変奏曲の作曲法（倚音・掛留音）

11	変奏曲の分析（作品J） 変奏曲の作曲法（和声音）
12	変奏曲の分析（作品K） 変奏曲の作曲法（和音）
13	変奏曲の分析（作品L） 変奏曲の作曲法（移旋）
14	変奏曲の分析（作品M） 変奏曲の作曲法（拍子の変更）

15	作品発表③（変奏曲）

科目名	作曲・編曲法２　［木4］編曲演習						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE282200	科目コード	IE2822	期間	通年
担当教員	岩崎　孝昭、高田　和泉、加曽利　康之						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性に、積極的に向き合う。個々の演奏者により、音楽のジャンルやスタイルも違い、それぞれ個性豊かなアレンジ法がある。クラシック、ポピュラーの分野で、現在活躍している4名のプレーヤーから、アレンジのノウハウを学ぶことにより、受講者が自由にアレンジを行えるようになることを目標とする。

２．授業概要

クラシックのアレンジ法①、②、ポピュラーのアレンジ法①、②・・・4名の教員が、それぞれのアレンジ法について、講義並びに実習を行う。
＊やむを得ず、授業計画に変更がある場合がある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当の教員により、課題については異なるが、授業で学んだことは、自分の作品で試してみること。
授業を聞くだけでなく、積極的に幅広い音楽を聴くことも、同時進行すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
平常点（課題、発表など・・・評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
授業で随時配布。

授業計画	
1	ガイダンス。様々な編曲法についての授業内容、進め方について。
2	編曲概論　クラシック並びにポピュラーアレンジ例を分析する。

3	大規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品B） （形式を中心に）
4	クラシック編曲法①講義並びに実習　スコアリーディングの実習
5	クラシック編曲法①講義並びに実習　スコアリーディングについて（2管編成）
6	クラシック編曲法①講義並びに実習　スコアリーディングの実習

7	クラシック編曲法①講義と実習　弦楽合奏のアレンジ
8	クラシック編曲法①講義と実習　フルオーケストラのリダクションについて
9	ポピュラー編曲法①講義と実習　（ポピュラーアレンジの基礎概論）
10	ポピュラー編曲法①講義と実習　コードについて

11	ポピュラー編曲法①講義と実習　コードプログレッションについて
12	ポピュラー編曲法①講義と実習　コードプログレッションについて　応用編
13	ポピュラー編曲法①講義と実習　バッキングについて 基礎編
14	ポピュラー編曲法①講義と実習　バッキングについて 応用編

15	ポピュラー編曲法①講義と実習　ベースラインについて
授業計画	
1	ポピュラー編曲法②（ガイダンス）
2	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　様々なポピュラーのスタイルについて

3	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　様々なスタイルにアレンジ実習
4	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　ポピュラーアレンジの構成について
5	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　実際、アレンジしたものへのクリニック　形式の確認
6	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　実際、アレンジを行ったものへのクリニック　個人チェックを行なう。

7	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　実際、アレンジを行ったものへのクリニック　楽譜を仕上げる。
8	クラシック編曲法②実習（ピアノの小品より）弦楽器とソロ楽器編成のアレンジについて
9	クラシック編曲法②実習（ピアノの小品より）オーケストレーションを考えたアレンジについて
10	クラシック編曲法②実習（ピアノの小品より）オーケストレーションを考えたアレンジについての分析

11	クラシック編曲法②実習（ピアノの小品より）オーケストレーションを考えたアレンジについて
12	クラシック編曲法②実習（ピアノの作品より）電子音を使ったアレンジ
13	メロディ譜より、自由なスタイルのアレンジ実習 全体のスタイルを決め、楽譜を書く。
14	メロディ譜より、自由なスタイルのアレンジ実習　仕上げの演奏。

15	まとめ並びに成果発表

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	IE2841A0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

2．授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚、優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。 不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（室内楽におけるピアニストの役割）
2	アンサンブル研究（バロック作品における形式と演奏スタイルの考察）

3	アンサンブル研究（ヘンデル）
4	アンサンブル研究（バッハ）
5	アンサンブル研究（ヴィヴァルディ）
6	アンサンブル研究（テレマン）

7	アンサンブル研究（古典作品における形式と演奏スタイルの考察）
8	アンサンブル研究（ハイドン）
9	アンサンブル研究（モーツァルト）
10	アンサンブル研究（ベートーヴェン）

11	アンサンブル研究（ロマン派作品における作品研究と考察）
12	アンサンブル研究（シューベルト）
13	アンサンブル研究（ブラームス）
14	アンサンブル研究（メンデルスゾーン）

15	アンサンブル研究（ロッシーニ）

授業計画

	［後期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ウェーバー）
2	アンサンブル研究（ショパン）

3	アンサンブル研究（リスト）
4	アンサンブル研究（近現代作品における作品研究と考察）
5	アンサンブル研究（バルトーク）
6	アンサンブル研究（フォーレ）

7	アンサンブル研究（ドビッシー）
8	アンサンブル研究（ラヴェル）
9	アンサンブル研究（フランセ）
10	アンサンブル研究（プーランク）

11	アンサンブル研究（室内楽作品における音楽表現、曲の構造の考察、和声の考察）
12	アンサンブル研究（試験曲の分析）
13	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
14	アンサンブル研究（試演会リハーサル）

15	試演会

科目名	アンサンブル研究１						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2841C0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

２．授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚、優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。 不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究　バロックの音楽
2	アンサンブル研究（ヘンデル）

3	アンサンブル研究（バッハ）
4	アンサンブル研究（ヴィヴルディ）
5	アンサンブル研究（テレマン）
6	アンサンブル研究　古典派の音楽

7	アンサンブル研究（ハイドン）
8	アンサンブル研究（モーツァルト）
9	アンサンブル研究（ベートーヴェン）
10	アンサンブル研究　ドイツロマン派の音楽

11	アンサンブル研究（シューベルト）
12	アンサンブル研究（ブラームス）
13	アンサンブル研究（メンデルスゾーン）
14	アンサンブル研究（ロッシーニ）

15	アンサンブル研究（ウェーバー）
授業計画	
	［後期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究　フランスロマン派の音楽
2	アンサンブル研究（フォーレ）

3	アンサンブル研究（ショパン）
4	アンサンブル研究（リスト）
5	アンサンブル研究　近現代の音楽
6	アンサンブル研究（試験曲の分析）

7	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
8	アンサンブル研究（試験曲リハーサル）
9	アンサンブル研究（ドビュッシー）
10	アンサンブル研究（ラヴェル）

11	アンサンブル研究（フランセ）
12	アンサンブル研究（試験曲の分析）
13	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
14	アンサンブル研究（試演会リハーサル）

15	試演会

科目名	アンサンブル研究１						
代表教員	沼田　園子	授業コード	IE2841D0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演奏をする上で大切な事は、他の楽器の音も聴けることである。
アンサンブルを通して、お互いの技術の向上はもちろんのこと音楽に対する考え方を高める。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

各グループで年間スケジュールを立て、曲を選ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

各担当教員の判断による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意（パート譜、スコア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
三重奏から八重奏が望ましい。 大学院生でメンバーが集まらない時は、学部生、卒業生等に選択の幅を広げてメンバーを集めてもよい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。

3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。

7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。

11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
12	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。

15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。

3	音楽の全体像をつかむ。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。
5	難しいパッセージの徹底練習。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。

7	表情をつかみ、それを表現する努力。
8	楽譜を再度読み直し表現の見直しをする。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD 等）、楽曲分析研究、歴史研究

15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	アンサンブル研究１　[月2]						
代表教員	山澤　洋之	授業コード	IE2841E0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	石井　喜久子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

打楽器アンサンブルに関する知識・能力を養い、より専門的な知識に基づき打楽器アンサンブルについて理解し、高度なアンサンブルを演奏する事ができるようになる。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

打楽器アンサンブルの黎明期より現代までの重要なアンサンブルを実演を交え取り組み、楽曲分析・演奏からそのアンサンブルがその後にもたらした影響を考察することにより打楽器アンサンブルについてより深い表現・演奏ができるようになる。また、現代打楽器アンサンブルの重要なレパートリーを学習し、理解する事が出来る。
積極的な作曲活動も視野に入れる楽曲を作成できるようになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

合奏への実技的部分の練習はもちろんの事
取り上げる楽曲への分析、歴史的背景等の予習が望ましい
双方の予習復習に120分程度を想定している

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏内容・楽曲分析内容も含み、演奏指導中に適宜質問を行いその解答や演奏習熟度によって判断される）100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Music for Pieces of Wood/S.Reich
Heartbeat/A.Gomez
October Mountain/Alan Hovhaness
新作/山澤洋之
他を必要に応じて配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ ※歴史的な作品を主に取り上げる。
1	ガイダンス
2	基本的なアンサンブルの実践

3	楽曲研究（打楽器黎明期の作品）
4	楽曲研究（チャベス、トッカータを境にした作品）
5	楽曲研究（実験音楽）
6	楽曲研究（ミニマルの登場）

7	楽曲研究（日本における打楽器アンサンブル黎明期の作品）
8	楽曲研究（日本における独自進化した作品群）
9	楽曲研究（新しい作品）
10	研究楽曲１　楽曲の構造内容の理解

11	研究楽曲２　構造に即した表現
12	研究楽曲３　打楽器的なアプローチによる演奏への理解
13	研究楽曲４　全体構造及び表現に即した奏法への追及
14	研究楽曲５　これまでの理解に基づく表現及び演奏の総合的な表現へのアプローチ

15	前期まとめ　演奏の試演と問題の抽出を行い後期への課題とする
授業計画	
	［後期］ ※年度末に実施されるアンサンブルコンサートに向けての実践。
1	後期ガイダンス
2	選曲を考える。演奏会の効果的な選曲について

3	楽曲制作（新しい打楽器作品への取り組み）
4	楽曲制作（実際の音と記譜について）
5	演奏会楽曲研究（古典派の作品から）
6	演奏会楽曲研究（学生作品）

7	演奏会楽曲研究（新しい作品）
8	演奏会楽曲研究（実験的な作品、またはシアターピース）
9	演奏会楽曲研究（大規模な編成の作品）
10	演奏楽曲研究（具大的な表現・奏法の研究に着手）

11	演奏会楽曲研究　（楽曲ごとの演奏表現の洗練化）
12	演奏会楽曲研究　（曲ごとの関連性を研究し、演奏会全体の構造を理解する）
13	演奏会楽曲研究　（全体的な構造を踏まえたうえでの均整的な総合表現）
14	演奏会楽曲研究　（演奏会楽曲の試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。）

15	後期まとめ　演奏会楽曲の再試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。

科目名	アンサンブル研究１　[土4]						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2841GO	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々な作曲家の合奏作品を演奏する実習を通じて、邦楽器によるアンサンブルの技術を高めていく。プロとして現場で通用する高度な領域への到達が目標となる。

２．授業概要

GH学部生との合同で授業を進めていく。様々な作曲家の様々な作品を取り上げて、アンサンブルの演習を行う。
尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。 場合によっては、複数の学生による自主的なパート練習も必要となる。　授業時の合奏にしっかり対応出来る状態で臨めるようにしておくことが肝要である。

４．成績評価の方法及び基準

演奏実績に応じて、総合的に判断する。
総合的判断の基本線は下記の通り。
・演習への姿勢＝25%　　・課題への取り組み＝25%　・演奏実績及びその成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特に無し

授業計画	
1	合奏実習のための準備講義入門
2	合奏実習のための準備講義応用

3	合奏実習のための準備講義まとめ
4	研究曲A　譜読み～演習に向けての概説
5	研究曲A　定着~楽曲分析
6	研究曲A　確認~課題研究

7	研究曲A　まとめ~演奏の仕上げ
8	研究曲B　譜読み～演習に向けての概説
9	研究曲B　定着~楽曲分析
10	研究曲B　確認~課題研究

11	研究曲B　まとめ~演奏の仕上げ
12	研究曲C　譜読み～演習に向けての概説
13	研究曲C　定着~楽曲分析
14	研究曲C　確認~課題研究

15	研究曲C　まとめ~演奏の仕上げ
授業計画	
1	音楽づくり教育法研究　基礎編
2	音楽づくり教育法研究　応用編

3	音律入門
4	研究曲D　譜読み～演習に向けての概説
5	研究曲D　定着~楽曲分析
6	研究曲D　確認~課題研究

7	研究曲D　まとめ~演奏の仕上げ
8	研究曲E　譜読み～演習に向けての概説
9	研究曲E 定着~楽曲分析
10	研究曲E　確認~課題研究

11	研究曲E　まとめ~演奏の仕上げ
12	研究曲F　譜読み～演習に向けての概説
13	研究曲F 定着~楽曲分析
14	研究曲F　確認~課題研究

15	研究曲F　まとめ~演奏の仕上げ

科目名	アンサンブル研究２						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	IE2842A0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

２．授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚、優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。 不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（室内楽におけるピアニストの役割）
2	アンサンブル研究（バロック作品における形式と演奏スタイルの考察）

3	アンサンブル研究（ヘンデル）
4	アンサンブル研究（バッハ）
5	アンサンブル研究（ヴィヴァルディ）
6	アンサンブル研究（テレマン）

7	アンサンブル研究（古典作品における形式と演奏スタイルの考察）
8	アンサンブル研究（ハイドン）
9	アンサンブル研究（モーツァルト）
10	アンサンブル研究（ベートーヴェン）

11	アンサンブル研究（ロマン派作品における作品研究と考察）
12	アンサンブル研究（シューベルト）
13	アンサンブル研究（ブラームス）
14	アンサンブル研究（メンデルスゾーン）

15	アンサンブル研究（ロッシーニ）
授業計画	
	［後期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ウェーバー）
2	アンサンブル研究（ショパン）

3	アンサンブル研究（リスト）
4	アンサンブル研究（近現代作品における演奏研究と考察）
5	アンサンブル研究（バルトーク）
6	アンサンブル研究（フォーレ）

7	アンサンブル研究（ドビッシー）
8	アンサンブル研究（ラヴェル）
9	アンサンブル研究（フランセ）
10	アンサンブル研究（プーランク）

11	アンサンブル研究（室内楽作品における音楽表現、曲の構造の考察、和声の考察）
12	アンサンブル研究（試験曲の分析）
13	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
14	アンサンブル研究（試演会リハーサル）

15	試演会

科目名	アンサンブル研究２						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2842C0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

２．授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚、優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。 不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究　バロックの音楽
2	アンサンブル研究（ヘンデル）

3	アンサンブル研究（バッハ）
4	アンサンブル研究（ヴィヴルディ）
5	アンサンブル研究（テレマン）
6	アンサンブル研究　古典派の音楽

7	アンサンブル研究（ハイドン）
8	アンサンブル研究（モーツァルト）
9	アンサンブル研究（ベートーヴェン）
10	アンサンブル研究　ドイツロマン派の音楽

11	アンサンブル研究（シューベルト）
12	アンサンブル研究（ブラームス）
13	アンサンブル研究（メンデルスゾーン）
14	アンサンブル研究（ロッシーニ）

15	アンサンブル研究（ウェーバー）
授業計画	
	［後期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究　フランスロマン派の音楽
2	アンサンブル研究（フォーレ）

3	アンサンブル研究（ショパン）
4	アンサンブル研究（リスト）
5	アンサンブル研究　近現代の音楽
6	アンサンブル研究（試験曲の分析）

7	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
8	アンサンブル研究（試験曲リハーサル）
9	アンサンブル研究（ドビュッシー）
10	アンサンブル研究（ラヴェル）

11	アンサンブル研究（フランセ）
12	アンサンブル研究（試験曲の分析）
13	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
14	アンサンブル研究（試演会リハーサル）

15	試演会

科目名	アンサンブル研究２						
代表教員	沼田　園子	授業コード	IE2842D0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演奏をする上で大切な事は、他の楽器の音も聴けることである。
アンサンブルを通して、お互いの技術の向上はもちろんのこと音楽に対する考え方を高める。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

各グループで年間スケジュールを立て、曲を選ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

各担当教員の判断による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意（パート譜、スコア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
三重奏から八重奏が望ましい。 大学院生でメンバーが集まらない時は、学部生、卒業生等に選択の幅を広げてメンバーを集めてもよい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。

3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。

7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。

11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
12	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。

15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。

3	音楽の全体像をつかむ。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。
5	難しいパッセージの徹底練習。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。

7	表情をつかみ、それを表現する努力。
8	楽譜を再度読み直し表現の見直しをする。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD 等）、楽曲分析研究、歴史研究

15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	アンサンブル研究２　[月2]						
代表教員	山澤　洋之	授業コード	IE2842E0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	石井　喜久子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

打楽器アンサンブルに関する知識・能力を養い、より専門的な知識に基づき打楽器アンサンブルについて理解し、高度なアンサンブルを演奏する事ができるようになる。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

打楽器アンサンブルの黎明期より現代までの重要なアンサンブルを実演を交え取り組み、楽曲分析・演奏からそのアンサンブルがその後にもたらした影響を考察することにより打楽器アンサンブルについてより深い表現・演奏ができるようになる。また、現代打楽器アンサンブルの重要なレパートリーを学習し、理解する事が出来る。
積極的な作曲活動も視野に入れる楽曲を作成できるようになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

合奏への実技的部分の練習はもちろんの事
取り上げる楽曲への分析、歴史的背景等の予習が望ましい
双方の予習復習に120分程度を想定している

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏内容・楽曲分析内容も含み、演奏指導中に適宜質問を行いその解答や演奏習熟度によって判断される）100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Music for Pieces of Wood/S.Reich
Heartbeat/A.Gomez
October Mountain/Alan Hovhaness
新作/山澤洋之
他を必要に応じて配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ ※歴史的な作品を主に取り上げる。
1	ガイダンス
2	基本的なアンサンブルの実践

3	楽曲研究（打楽器黎明期の作品）
4	楽曲研究（チャベス、トッカータを境にした作品）
5	楽曲研究（実験音楽）
6	楽曲研究（ミニマルの登場）

7	楽曲研究（日本における打楽器アンサンブル黎明期の作品）
8	楽曲研究（日本における独自進化した作品群）
9	楽曲研究（新しい作品）
10	研究楽曲１　楽曲の構造内容の理解

11	研究楽曲２　構造に即した表現
12	研究楽曲３　打楽器的なアプローチによる演奏への理解
13	研究楽曲４　全体構造及び表現に即した奏法への追及
14	研究楽曲５　これまでの理解に基づく表現及び演奏の総合的な表現へのアプローチ

15	前期まとめ　演奏の試演と問題の抽出を行い後期への課題とする
授業計画	
	［後期］ ※年度末に実施されるアンサンブルコンサートに向けての実践。
1	後期ガイダンス
2	選曲について。演奏会の効果的なプログラムとは。

3	楽曲制作（新しい打楽器作品への取り組み）
4	楽曲制作（実際の音と記譜について）
5	演奏会楽曲研究（古典派の作品から）
6	演奏会楽曲研究（学生作品）

7	演奏会楽曲研究（新しい作品）
8	演奏会楽曲研究（実験的な作品、またはシアターピース）
9	演奏会楽曲研究（大規模な編成の作品）
10	演奏楽曲研究（具大的な表現・奏法の研究に着手）

11	演奏会楽曲研究　（楽曲ごとの演奏表現の洗練化）
12	演奏会楽曲研究　（曲ごとの関連性を研究し、演奏会全体の構造を理解する）
13	演奏会楽曲研究　（全体的な構造を踏まえたうえでの均整的な総合表現）
14	演奏会楽曲研究　（演奏会楽曲の試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。）

15	後期まとめ　演奏会楽曲の再試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。

科目名	アンサンブル研究２　[土4]						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2842GO	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々な作曲家の合奏作品を演奏する実習を通じて、邦楽器によるアンサンブルの技術を高めていく。プロとして現場で通用する高度な領域への到達が目標となる。

２．授業概要

GH学部生との合同で授業を進めていく。様々な作曲家の様々な作品を取り上げて、アンサンブルの演習を行う。
尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。 場合によっては、複数の学生による自主的なパート練習も必要となる。　授業時の合奏にしっかり対応出来る状態で臨めるようにしておくことが肝要である。

４．成績評価の方法及び基準

演奏実績に応じて、総合的に判断する。
総合的判断の基本線は下記の通り。
・演習への姿勢＝25%　　・課題への取り組み＝25%　・演奏実績及びその成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特に無し

授業計画	
1	合奏実習のための準備講義入門
2	合奏実習のための準備講義応用

3	合奏実習のための準備講義まとめ
4	研究曲A　譜読み～演習に向けての概説
5	研究曲A　定着~楽曲分析
6	研究曲A　確認~課題研究

7	研究曲A　まとめ~演奏の仕上げ
8	研究曲B　譜読み～演習に向けての概説
9	研究曲B　定着~楽曲分析
10	研究曲B　確認~課題研究

11	研究曲B　まとめ~演奏の仕上げ
12	研究曲C　譜読み～演習に向けての概説
13	研究曲C　定着~楽曲分析
14	研究曲C　確認~課題研究

15	研究曲C　まとめ~演奏の仕上げ
授業計画	
1	音楽づくり教育法研究　基礎編
2	音楽づくり教育法研究　応用編

3	音律入門
4	研究曲D　譜読み～演習に向けての概説
5	研究曲D　定着~楽曲分析
6	研究曲D　確認~課題研究

7	研究曲D　まとめ~演奏の仕上げ
8	研究曲E　譜読み～演習に向けての概説
9	研究曲E 定着~楽曲分析
10	研究曲E　確認~課題研究

11	研究曲E　まとめ~演奏の仕上げ
12	研究曲F　譜読み～演習に向けての概説
13	研究曲F 定着~楽曲分析
14	研究曲F　確認~課題研究

15	研究曲F　まとめ~演奏の仕上げ

科目名	打楽器の変遷と奏法の研究１　[水2]						
代表教員	古川　玄一郎	授業コード	IE286100	科目コード	IE2861	期間	通年
担当教員	石井　喜久子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

表現素材としての打楽器のあり方を演奏者の視座より考察し、音楽そのものを多角的に捉え、譜面の読みを深くする。

２．授業概要

19世紀なかごろより急速に発展し様々なかたちで音楽作品に用いられてきた打楽器だが、その特徴のひとつとして楽器のヴァリエーションが膨大なことが挙げられる。
奏法は各打楽器によりそれぞれ異なり、さらに撥類を組み合わせることによって音色の可能性は無限の拡がりをみせる。当然表現媒体として打楽器をチョイスする作曲家は多く、彼らははこれまでにない新しい響きをもとめ従来の奏法からは大きく逸れた、いわゆる特殊奏法を考案してきた。
この講義は19世紀初頭から現代に至るまでの打楽器芸術の遷移とそれらの表現方法を、毎回テーマに即したトピックにフォーカスし研究を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①20世紀までの音楽史を理解しておくこと。
②取り上げる作品を聴き､譜面に目を通すこと。
③取り上げる作品の奏法、記譜法を理解しておくこと。
（トータルの学習想定時間は90分程度）

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢（平常点）50%、レポート50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

①「新版打楽器事典」網代景介・岡田知之共著（音楽之友社）
②授業内で適宜配布するプリントや譜例

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
諸芸術に対する深い理解と愛情を持つ履修者を望む。

授業計画	
	［前期］ ※担当教員の出講状況等により変動が生じる場合がある
1	ガイダンス ～打楽器を演奏することとは～
2	【打楽器とリズム・拍子】 拍子（拍節）、シンコペーション、ヘミオラ、ポリリズムの考察

3	レパートリー研究1 楽曲分析の意義とその方法について
4	【打楽器とアート1～音響彫刻～】 Bernard & François Baschet Ondřej Adámek 金沢健一 原田和男
5	レパートリー研究2 楽曲分析の方法を学ぶ　スネアドラム・マルチパーカッション作品
6	【打楽器と歌謡曲】 打楽器に委ねられた可能性と展望 「都合のいいマリンバの音」

7	【打楽器と旋律】 アーティキレーションとフレージング、デュナーミクほか楽器を用いた実践
8	【打楽器と教育】 もっとも音を視覚的に認知しやすい楽器
9	レパートリー研究3 受講生による発表・ディスカッション　スネアドラム・マルチパーカッション作品
10	【打楽器と和声】 太鼓の重なりはハーモニーといえるか

11	レパートリー研究4 楽曲分析の方法を学ぶ　鍵盤打楽器作品
12	【打楽器とファッション】 モードの帝王はケージを愛したか ① Yves Saint LaurentとJohn Cage ②NUMBER (N)INEとThe Beatles
13	【打楽器とアート2～映像作品～】 Mark Korven 武満徹 John Cage
14	レパートリー研究5 受講生による発表・ディスカッション　鍵盤打楽器作品

15	前期まとめ、レポート
授業計画	
	［後期］ ※担当教員の出講状況等により変動が生じる場合がある
1	【打楽器と作曲家】 ①表現媒体としての打楽器 ②記譜法について
2	【打楽器と宗教】 呪術、祭典ほか神具としての打楽器

3	【打楽器とマテリアル】 各種打楽器の素材と発音の関係性について、及びその機能について
4	レパートリー研究6 ヤニス・クセナキス　Persephassa
5	【打楽器とレディ・メイド、引用】 ①レディ・メイドの概念の拡大 ②ヴァリエーションとサンプリング
6	【打楽器とアート3～舞踏～】 舞踏の付随音楽としての打楽器

7	レパートリー研究7 ヤニス・クセナキス　Dmaathen
8	【打楽器と響き】 音を聴くこととイメージすること
9	【打楽器とアート4～詩と文学～】 狼/高橋悠治 雨の樹/武満徹 ほか
10	レパートリー研究8 楽曲分析を演奏に活かすには

11	【打楽器とマテリアル】 各種打楽器の素材と発音の関係性について、及びその機能について
12	レパートリー研究9 受講生による発表・ディスカッション　アンサンブル作品
13	【打楽器とICT】 SNS等を活用した音楽的アプローチは「新しい表現方法」なのか
14	レパートリー研究10 総括

15	一年間のまとめ、総合レポート

科目名	打楽器の変遷と奏法の研究２　［水2］						
代表教員	古川　玄一郎	授業コード	IE286200	科目コード	IE2862	期間	通年
担当教員	石井　喜久子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

表現素材としての打楽器のあり方を演奏者の視座より考察し、音楽そのものを多角的に捉え、譜面の読みを深くする。

２．授業概要

19世紀なかごろより急速に発展し様々なかたちで音楽作品に用いられてきた打楽器だが、その特徴のひとつとして楽器のヴァリエーションが膨大なことが挙げられる。
奏法は各打楽器によりそれぞれ異なり、さらに撥類を組み合わせることによって音色の可能性は無限の拡がりをみせる。当然表現媒体として打楽器をチョイスする作曲家は多く、彼らははこれまでにない新しい響きをもとめ従来の奏法からは大きく逸れた、いわゆる特殊奏法を考案してきた。
この講義は19世紀初頭から現代に至るまでの打楽器芸術の遷移とそれらの表現方法を、毎回テーマに即したトピックにフォーカスし研究を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①20世紀までの音楽史を理解しておくこと。
②取り上げる作品を聴き､譜面に目を通すこと。
③取り上げる作品の奏法、記譜法を理解しておくこと。
（トータルの学習想定時間は90分程度）

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢（平常点）50%、レポート50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

①「新版打楽器事典」網代景介・岡田知之共著（音楽之友社）
②授業内で適宜配布するプリントや譜例

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
諸芸術に対する深い理解と愛情を持つ履修者を望む。

授業計画	
	［前期］ ※担当教員の出講状況等により変動が生じる場合がある
1	ガイダンス ～打楽器を演奏することとは～
2	【打楽器とリズム・拍子】 拍子（拍節）、シンコペーション、ヘミオラ、ポリリズムの考察

3	レパートリー研究1 楽曲分析の意義とその方法について
4	【打楽器とアート1～音響彫刻～】 Bernard & François Baschet Ondřej Adámek 金沢健一 原田和男
5	レパートリー研究2 楽曲分析の方法を学ぶ　スネアドラム・マルチパーカッション作品
6	【打楽器と歌謡曲】 打楽器に委ねられた可能性と展望 「都合のいいマリンバの音」

7	【打楽器と旋律】 アーティキレーションとフレージング、デュナーミクほか楽器を用いた実践
8	【打楽器と教育】 もっとも音を視覚的に認知しやすい楽器
9	レパートリー研究3 受講生による発表・ディスカッション　スネアドラム・マルチパーカッション作品
10	【打楽器と和声】 太鼓の重なりはハーモニーといえるか

11	レパートリー研究4 楽曲分析の方法を学ぶ　鍵盤打楽器作品
12	【打楽器とファッション】 モードの帝王はケージを愛したか ① Yves Saint LaurentとJohn Cage ②NUMBER (N)INEとThe Beatles
13	【打楽器とアート2～映像作品～】 Mark Korven 武満徹 John Cage
14	レパートリー研究5 受講生による発表・ディスカッション　鍵盤打楽器作品

15	前期まとめ、レポート
授業計画	
	［後期］ ※担当教員の出講状況等により変動が生じる場合がある
1	【打楽器と作曲家】 ①表現媒体としての打楽器 ②記譜法について
2	【打楽器と宗教】 呪術、祭典ほか神具としての打楽器

3	【打楽器とマテリアル】 各種打楽器の素材と発音の関係性について、及びその機能について
4	レパートリー研究6 ヤニス・クセナキス　Persephassa
5	【打楽器とレディ・メイド、引用】 ①レディ・メイドの概念の拡大 ②ヴァリエーションとサンプリング
6	【打楽器とアート3～舞踏～】 舞踏の付随音楽としての打楽器

7	レパートリー研究7 ヤニス・クセナキス　Dmaathen
8	【打楽器と響き】 音を聴くこととイメージすること
9	【打楽器とアート4～詩と文学～】 狼/高橋悠治 雨の樹/武満徹 ほか
10	レパートリー研究8 楽曲分析を演奏に活かすには

11	【打楽器とマテリアル】 各種打楽器の素材と発音の関係性について、及びその機能について
12	レパートリー研究9 受講生による発表・ディスカッション　アンサンブル作品
13	【打楽器とICT】 SNS等を活用した音楽的アプローチは「新しい表現方法」なのか
14	レパートリー研究10 総括

15	一年間のまとめ、総合レポート

科目名	コンチェルト研究１　[木3]						
代表教員	江崎　昌子	授業コード	IE287100	科目コード	IE2871	期間	通年
担当教員	鳥羽瀬　宗一郎、外山　啓介、吉永　哲道						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラの華である協奏曲のスタイルをソロとオーケストラが共にどのように音楽を作っているかを分析し、実際に電子オルガンとの協演を通して協奏曲における演奏技術を学ぶ。協奏曲のソリストとしての役割、指揮者とオーケストラのとの息の合わせ方を学ぶため、また卒業後にコンチェルトオーディションなどにおけるピアノ伴奏者として活躍できる高度で専門的な技術を身につけるため、ソロパートのみならずオーケストラパートをピアノ伴奏版としても習得し、オーケストラの響きをイメージしながらピアノで伴奏する際の注意点や工夫なども課題とする。

２．授業概要

電子オルガンとのコンチェルト研究演奏会で演奏する曲を各自選択し（学生の希望による）ソロ、オーケストラパートのピアノ伴奏の両方を学び仕上げる。コンチェルト研究演奏会の前に二台ピアノにおける試演会も行う。試演会ではソロで出演するほかピアノ伴奏パートとして出演することも多いに推奨する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員のレッスンによる。また、オーケストラパートをスコアなどで学習し、第二ピアノの伴奏部分におけるオーケストラの楽器などを把握し、響きなどをイメージしながら練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

コンチェルト研究演奏会における成果発表、また平常点（受講態度、授業への取り組み方）により評価する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修の条件は、年度末のコンチェルト研究演奏会、及び事前の試演会に出演すること。 クラス分けは行わない。

授業計画	
1	コンチェルトの歴史とピアノ協奏曲の発展
2	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の研究（ソロパートを中心に、バロック時代のソロパートの在り方について学ぶ）

3	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、協奏曲としての役割について）
4	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	古典(モーツァルト)のピアノ協奏曲研究　（ソロパートのタッチやペダリング、ソロパートの入り方、オーケストラとのやりとりについて）
6	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートのスコアリーデイングとともに、ピアノ伴奏として演奏する際の響きの作り方について学ぶ）

7	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版よるアンサンブル演習
8	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲研究　（ソロパートを中心に、モーツァルトの協奏曲との比較）
9	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲研究　（オーケストラパートを中心に、オーケストラの各楽器に相応しいタッチや響きの作り方をピアノで実演する）
10	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習

11	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、古典からの流れとロマン派の協奏曲の発展を学ぶ。）
12	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの響きをイメージしながらピアノ伴奏としてどのような表現が必要かを学ぶ）
13	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、ショパンの協奏曲の特徴、ショパンが意図した響き、及び協奏曲に反映された舞曲的なリズムについて学ぶ）

15	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートとソロを含め、ナショナルエディション版による協奏曲独奏版の演奏方法を学ぶ）
授業計画	
1	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
2	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、テンポの変化やカデンツについて）

3	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、スコアリーデイングとともにピアノ伴奏における、オーケストラの各楽器に最もふさわしい音色の研究）
4	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	近現代（ラフマニノフ）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、オーケストラとのバランス、ピアノの楽器の発展に伴う協奏曲の在り方について学ぶ）
6	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、ラフマニノフの協奏曲の特徴を学ぶ）

7	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	近現代（ラヴェル）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、後期ロマン派からの転換について、響きや表現の変化、及びスタイルの違いを学ぶ）
9	近現代（ラヴェル）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における諸問題について学ぶ）
10	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習

11	近現代（プロコフィエフ）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心にプロコフィエフのタッチや表現について学ぶ）
12	近現代（プロコフィエフ）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、ソロパートとオーケストラの各楽器の役割、バランスについて）
13	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	指揮者による協奏曲演奏会演習

15	指揮者と電子オルガンによる演奏会演習

科目名	コンチェルト研究２　［木3］						
代表教員	江崎　昌子	授業コード	IE287200	科目コード	IE2872	期間	通年
担当教員	鳥羽瀬　宗一郎、外山　啓介、吉永　哲道						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラの華である協奏曲のスタイルをソロとオーケストラが共にどのように音楽を作っているかを分析し、実際に電子オルガンとの協演を通して協奏曲における演奏技術を学ぶ。協奏曲のソリストとしての役割、指揮者とオーケストラのとの息の合わせ方を学ぶため、また卒業後にコンチェルトオーディションなどにおけるピアノ伴奏者として活躍できる高度で専門的な技術を身につけるため、ソロパートのみならずオーケストラパートをピアノ伴奏版としても習得し、オーケストラの響きをイメージしながらピアノで伴奏する際の注意点や工夫なども課題とする。

２．授業概要

電子オルガンとのコンチェルト研究演奏会で演奏する曲を各自選択し（学生の希望による）ソロ、オーケストラパートのピアノ伴奏の両方を学び仕上げる。コンチェルト研究演奏会の前に二台ピアノにおける試演会も行う。試演会ではソロで出演するほかピアノ伴奏パートとして出演することも多いに推奨する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員のレッスンによる。また、オーケストラパートをスコアなどで学習し、第二ピアノの伴奏部分におけるオーケストラの楽器などを把握し、響きなどをイメージしながら練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

コンチェルト研究演奏会における成果発表、また平常点（受講態度、授業への取り組み方）により評価する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修の条件は、年度末のコンチェルト研究演奏会、及び事前の試演会に出演すること。 クラス分けは行わない。

授業計画	
1	コンチェルトの歴史とピアノ協奏曲の発展
2	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の研究（ソロパートを中心に、バロック時代のソロパートの在り方について学ぶ）

3	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、協奏曲としての役割について）
4	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	古典(モーツァルト)のピアノ協奏曲研究　（ソロパートのタッチやペダリング、ソロパートの入り方、オーケストラとのやりとりについて）
6	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートのスコアリーデイングとともに、ピアノ伴奏として演奏する際の響きの作り方について学ぶ）

7	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版よるアンサンブル演習
8	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲研究　（ソロパートを中心に、モーツァルトの協奏曲との比較）
9	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲研究　（オーケストラパートを中心に、オーケストラの各楽器に相応しいタッチや響きの作り方をピアノで実演する）
10	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習

11	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、古典からの流れとロマン派の協奏曲の発展を学ぶ。）
12	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの響きをイメージしながらピアノ伴奏としてどのような表現が必要かを学ぶ）
13	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、ショパンの協奏曲の特徴、ショパンが意図した響き、及び協奏曲に反映された舞曲的なリズムについて学ぶ）

15	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートとソロを含め、ナショナルエディション版による協奏曲独奏版の演奏方法を学ぶ）
授業計画	
1	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
2	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、テンポの変化やカデンツについて）

3	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、スコアリーデイングとともにピアノ伴奏における、オーケストラの各楽器に最もふさわしい音色の研究）
4	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	近現代（ラフマニノフ）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、オーケストラとのバランス、ピアノの楽器の発展に伴う協奏曲の在り方について学ぶ）
6	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、ラフマニノフの協奏曲の特徴を学ぶ）

7	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	近現代（ラヴェル）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、後期ロマン派からの転換について、響きや表現の変化、及びスタイルの違いを学ぶ）
9	近現代（ラヴェル）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における諸問題について学ぶ）
10	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習

11	近現代（プロコフィエフ）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心にプロコフィエフのタッチや表現について学ぶ）
12	近現代（プロコフィエフ）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、ソロパートとオーケストラの各楽器の役割、バランスについて）
13	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	指揮者による協奏曲演奏会演習

15	指揮者と電子オルガンによる演奏会演習

科目名	チェンバロ研究　[火2]						
代表教員	上薗　未佳	授業コード	IE288000	科目コード	IE2880	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

チェンバロを学ぶことは、J.S.バッハをはじめとするバロック音楽を理解し演奏する上で欠かせないことのひとつです。
この授業では、後期ルネサンスから前古典派までの様々な作曲家のチェンバロ作品に触れ、その魅力に迫ります。そして、チェンバロの歴史、奏法や装飾音などの演奏習慣、さらに、調律法、通奏低音奏法などを幅広く学ぶことによって、自らの奏法に活かし、より豊かな音楽性を育み、その力を社会へ発揮できるようになることがねらいです。

2．授業概要

〇チェンバロの歴史、種類、構造について
〇チェンバロ奏法、演奏習慣、調律法、通奏低音奏法について
〇後期ルネサンスから前古典派までの多彩な作品の演奏。音楽鑑賞。
〇2022年11月5日に開催される「バロックとその周辺の音楽」演奏会の参加希望者へのレッスン（ソロ及びアンサンブル）
〇発表会の開催

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられる課題曲の予習及び復習をして臨むこと。およそ60分の予習復習が必要。出来る限り、チェンバロで練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢50%。前期後期の最終授業での演奏とレポート50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「ハープシコード・メソード」（マリア・ボクソール／有田千代子訳、日本ショット）、「クラヴサン奏法」（フランソワ・クープラン／桑形亜樹子訳、全音楽譜出版社、2018）、「正しいクラヴィーア奏法」（カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ著／東川清一訳、全音楽譜出版社）、「チェンバロ・フォルテピアノ」（渡邊順生著、東京書籍、２０００）、「鍵盤調律法」（横田誠三著、2008）
Running the Numbers:A Thorough Figured Bass Workbook for Keyboard Players
（F.C.Fitch/J.Ashworth Loux Music Company/Dovehouse Editions 2012）他。
授業内で必要な楽譜、資料を適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
授業に欠席する場合は、必ず事前に連絡することを厳守してください。

授業計画	
	［前期］　場合によって、変更されることがあります。
1	ガイダンス
2	チェンバロについて（歴史、種類、構造等）

3	チェンバロ奏法入門
4	ヴァージナル楽派①歴史と作品について
5	ヴァージナル楽派②鑑賞、演習
6	イタリア初期バロック①歴史と作品について

7	イタリア初期バロック②鑑賞、演習
8	ドイツ中期バロック①歴史と作品について
9	ドイツ中期バロック②鑑賞、演習
10	フランス・クラヴサン楽派①歴史と作品について

11	フランス・クラヴサン楽派②鑑賞、演習
12	後期バロック①歴史と作品について
13	後期バロック②鑑賞、演習
14	前古典派③歴史と作品について、鑑賞、演習

15	前期発表（演奏とレポート）
授業計画	
	［後期］　場合によって、変更されることがあります。
1	チェンバロ調律法入門
2	通奏低音奏法入門①数字の読み方。リアリゼーション。

3	通奏低音奏法入門②課題：ホルボーン、モンテヴェルディ等
4	通奏低音奏法入門③課題：ダンドリュー、テレマン等
5	個人レッスン（後期ルネサンス）①W.バード、J.ブル等
6	個人レッスン（初期バロック）②フレスコバルディ等

7	個人レッスン（後期ルネサンスから初期バロック）③自由曲
8	個人レッスン（中期バロック）①L. クープラン、ダングルベール等
9	個人レッスン（中期バロック）②フローベルガー、ベーム等
10	個人レッスン（中期バロック）③F. クープラン等

11	個人レッスン（後期バロック）①バッハ、ヘンデル等
12	個人レッスン（後期バロック）②スカルラッティ等
13	個人レッスン（後期バロック）③ラモー等
14	個人レッスン（後期バロック、前古典派）④自由曲

15	後期発表（演奏とレポート）

科目名	音楽教育特殊研究１　[金3]						
代表教員	董　芳勝	授業コード	IE288100	科目コード	IE2881	期間	通年
担当教員	佐藤　昌弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：学校音楽科の理念と実践
到達目標：音楽科教育の基本的な事項(日本の音楽科教育の歴史、学習指導要領の方針と内容、実践学的な教育観と子ども観、現在の学校音楽教育の成果と課題、等々)を理解し、教育課程の内容の検証と授業実践への分析し、まとめることができる。

２．授業概要

文献での学習を通して、学校の音楽教育にかかわる基本的な考え方(教育観や学力観、子ども観、授業観、評価観、教材観等)を知る。また、実践事例の文献を通して、音楽教育の研究方法や実践分析の基礎学力を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と演習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。ただ、コロナ禍の情勢によって、学外の実践見学は難しい場合は音楽科授業実践記録を視聴する場合はある。

４．成績評価の方法及び基準

レポート（評価の45%）　課題への対応（評価の45%）　　授業への参加姿勢（評価の10%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第１回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	【前期】主に日本の学校音楽教育の歴史と現在の指導要領の内容の理解を通して、音楽科教育にかかわる基本的な教育観や子ども観、学力観等を身につく。以下の課題を中心に解く。 課題1：音楽科教育の目的と専門音楽教育の目的との同異点 課題2：子どもの音（音楽）への内面的な志向性とは 課題3：子どもの音楽的な発達段階
1	前期ガイダンス 日本の音楽科教育の歩み
2	音楽教育の哲学理論と学校音楽教育の授業論

3	音楽科の目標と評価
4	音楽科の指導内容と教材研究
5	音楽科の歌唱表現活動とその指導
6	音楽科の器楽表現活動とその指導

7	音楽科の教材研究
8	音楽科の鑑賞活動とその指導
9	音楽科における音楽の伝統文化の実践とその指導
10	音楽の伝統文化の継承と動向

11	中学校音楽科の目標と指導内容
12	高等学校の芸術科音楽の目標と指導内容
13	音楽科と他教科の関連
14	子どもの音楽的な発達と子ども理解

15	前期のまとめ
授業計画	
	【後期】主に授業実践の事例を通して、音楽活動の見方と研究方法の基礎的な知識と能力を身につく。前半では、日本と中国の学校音楽教育の同異点を知るため、授業実践の文献資料を取り入れる。後半では、音楽教育の研究に必要な基礎的な知識と能力を身につけるため、音楽教育実践学の基本的なキーワードを取り上げ、自分の言葉で説明し、まとめる。以下の課題を中心に解く。 課題1：音楽活動における教師の働きかけと子どもの思い・願い 課題2：子どもの音楽経験と音楽生成 課題3：音楽教員の養成とその課題 課題4：音楽教育の基本的な研究方法と視点
1	後期ガイダンス 日中の音楽科教育の目標と内容の比較(小・中学校)
2	日中の音楽科授業の実践比較(1)―「うみ」の授業実践

3	日中の音楽科授業の実践比較(2)―「赤とんぼ」の授業実践
4	日中の音楽科授業の実践比較(3)―器楽表現活動(葫芦丝とリコーダー)の授業実践
5	日中の音楽科授業の実践比較(4)-鑑賞活動(「おもちゃのシンフォニー」)の授業実践
6	日中の音楽科授業の実践比較(5)-音楽伝統文化の授業実践

7	日中の音楽科授業実践比較のまとめ
8	音楽経験と思考
9	音楽科評価の基本概念
10	音楽科における教材の働きといろいろな音楽

11	音楽科のカリキュラム
12	音楽科の授業研究
13	音楽教員の養成と教員の資質・能力
14	音楽科の広がりと学校文化

15	後期のまとめ

科目名	音楽教育特殊研究２　[金3]						
代表教員	董　芳勝	授業コード	IE288200	科目コード	IE2882	期間	通年
担当教員	佐藤　昌弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：学校音楽科の理念と実践
到達目標：音楽科教育の基本的な事項(日本の音楽科教育の歴史、学習指導要領の方針と内容、実践学的な教育観と子ども観、現在の学校音楽教育の成果と課題、等々)を理解し、教育課程の内容の検証と授業実践への分析し、まとめることができる。

２．授業概要

文献での学習を通して、学校の音楽教育にかかわる基本的な考え方(教育観や学力観、子ども観、授業観、評価観、教材観等)を知る。また、実践事例の文献を通して、音楽教育の研究方法や実践分析の基礎学力を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と演習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。ただ、コロナ禍の情勢によって、学外の実践見学は難しい場合は音楽科授業実践記録を視聴する場合はある。

４．成績評価の方法及び基準

レポート（評価の45%）　課題への対応（評価の45%）　　授業への参加姿勢（評価の10%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第１回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	【前期】主に日本の学校音楽教育の歴史と現在の指導要領の内容の理解を通して、音楽科教育にかかわる基本的な教育観や子ども観、学力観等を身につく。以下の課題を中心に解く。 課題1：音楽科教育の目的と専門音楽教育の目的との同異点 課題2：子どもの音（音楽）への内面的な志向性とは 課題3：子どもの音楽的な発達段階
1	前期ガイダンス 日本の音楽科教育の歩み
2	音楽教育の哲学理論と学校音楽教育の授業論

3	音楽科の目標と評価
4	音楽科の指導内容と教材研究
5	音楽科の歌唱表現活動とその指導
6	音楽科の器楽表現活動とその指導

7	音楽科の教材研究
8	音楽科の鑑賞活動とその指導
9	音楽科における音楽の伝統文化の実践とその指導
10	音楽の伝統文化の継承と動向

11	中学校音楽科の目標と指導内容
12	高等学校の芸術科音楽の目標と指導内容
13	音楽科と他教科の関連
14	子どもの音楽的な発達と子ども理解

15	前期のまとめ
授業計画	
	【後期】主に授業実践の事例を通して、音楽活動の見方と研究方法の基礎的な知識と能力を身につく。前半では、日本と中国の学校音楽教育の同異点を知るため、授業実践の文献資料を取り入れる。後半では、音楽教育の研究に必要な基礎的な知識と能力を身につけるため、音楽教育実践学の基本的なキーワードを取り上げ、自分の言葉で説明し、まとめる。以下の課題を中心に解く。 課題1：音楽活動における教師の働きかけと子どもの思い・願い 課題2：子どもの音楽経験と音楽生成 課題3：音楽教員の養成とその課題 課題4：音楽教育の基本的な研究方法と視点
1	後期ガイダンス 日中の音楽科教育の目標と内容の比較(小・中学校)
2	日中の音楽科授業の実践比較(1)―「うみ」の授業実践

3	日中の音楽科授業の実践比較(2)―「赤とんぼ」の授業実践
4	日中の音楽科授業の実践比較(3)―器楽表現活動(葫芦丝とリコーダー)の授業実践
5	日中の音楽科授業の実践比較(4)-鑑賞活動(「おもちゃのシンフォニー」)の授業実践
6	日中の音楽科授業の実践比較(5)-音楽伝統文化の授業実践

7	日中の音楽科授業実践比較のまとめ
8	音楽経験と思考
9	音楽科評価の基本概念
10	音楽科における教材の働きといろいろな音楽

11	音楽科のカリキュラム
12	音楽科の授業研究
13	音楽教員の養成と教員の資質・能力
14	音楽科の広がりと学校文化

15	後期のまとめ

科目名	音楽教育特殊研究３　[火4]						
代表教員	駒﨑　達也	授業コード	IE288300	科目コード	IE2883	期間	通年
担当教員	佐藤　昌弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】ソーシャルメディアとそれによるコミュニケーションについて、音楽教育学の視点からとらえる。

【到達目標】
さまざまなメディアとの付き合い方を音楽教育と関わる具体的な事例から、先行研究や実践報告などをもとに、現状の認識や問題点、課題などを分析し、考察することができる。

２．授業概要

私たちの生活は、メディアとの関係を切って行うことは非現実的であり、他者や社会との繋がりを保つためにもメディアと上手に付き合わなければ成り立たない。コロナ禍を機として、世界は分断されたかのように見えるかもしれないが、さまざまなメディアを媒体として、その結びつきはむしろ強くなっている。新しい時代に活躍できる音楽教育者となるためには、コミュニケーションの最も中心にあるメディアについてじっくり学ぶことが、必須となるだろう。
講義では、主に日本と中国における音楽に関連する具体的な事例を用いて、わかりやすく説明していく。また、履修者は、各回のテーマと各自の専門との関連性をよく考えた上で、プレゼンテーションを行うことが求められる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と実習を交えて行い、受講生の発表も随時行うため、発表にあたっては、担当講師の指示に従って準備をしておくこと。また復習については、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。これらについての所要時間は、発表の準備は2時間から3時間ほど、授業の復習は1時間ほどと考えられる。

４．成績評価の方法及び基準

期末レポート（30%）、課題への対応（30%）、授業への参加姿勢（40%）を基準として、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は、各回の授業時に内容に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	［前期］担当教員：駒﨑　達也 日本および中国を中心として、ソーシャルメディアの各プラットフォームの特徴とメディアリテラシーの現状を比較分析する。
1	ガイダンス ソーシャルメディアのコミュニケーションと社会 ～新しい時代に求められる音楽教育とは～
2	１．ソーシャルメディアとフェイクニュース・デマの拡散 １−①音楽をとりまく情報の信憑性とは

3	1−②音楽分野における情報リテラシーによる対処とその限界
4	2．動画視聴は自由な意志でなされているのか？：動画プラットフォームにおける能動的なアテンション獲得に向けて 2−①ソーシャルメディアに流布する動画・音楽の種類
5	2−②アテンションの理論的系譜とマーケティング戦略
6	3．小説投稿サイトがひらいた読書・創作・コミュニケーション 3−①若者の「活字離れ」と音楽に対する批評

7	３−②手軽で自由なSNS的環境下で進む音楽をとりまく新しい読書・創作・コミュニケーション
8	４．ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな「場所」 ４−①ソーシャルメディアにもち込まれる現実空間、ソーシャルメディアによって変化する現実空間
9	４−②ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな「場所」とアフターコロナにおける今後のゆくえ
10	５．インターネットは音楽から何を奪ったか？ ５−①ロングテールと趣味縁

11	５−②Googlearchyと選択的接触
12	６．ソーシャルゲームというメディア：コミュニケーションと虚構世界 ６−①プレ・ソーシャルゲームの時代
13	６−②ソーシャルゲームの時代、そして、ポスト・ソーシャルゲームの時代
14	７．アニメ・マンガのソーシャルな体験 ７−①インパクトを増すアニメとアニソン

15	7−②アニメ・マンガとソーシャルメディアの複雑な関係
授業計画	
	［後期］担当教員：駒﨑　達也 日本および中国を中心として、ソーシャルメディアと文化、政治・経済との関わりから、音楽における多様性について考察する。
1	8．メディア・アート：テクノロジーが社会に及ぼす影響をあらかじめ体験するエクササイズ 8−①テクノロジーと社会の交差点における音楽表現
2	8−②音楽からみる変容する生命の予感と人ならざる存在との共創へ向けて

3	９．YouTubeにおけるリアクターとエモ消費：アイドルグループ〈BABYMETAL〉を中心に ９-①「リアクション動画」におけるBABYMETAL
4	９-②BABYMETALからみる「エモ消費」と「ミーム」
5	１０．プラットフォーム経済 １０-①インターネット上の音楽サービスやコンテンツは、なぜ無料なのか？
6	１０-②デジタル・プラットフォームが形づくる音楽消費

7	１１．ネット炎上の政治学 １１−①音楽をとりまく左右のポピュリズムとバカッター
8	１１−②SNSと自己呈示の音楽市場
9	１２．ソーシャルメディアが起こすフェミニズムの「波」 １２−①音楽業界における第四波フェミニズムと＃MeToo
10	１２−②ソーシャルメディアで展開されるフェミニズムの課題

11	１３．ソーシャルメディのなかの東京ジャーミイ：デジタル化時代の宗教音楽の可能性 １３−①ソーシャルメディアのなかの東京ジャーミイ
12	１３−②ソーシャルメディアが音楽を通して涵養する宗教的感性
13	１４．ソーシャルメディアの教育活用：コロナ禍のなかで １４−①アクティブラーニングの流れ、教室とソーシャルメディア
14	１４−②講義形式と演習形式の音楽科授業とソーシャルメディア

15	1年間の総括と各学生の研究に対する助言

科目名	音楽教育特殊研究４　[火4]						
代表教員	駒﨑　達也	授業コード	IE288400	科目コード	IE2884	期間	通年
担当教員	佐藤　昌弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】ソーシャルメディアとそれによるコミュニケーションについて、音楽教育学の視点からとらえる。

【到達目標】
さまざまなメディアとの付き合い方を音楽教育と関わる具体的な事例から、先行研究や実践報告などをもとに、現状の認識や問題点 、課題などを分析し、考察することができる。

２．授業概要

私たちの生活は、メディアとの関係を切って行うことは非現実的であり、他者や社会との繋がりを保つためにもメディアと上手に付 き合わなければ成り立たない。コロナ禍を機として、世界は分断されたかのように見えるかもしれないが、さまざまなメディアを媒 体として、その結びつきはむしろ強くなっている。新しい時代に活躍できる音楽教育者となるためには、コミュニケーションの最も 中心にあるメディアについてじっくり学ぶことが、必須となるだろう。
講義では、主に日本と中国における音楽に関連する具体的な事例を用いて、わかりやすく説明していく。また、履修者は、各回のテ ーマと各自の専門との関連性をよく考えた上で、プレゼンテーションを行うことが求められる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と実習を交えて行い、受講生の発表も随時行うため、発表にあたっては、担当講師の指示に従って準備をしておくこと。また復習については、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。これらについての所要時間は、発表の準備は2時間から3時間ほど、授業の復習は1時間ほどと考えられる。

４．成績評価の方法及び基準

期末レポート（30%）、課題への対応（30%）、授業への参加姿勢（40%）を基準として、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は、各回の授業時に内容に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	［前期］担当教員：駒﨑　達也 日本および中国を中心として、ソーシャルメディアの各プラットフォームの特徴とメディアリテラシーの現状を比較分析する。
1	ガイダンス ソーシャルメディアのコミュニケーションと社会 ～新しい時代に求められる音楽教育とは～
2	１．ソーシャルメディアとフェイクニュース・デマの拡散 １−①音楽をとりまく情報の信憑性とは

3	1−②音楽分野における情報リテラシーによる対処とその限界
4	2．動画視聴は自由な意志でなされているのか？：動画プラットフォームにおける能動的なアテンション獲得に向けて 2−①ソーシャルメディアに流布する動画・音楽の種類
5	2−②アテンションの理論的系譜とマーケティング戦略
6	3．小説投稿サイトがひらいた読書・創作・コミュニケーション 3−①若者の「活字離れ」と音楽に対する批評

7	３−②手軽で自由なSNS的環境下で進む音楽をとりまく新しい読書・創作・コミュニケーション
8	４．ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな「場所」 ４−①ソーシャルメディアにもち込まれる現実空間、ソーシャルメディアによって変化する現実空間
9	４−②ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな「場所」とアフターコロナにおける今後のゆくえ
10	５．インターネットは音楽から何を奪ったか？ ５−①ロングテールと趣味縁

11	５−②Googlearchyと選択的接触
12	６．ソーシャルゲームというメディア：コミュニケーションと虚構世界 ６−①プレ・ソーシャルゲームの時代
13	６−②ソーシャルゲームの時代、そして、ポスト・ソーシャルゲームの時代
14	７．アニメ・マンガのソーシャルな体験 ７−①インパクトを増すアニメとアニソン

15	7−②アニメ・マンガとソーシャルメディアの複雑な関係
授業計画	
	［後期］担当教員：駒﨑　達也 日本および中国を中心として、ソーシャルメディアと文化、政治・経済との関わりから、音楽における多様性について考察する。
1	8．メディア・アート：テクノロジーが社会に及ぼす影響をあらかじめ体験するエクササイズ 8−①テクノロジーと社会の交差点における音楽表現
2	8−②音楽からみる変容する生命の予感と人ならざる存在との共創へ向けて

3	９．YouTubeにおけるリアクターとエモ消費：アイドルグループ〈BABYMETAL〉を中心に ９-①「リアクション動画」におけるBABYMETAL
4	９-②BABYMETALからみる「エモ消費」と「ミーム」
5	１０．プラットフォーム経済 １０-①インターネット上の音楽サービスやコンテンツは、なぜ無料なのか？
6	１０-②デジタル・プラットフォームが形づくる音楽消費

7	１１．ネット炎上の政治学 １１−①音楽をとりまく左右のポピュリズムとバカッター
8	１１−②SNSと自己呈示の音楽市場
9	１２．ソーシャルメディアが起こすフェミニズムの「波」 １２−①音楽業界における第四波フェミニズムと＃MeToo
10	１２−②ソーシャルメディアで展開されるフェミニズムの課題

11	１３．ソーシャルメディのなかの東京ジャーミイ：デジタル化時代の宗教音楽の可能性 １３−①ソーシャルメディアのなかの東京ジャーミイ
12	１３−②ソーシャルメディアが音楽を通して涵養する宗教的感性
13	１４．ソーシャルメディアの教育活用：コロナ禍のなかで １４−①アクティブラーニングの流れ、教室とソーシャルメディア
14	１４−②講義形式と演習形式の音楽科授業とソーシャルメディア

15	1年間の総括と各学生の研究に対する助言

科目名	合奏指導法研究１　[水2]						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2885CO	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	岩本　伸一						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

合奏指導に関わる研修を通じて、音楽能力、指導力を身につけ且つ実践的な指導法のノウハウを研究する。

２．授業概要

積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サックスオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）の研究や編曲を行う。後期は現代曲の奏法と研究を実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と指導練習を必ず行う

４．成績評価の方法及び基準

演奏姿勢、演奏内容とレポート提出

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）やCD等の音源。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サックスオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）・洗足学園ニューフィルハーモニー・学外プロオーケストラ等。（中学・高校・大学等一般吹奏楽バンド指導やエキストラ出演も含む）

授業計画	
	［前期］ 注：各自で研究内容をレポート提出するが演奏会プログラム等を添付すること。 座学は前期半期予定
1	ガイダンス（前期）
2	フルートオーケストラ(同族)斎藤先生

3	ブリティッシュ・ブラス 福田先生
4	指揮法①オーケストラ指導について　松元先生
5	指揮法②吹奏楽指導について　松元先生
6	吹奏楽研究 伊藤先生

7	管楽器編曲方法①概要 松下先生
8	オーケストラ研究 渡部先生
9	サックスオーケストラ（同族）岩本先生
10	管楽器編曲法②楽器学と使用法 松下先生

11	管楽器編曲法③編曲実践（実際の編曲楽譜例 ） 松下先生
12	管楽器編曲法④編曲実践と演奏 松下先生
13	管楽器編曲法⑤実際に編曲した楽曲の演奏研究　松下先生
14	管楽器編曲法⑥ 編曲作品講評と修正 松下先生

15	合奏指導法研究まとめ 渡部先生
授業計画	
	［後期］ 演奏家の視点から現代音楽作品の解釈と特殊奏法について深く研究。トランペットやジャズ・ポピュラーなどのプレーヤーから実践を教授されることもある。
1	ガイダンスと授業説明
2	現代音楽の定義

3	フルートについて
4	オーボエについて
5	現代楽器と古楽器演奏法との相違点
6	サクソフォンについて

7	クラリネットについて
8	ホルンについて
9	トロンボーンについて
10	室内楽における現代曲について

11	オーケストラにおける現代曲について
12	現代音楽の現状
13	トランペットについて
14	アメリカの現代音楽について

15	まとめとレポート提出

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	沼田　園子	授業コード	IE2885D0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

弦楽合奏を通して、合奏の基本である、アインザッツ、音程のとり方、ハーモニー、各楽器のバランス、音色のつくり方、ボーイング等、各自スコアを用意し、考えながら一緒に音楽をつくり上げ、一人一人の技術・音楽性の向上につなげる。日本の作曲家を始め、様々な国の作曲家の背景等をふまえ、弦楽合奏ならではの響き、喜びを伝えられるような演奏ができるように共に学びあいたい。

2．授業概要

前期・後期の各演奏会に向けて、スコアを読みながら自分のパートだけでなく、他のパートのことも理解し、色々な方向から作品にとり組む。分奏・合奏を行い完成度の高い仕上りにする。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスそれぞれの楽器の日本を代表する弦楽器奏者の先生方を指導教員に迎え、各曲の解釈、ボーイング、フィンガリング、練習の仕方など自分たちでも考え、それに対して先生方の指導が行われる。コンサートに向けての仕上方も学ぶ。コンサートを聴いていただくお客様をどのように集客するかも考え、実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

最初の授業までに譜読みをする。スコアを読み、CD等を聴いて曲について勉強しておく、授業前も練習をよくして授業後も必ず復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）
平常点（評価の40%）
演奏会に向けての姿勢（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
総譜（スコア）を各自用意することが望ましい 演奏会で取り上げる曲について事前に調べ、CDなどで理解しておくことが望ましい。 応募者多数の場合はオーディションによって選抜する。

授業計画	
	［前期］吉田行地先生から学ぶ ＊モーツアルト　弦楽四重奏曲　第9番　K.169　イ長調 ＊プーランク　「ぞうのババール」 （声優アニメソングコースの学生　絵本朗読 音楽環境デザイン　絵本映像） ＊チャイコフスキー　弦楽セレナーデ
1	ガイダンス（前期授業説明） 前期課題曲の作曲家について学ぶ
2	モーツアルト、プーランク　譜読み

3	モーツアルト、プーランク譜読み
4	チャイコフスキー　譜読み
5	モーツアルト、プーランク　パート分奏
6	モーツアルト、チャイコフスキー　パート分奏

7	プーランク、チャイコフスキー　パート分奏
8	プーランク　朗読合わせ
9	モーツアルト、プーランク全体合奏
10	モーツアルト、チャイコフスキー　全体合奏

11	前期課題曲前半の通し練習
12	前期課題曲後半の通し練習
13	前期課題曲全体の通し練習
14	前期演奏会リハーサル最終確認

15	前期演奏会
授業計画	
	［後期］　澤和樹先生から学ぶ 本格的な弦楽合奏の珠玉の作品に挑戦する ＊J.ラター　　弦楽組曲 ＊エルガー　　序奏とアレグロ ＊スーク　　弦楽セレナーデ
1	ガイダンス（後期授業説明） 後期課題曲の作曲家について学ぶ
2	ラター、エルガー　譜読み

3	エルガー、スーク　譜読み
4	ラター、エルガー　パート分奏
5	エルガー、スークパート分奏
6	ラター、エルガー　全体合奏

7	エルガー、スーク　全体合奏
8	ラター、エルガー　パート分奏
9	エルガー、スークパート分奏
10	ラター、エルガー　全体合奏

11	エルガー、スーク　全体合奏
12	後期プログラム　前半通し練習
13	後期プログラム　後半通し練習
14	後期プログラム　全体通し練習

15	後期演奏会

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	IE2885E0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	秋田　孝訓、目等　貴士、悪原　至						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

打楽器奏者として不可欠な音色作りと、音楽家として捉えなければならない楽曲分析に焦点を当て、より豊かな音楽表現の実現を目指す。

2．授業概要

複数教員による多角的な考察と実践。
楽曲分析を実際に演奏に活かす為の方法を研究。
音色変化(倍音のコントロール)を考察し、減衰楽器である膜質打楽器、鍵盤打楽器における音楽表現を探究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回、授業内容における実践準備。
授業後、理解を深めスキルを究めるために自己研鑽に励む。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢と研究成果を100%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	［前期］
1	講師：悪原　至 楽曲分析の意義・方法
2	講師：悪原　至 スネアドラム作品の楽曲分析　講義

3	講師：悪原　至 スネアドラム作品の楽曲分析　実践
4	講師：悪原　至 鍵盤打楽器作品の楽曲分析　講義
5	講師：悪原　至 鍵盤打楽器作品の楽曲分析　実践
6	講師：悪原　至 楽曲分析を演奏に活かすために

7	講師：悪原　至 マルチ・パーカッション作品の楽曲分析　講義
8	講師：悪原　至 マルチ・パーカッション作品の楽曲分析　実践
9	講師：悪原　至 アンサンブル作品の楽曲分析　講義
10	講師：悪原　至 アンサンブル作品の楽曲分析　実践

11	講師：目等　貴士 音の仕組みと性質の説明および研究内容概説
12	講師：目等　貴士 手指の操作による音色変化考察
13	講師：目等　貴士 打点と角度による音色変化考察
14	講師：目等　貴士 マレット構造による音色変化考察

15	講師：目等　貴士 ティンパニを用いた実践
授業計画	
	［後期］
1	講師：目等　貴士 小太鼓を用いた実践
2	講師：目等　貴士 鍵盤打楽器を用いた実践

3	講師：目等　貴士 シンバルを用いた実践
4	講師：目等　貴士 マルチパーカッションを用いた実践
5	講師：目等　貴士 総合的な実践および総括
6	講師：秋田　孝訓 音価を感じたリズムアプローチ

7	講師：秋田　孝訓 打楽器の基本奏法についての考察
8	講師：秋田　孝訓 拍感、ビートについて
9	講師：秋田　孝訓 打楽器における音楽表現について
10	講師：秋田　孝訓 小物楽器のアプローチ

11	講師：秋田　孝訓 リズム感を高める
12	講師：秋田　孝訓 ラテン音楽のリズムの実践
13	講師：秋田　孝訓 ポップス音楽のリズムの実践
14	講師：秋田　孝訓 アンサンブル力を高めるために

15	講師：秋田　孝訓 チューニング、セッティングへの考察

科目名	合奏指導法研究１　金4ﾎﾟﾋﾟｭﾗｰｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ（後）火4ﾊﾞﾝﾄﾞｱﾚﾝｼﾞ						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE2885F0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	谷口　英治、高田　和泉						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽に携わる中で、演奏会を作り上げることは、必然性があると考えられる。この授業では、定期演奏会に向けての選曲に始まり、演奏会のテーマ、それに合った選曲、アレンジ、演奏表現を研究して、レベルの高い演奏会を作り上げることを目標とする。演奏することだけでなく、お互いに聞き合いながら、それを指導することも学んでいく。

２．授業概要

演奏会のテーマ、構成を考え、選曲を行なう。ソロ、アンサンブル等、演奏スタイルの決定、アレンジ、演奏と進める。リハーサルを進めながら、曲をまとめるための方法などを考え、最終的には、演奏会本番でその成果を発表する。
ポピュラー音楽をアンサンブルの演奏を通して学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業1回目で考えたスケジュールに合わせ、選曲、楽譜の準備、アレンジ等、計画に合わせて、予習、復習を行なうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み態度・・50%　演奏会本番の演奏・・50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時紹介していく。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
積極的な授業への参加と授業への準備を行なってほしい。

授業計画	
	［前期］ いろいろな演奏の形態の研究分析を行い、選曲をする。その後で、アレンジを始める。舞台製作に関する講義も行ない、計画をしていく。
1	ガイダンス
2	ポピュラー音楽の基礎知識

3	ポピュラー音楽の基礎知識　リズムについて
4	ポピュラー音楽の基礎知識　バッキングについて
5	ポピュラー音楽の基礎知識　ベースの基礎知識
6	演奏会実習　選曲のための調査1回目（音源）

7	演奏会実習　選曲のための調査2回目（楽譜）
8	演奏会実習　選曲のアイディアのプレゼンテーション1回目（前半学生）
9	演奏会実習　選曲のアイディアのプレゼンテーション2回目（後半学生）
10	演奏会実習　プログラムの決定。

11	演奏会実習　舞台を作ること。①　講義
12	演奏会実習　舞台を作ること②　実習
13	演奏会実習　演奏者の決定。
14	演奏会実習　アレンジ案のプレゼンテーション。

15	演奏会実習　演奏会までのアレンジスケジュールの決定。
授業計画	
	［後期］ 前期で決めたプログラムに沿って、演奏を仕上げていく。
1	ポピュラーアンサンブルの実践　アナリーゼ
2	ポピュラーアンサンブル　電子オルガンによるバンド実習

3	ポピュラーサンブル　電子オルガンとアコースティック楽器によりバンド実習
4	ポピュラーアンサンブル　電子オルガンとアコースティック楽器によるバンド実習　応用編
5	ポピュラーアンサンブル　バンド演奏による授業内発表と分析
6	演奏会実習　ソロ演奏曲の解釈と音色作りの確認（2部のプログラム）

7	演奏会実習　アンサンブル演奏曲の解釈と音色作り（1部のプログラム）
8	演奏会実習　アンサンブル演奏曲の解釈と音色作り（2部のプログラム）
9	演奏会実習　指揮者から合奏指導法を学ぶ。
10	演奏会実習　アンサンブルの演奏並びに指導法（解釈と表現方法）

11	演奏会実習　アンサンブルの演奏並びに指導法（バランスの考え方と判断基準）
12	演奏会実習　演奏会の進行に必要な情報を集める。
13	演奏会実習　演奏会全体の流れから、演奏以外の部分についての時間配分や内容について、まとめる。
14	演奏会実習　定期演奏会のゲネプロを行なう。 進行の仕方の確認。

15	演奏会実習　演奏会本番を終えて、演奏、アレンジ、企画全体から、分析を試みる。

科目名	合奏指導法研究１　［土6］						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2885GO	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本学では多くのコンサートがあり、GHコースの講師や学生のみならず、他コースの学生や外部の奏者との共演の機会もある。自らが優れた演奏をするだけでなく、コンサート本番にむけての全体準備やスケジュール計画の作成、パート練習や合奏練習における後輩への助言、指導等、院生としてリーダーの役割も果たさなければならない。演奏家として将来、指導的立場になることを目指し、実践の場でリーダーとしての研鑽を積む。

２．授業概要

学内外の演奏会およびそのための準備や練習を演習の機会とする。また、担当責任者としてコンサートの企画立案も行う。
また、必要に応じて講義形式やディスカッション形式の授業も実施する。
尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レジュメ、チラシ、プログラム作成やスケジュール管理などを行う。
また、日常的に行われる学部生を含む学生の自主的な合奏練習への参加とリーダーシップが重要な実践の場となる。

４．成績評価の方法及び基準

平素の合奏練習でのリーダーシップ(30%）、演奏会の企画や計画立案の内容と実施実績（30%）、期末レポート（40%）を総合的に判断し評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

過去のコンサートの資料（チラシ、プログラム、レジュメなど）
楽譜等の管理については、著作物としての認識を強く持ち、充分に配慮すること。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特に無し

授業計画	
1	コンサート運営研究１ / ガイダンス
2	コンサート運営研究２ / GH関連イベントの事例研究

3	コンサート運営研究３ ／ 本学各種イベントの事例研究
4	コンサート運営研究４ ／ 学部イベント等の事例研究
5	コンサート運営研究５ ／ 仮想自主リサイタル構想立案
6	コンサート運営研究６ ／ 仮想自主リサイタル予算作成

7	コンサート運営研究７ / 仮想自主リサイタル企画案完成
8	外部コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
9	外部コンサート準備 / 直前広報展開
10	外部コンサート準備 / タイムテーブル策定等

11	外部コンサート準備 / 最終チェック
12	「和のいろは」コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	「和のいろは」コンサート準備 / 直前広報展開
14	「和のいろは」コンサート準備 / タイムテーブル作成等

15	「和のいろは」コンサート準備 / 最終チェック

授業計画

1	後期ガイダンス / 役割分担等決定
2	邦楽ミュージカル準備 / 曲目・演奏者等の情報確定

3	邦楽ミュージカル準備 / 照明・音響との打合せ
4	邦楽ミュージカル準備 / 直前広報展開
5	邦楽ミュージカル準備 / タイムテーブル作成等
6	邦楽ミュージカル準備 / 最終チェック

7	冬の音楽祭準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
8	冬の音楽祭準備 / 音楽祭全体とのすり合わせ
9	冬の音楽祭準備 / 直前広報展開
10	冬の音楽祭準備 / タイムテーブル作成等

11	冬の音楽祭準備 / 最終チェック
12	定期演奏会準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	定期演奏会準備 / 直前広報展開
14	定期演奏会準備 / タイムテーブル作成等

15	定期演奏会準備 / 最終チェック

科目名	合奏指導法研究１　［水6］						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	IE2885J0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	ME			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音楽教育の分野で重要な役割を果たす器楽の合奏について、打楽器の考察と演奏法を通じて、合奏指導法に関する研究、演習を重ねていくことを主題とします。

【到達目標】器楽合奏の知識や経験を深め、将来の教育現場での合奏指導、教材の開発につながる力を身に付けることを到達目標とします。

２．授業概要

本授業は、基本対面で実施しますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、同時双方向型の遠隔授業も併用可能です。

前期は、リズム・拍子の基本を学び、代表的な打楽器の基本的な奏法を実践、その指導法についての演習を中心に授業を進めていきます。
後期は、実際に打楽器を演奏し、アンサンブルを通じて将来の教育現場に必要とされる合奏指導の研究を中心に授業を進めていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業では、リズムの基本を学び、実際にボディパーカッションや打楽器演奏を行います。授業外での譜読みが必要な場合もあります。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（合奏に取り組む熱意、練習への意欲、合奏指導の工夫の観点）を評価の100%とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

用途に応じ、授業内で随時、配布、紹介していきます。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特にありません。

授業計画	
	［前期］ アンサンブルに関する概論と実習　【基礎編】
1	前期ガイダンス
2	概論1：リズムの基本

3	概論2：拍子の基本
4	ボディパーカッションについての考察
5	ボディパーカッションを演奏してみよう！ パート分け、練習開始
6	ボディパーカッションの全体合奏と考察

7	ボディパーカッションの演奏発表
8	基本的な打楽器の考察と演奏法 スネアドラム
9	基本的な打楽器の考察と演奏法 バスドラム、シンバル
10	基本的な打楽器の考察と演奏法 ティンパニ

11	基本的な打楽器の考察と演奏法 タンバリン、トライアングル、カスタネット
12	基本的な打楽器の考察と演奏法 様々な小物打楽器(ウッドブロック、カウベル 他)
13	基本的な打楽器の考察と演奏法 擬音打楽器
14	基本的な打楽器の考察と演奏法 ラテン楽器、エスニック打楽器

15	基本的な打楽器の考察と演奏法 民族打楽器(ジャンベ 他)
授業計画	
	［後期］ アンサンブルに関する概論と実習 【応用編】
1	後期ガイダンス
2	打楽器合奏の基本と楽曲分析

3	音楽教育において必要とされる打楽器の紹介と考察
4	簡単な小物打楽器のアンサンブル
5	基本的な膜質打楽器のアンサンブル
6	打楽器合奏におけるビート、リズムの考察と実習

7	小物、膜質打楽器アンサンブル曲のリハーサルと発表
8	鍵盤打楽器の考察と演奏法 マリンバ
9	鍵盤打楽器の考察と演奏法 グロッケン、ビブラフォン
10	鍵盤打楽器のアンサンブル パート分け、練習

11	鍵盤打楽器のアンサンブル 仕上げと発表
12	ガムランの考察と演奏法
13	ガムランアンサンブルの演奏実習
14	和太鼓の演奏法と実習

15	総括

科目名	合奏指導法研究２　［水2］						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2886CO	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	岩本　伸一						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

合奏指導に関わる研修を通じて、音楽能力、指導力を身につけ且つ実践的な指導法のノウハウを研究する。

２．授業概要

積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サックスオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）の研究や編曲を行う。後期は現代曲の奏法と研究を実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と指導練習を必ず行う

４．成績評価の方法及び基準

演奏姿勢、演奏内容とレポート提出

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）やCD等の音源。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サックスオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）や編曲を行う。後期は現代曲の奏法と研究を実践する。

授業計画	
	［前期］ 注：各自で研究内容をレポート提出するが演奏会プログラム等を添付すること。 座学は前期半期予定
1	ガイダンス（前期）
2	フルートオーケストラ(同族)斎藤先生

3	ブリティッシュ・ブラス 福田先生
4	指揮法①オーケストラ指導について　松村先生
5	指揮法②吹奏楽指導について　松村先生
6	吹奏楽研究 伊藤先生

7	管楽器編曲方法①概要 松下先生
8	オーケストラ研究 渡部先生
9	サックスオーケストラ（同族）岩本先生
10	管楽器編曲法②楽器学と使用法 松下先生

11	管楽器編曲法③編曲実践（実際の編曲楽譜例 ） 松下先生
12	管楽器編曲法④編曲実践と演奏 松下先生
13	管楽器編曲法⑤実際に編曲した楽曲の演奏研究　松下先生
14	管楽器編曲法⑥ 編曲作品講評と修正 松下先生

15	合奏指導法研究まとめ 渡部先生
授業計画	
	［後期］ 演奏家の視点から現代音楽作品の解釈と特殊奏法について深く研究。トランペットやジャズ・ポピュラーなどのプレーヤーから実践を教授されることもある。
1	ガイダンスと授業説明
2	現代音楽の定義

3	フルートについて
4	オーボエについて
5	現代楽器と古楽器演奏法との相違点
6	サクソフォンについて

7	クラリネットについて
8	ホルンについて
9	トロンボーンについて
10	室内楽における現代曲について

11	オーケストラにおける現代曲について
12	現代音楽の現状
13	トランペットについて
14	アメリカの現代音楽について

15	まとめとレポート提出

科目名	合奏指導法研究２						
代表教員	沼田　園子	授業コード	IE2886D0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

弦楽合奏を通して、合奏の基本である、アインザッツ、音程のとり方、ハーモニー、各楽器のバランス、音色のつくり方、ボーイング等、各自スコアを用意し、考えながら一緒に音楽をつくり上げ、一人一人の技術・音楽性の向上につなげる。日本の作曲家を始め、様々な国の作曲家の背景等をふまえ、弦楽合奏ならではの響き、喜びを伝えられるような演奏ができるように共に学びあいたい。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

前期・後期の各演奏会に向けて、スコアを読みながら自分のパートだけでなく、他のパートのことも理解し、色々な方向から作品にとり組む。分奏・合奏を行い完成度の高い仕上りにする。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスそれぞれの楽器の日本を代表する弦楽器奏者の先生方を指導教員に迎え、各曲の解釈、ボーイング、フィンガリング、練習の仕方など自分たちでも考え、それに対して先生方の指導が行われる。コンサートに向けての仕上方も学ぶ。コンサートを聴いていただくお客様をどのように集客するかも考え、実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

最初の授業までに譜読みをする。スコアを読み、CD等を聴いて曲について勉強しておく、授業前も練習をよくして授業後も必ず復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）
平常点（評価の40%）
演奏会に向けての姿勢（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
総譜（スコア）を各自用意することが望ましい 演奏会で取り上げる曲について事前に調べ、CDなどで理解しておくことが望ましい。 応募者多数の場合はオーディションによって選抜する。

授業計画	
	［前期］吉田行地先生から学ぶ ＊モーツアルト　弦楽四重奏曲　第9番　K.169　イ長調 ＊プーランク　「ぞうのババール」 （声優アニメソングコースの学生　絵本朗読 音楽環境デザイン　絵本映像） ＊チャイコフスキー　弦楽セレナーデ
1	ガイダンス（前期授業説明） 前期課題曲の作曲家について学ぶ
2	モーツアルト、プーランク　譜読み

3	チャイコフスキー　譜読み
4	モーツアルト、プーランク　パート分奏
5	チャイコフスキー　パート分奏
6	モーツアルト、プーランク全体合奏

7	チャイコフスキー全体合奏
8	プーランク　朗読合わせ
9	モーツアルト、プーランク全体合奏
10	モーツアルト、チャイコフスキー　全体合奏

11	前期課題曲前半の通し練習
12	前期課題曲後半の通し練習
13	前期課題曲全体の通し練習
14	前期演奏会リハーサル最終確認

15	前期演奏会
授業計画	
	［後期］　澤和樹先生から学ぶ 本格的な弦楽合奏の珠玉の作品に挑戦する ＊J.ラター　　弦楽組曲 ＊エルガー　　序奏とアレグロ ＊スーク　　弦楽セレナーデ
1	ガイダンス（後期授業説明） 後期課題曲の作曲家について学ぶ
2	ラター、エルガー　譜読み

3	エルガー、スーク譜読み
4	ラター、エルガー　パート分奏
5	エルガー、スーク　パート分奏
6	ラター、エルガー　全体合奏

7	エルガー、スーク　全体合奏
8	ラター、エルガー　パート分奏
9	エルガー、スーク　パート分奏
10	ラター、エルガー　全体合奏

11	エルガー、スーク　全体合奏
12	後期プログラム　前半通し練習
13	後期プログラム　後半通し練習
14	後期プログラム　全体通し練習

15	後期演奏会

科目名	合奏指導法研究２						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	IE2886E0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	秋田　孝訓、目等　貴士、悪原　至						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

打楽器奏者として不可欠な音色作りと、音楽家として捉えなければならない楽曲分析に焦点を当て、より豊かな音楽表現の実現を目指す。

２．授業概要

複数教員による多角的な考察と実践。
楽曲分析を実際に演奏に活かす為の方法を研究。
音色変化（倍音のコントロール）を考察し、減衰楽器である膜質打楽器、鍵盤打楽器における音楽表現を探究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回、授業内容における実践準備。
授業後、理解を深めスキルを究めるために自己研鑽に励む。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢と研究成果を100%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	［前期］
1	講師：悪原　至 楽曲分析の意義・方法
2	講師：悪原　至 スネアドラム作品の楽曲分析　講義

3	講師：悪原　至 スネアドラム作品の楽曲分析　実践
4	講師：悪原　至 鍵盤打楽器作品の楽曲分析　講義
5	講師：悪原　至 鍵盤打楽器作品の楽曲分析　実践
6	講師：悪原　至 楽曲分析を演奏に活かすために

7	講師：悪原　至 マルチ・パーカッション作品の楽曲分析　講義
8	講師：悪原　至 マルチ・パーカッション作品の楽曲分析　実践
9	講師：悪原　至 アンサンブル作品の楽曲分析　講義
10	講師：悪原　至 アンサンブル作品の楽曲分析　実践

11	講師：目等　貴士 音の仕組みと性質の説明および研究内容概説
12	講師：目等　貴士 手指の操作による音色変化考察
13	講師：目等　貴士 打点と角度による音色変化考察
14	講師：目等　貴士 マレット構造による音色変化考察

15	講師：目等　貴士 ティンパニを用いた実践
授業計画	
	［後期］
1	講師：目等　貴士 小太鼓を用いた実践
2	講師：目等　貴士 鍵盤打楽器を用いた実践

3	講師：目等　貴士 シンバルを用いた実践
4	講師：目等　貴士 マルチパーカッションを用いた実践
5	講師：目等　貴士 総合的な実践および総括
6	講師：秋田　孝訓 音価を感じたリズムアプローチ

7	講師：秋田　孝訓 打楽器の基本奏法についての考察
8	講師：秋田　孝訓 拍感、ビートについて
9	講師：秋田　孝訓 打楽器における音楽表現について
10	講師：秋田　孝訓 小物楽器のアプローチ

11	講師：秋田　孝訓 リズム感を高める
12	講師：秋田　孝訓 ラテン音楽のリズムの実践
13	講師：秋田　孝訓 ポップス音楽のリズムの実践
14	講師：秋田　孝訓 アンサンブル力を高めるために

15	講師：秋田　孝訓 チューニング、セッティングへの考察

科目名	合奏指導法研究２ （前）月3ﾊﾞﾝﾄﾞｱﾚﾝｼﾞ金3ﾎﾟﾋﾟｭﾗｰｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE2886FO	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	谷口　英治、高田　和泉						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	EO			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽に携わる中で、演奏会を作り上げることは、必然性があると考えられる。この授業では、定期演奏会に向けての選曲に始まり、演奏会のテーマ、それに合った選曲、アレンジ、演奏表現を研究して、レベルの高い演奏会を作り上げることを目標とする。演奏することだけでなく、お互いに聞き合いながら、それを指導することも学んでいく。

２．授業概要

演奏会のテーマ、構成を考え、選曲を行なう。ソロ、アンサンブル等、演奏スタイルの決定、アレンジ、演奏と進める。リハーサルを進めながら、曲をまとめるための方法などを考え、最終的には、演奏会本番でその成果を発表する。
ポピュラー音楽をアンサンブルの演奏を通して学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業1回目で考えたスケジュールに合わせ、選曲、楽譜の準備、アレンジ等、計画に合わせて、予習、復習を行なうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み態度・・50%　演奏会本番の演奏・・50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時紹介していく。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
積極的な授業への参加と授業への準備を行なってほしい。

授業計画	
	［前期］ いろいろな演奏の形態の研究分析を行い、選曲をする。その後で、アレンジを始める。舞台製作に関する講義も行ない、計画をしていく。
1	ガイダンス
2	ポピュラー音楽の基礎知識

3	ポピュラー音楽の基礎知識　リズムについて
4	ポピュラー音楽の基礎知識　バッキングについて
5	ポピュラー音楽の基礎知識　ベースの基礎知識
6	演奏会実習　選曲のための調査1回目（音源）

7	演奏会実習　選曲のための調査2回目（楽譜）
8	演奏会実習　選曲のアイディアのプレゼンテーション1回目（前半学生）
9	演奏会実習　選曲のアイディアのプレゼンテーション2回目（後半学生）
10	演奏会実習　プログラムの決定。

11	演奏会実習　舞台を作ること。①　講義
12	演奏会実習　舞台を作ること②　実習
13	演奏会実習　演奏者の決定。
14	演奏会実習　アレンジ案のプレゼンテーション。

15	演奏会実習　演奏会までのアレンジスケジュールの決定。
授業計画	
	［後期］ 前期で決めたプログラムに沿って、演奏を仕上げていく。
1	ポピュラーアンサンブルの実践　アナリーゼ
2	ポピュラーアンサンブル　電子オルガンによるバンド実習

3	ポピュラーサンブル　電子オルガンとアコースティック楽器によりバンド実習
4	ポピュラーアンサンブル　電子オルガンとアコースティック楽器によるバンド実習　応用編
5	ポピュラーアンサンブル　バンド演奏による授業内発表と分析
6	演奏会実習　ソロ演奏曲の解釈と音色作りの確認（2部のプログラム）

7	演奏会実習　アンサンブル演奏曲の解釈と音色作り（1部のプログラム）
8	演奏会実習　アンサンブル演奏曲の解釈と音色作り（2部のプログラム）
9	演奏会実習　指揮者から合奏指導法を学ぶ。
10	演奏会実習　アンサンブルの演奏並びに指導法（解釈と表現方法）

11	演奏会実習　アンサンブルの演奏並びに指導法（バランスの考え方と判断基準）
12	演奏会実習　演奏会の進行に必要な情報を集める。
13	演奏会実習　演奏会全体の流れから、演奏以外の部分についての時間配分や内容について、まとめる。
14	演奏会実習　定期演奏会のゲネプロを行なう。 進行の仕方の確認。

15	演奏会実習　演奏会本番を終えて、演奏、アレンジ、企画全体から、分析を試みる。

科目名	合奏指導法研究２　［土6］						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2886GO	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本学では多くのコンサートがあり、GHコースの講師や学生のみならず、他コースの学生や外部の奏者との共演の機会もある。自らが優れた演奏をするだけでなく、コンサート本番にむけての全体準備やスケジュール計画の作成、パート練習や合奏練習における後輩への助言、指導等、院生としてリーダーの役割も果たさなければならない。演奏家として将来、指導的立場になることを目指し、実践の場でリーダーとしての研鑽を積む。

２．授業概要

学内外の演奏会およびそのための準備や練習を演習の機会とする。また、担当責任者としてコンサートの企画立案も行う。
また、必要に応じて講義形式やディスカッション形式の授業も実施する。
尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レジュメ、チラシ、プログラム作成やスケジュール管理などを行う。
また、日常的に行われる学部生を含む学生の自主的な合奏練習への参加とリーダーシップが重要な実践の場となる。

４．成績評価の方法及び基準

平素の合奏練習でのリーダーシップ(30%）、演奏会の企画や計画立案の内容と実施実績（30%）、期末レポート（40%）を総合的に判断し評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

過去のコンサートの資料（チラシ、プログラム、レジュメなど）
楽譜等の管理については、著作物としての認識を強く持ち、充分に配慮すること。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特に無し

授業計画	
1	コンサート運営研究１ / ガイダンス
2	コンサート運営研究２ / GH関連イベントの事例研究

3	コンサート運営研究３ ／ 本学各種イベントの事例研究
4	コンサート運営研究４ ／ 学部イベント等の事例研究
5	コンサート運営研究５ ／ 仮想自主リサイタル構想立案
6	コンサート運営研究６ ／ 仮想自主リサイタル予算作成

7	コンサート運営研究７ / 仮想自主リサイタル企画案完成
8	外部コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
9	外部コンサート準備 / 直前広報展開
10	外部コンサート準備 / タイムテーブル作成等

11	外部コンサート準備 / 最終チェック
12	「和のいろは」コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	「和のいろは」コンサート準備 / 直前広報展開
14	「和のいろは」コンサート準備 / タイムテーブル作成等

15	「和のいろは」コンサート準備 / 最終チェック

授業計画

1	後期ガイダンス / 役割分担策定等
2	邦楽ミュージカル準備 / 曲目・演奏者等の情報確定

3	邦楽ミュージカル準備 / 照明・音響との打合せ
4	邦楽ミュージカル準備 / 直前広報展開
5	邦楽ミュージカル準備 / タイムテーブル作成等
6	邦楽ミュージカル準備 / 最終チェック

7	冬の音楽祭準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
8	冬の音楽祭準備 / 音楽祭全体とのすり合わせ
9	冬の音楽祭準備 / 直前広報展開
10	冬の音楽祭準備 / タイムテーブル作成等

11	冬の音楽祭準備 / 最終チェック
12	定期演奏会準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	定期演奏会準備 / 直前広報展開
14	定期演奏会準備 / タイムテーブル作成等

15	定期演奏会準備 / 最終チェック

科目名	合奏指導法研究２　［水6］						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	IE2886J0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME			科目分類	専門選択（各コース）		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音楽教育の分野で重要な役割を果たす器楽の合奏について、打楽器の考察と演奏法を通じて、合奏指導法に関する研究、演習を重ねていくことを主題とします。

【到達目標】器楽合奏の知識や経験を深め、将来の教育現場での合奏指導、教材の開発につながる力を身に付けることを到達目標とします。

２．授業概要

本授業は、基本対面で実施しますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、同時双方向型の遠隔授業も併用可能です。

前期は、リズム・拍子の基本を学び、代表的な打楽器の基本的な奏法を実践、その指導法についての演習を中心に授業を進めていきます。
後期は、実際に打楽器を演奏し、アンサンブルを通じて将来の教育現場に必要とされる合奏指導の研究を中心に授業を進めていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業では、リズムの基本を学び、実際にボディパーカッションや打楽器演奏を行います。授業外での譜読みが必要な場合もあります。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（合奏に取り組む熱意、練習への意欲、合奏指導の工夫の観点）を評価の100%とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

用途に応じ、授業内で随時、配布、紹介していきます。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特にありません。

授業計画	
	［前期］ アンサンブルに関する概論と実習　【基礎編】
1	前期ガイダンス
2	概論1：リズムの基本

3	概論2：表紙の基本
4	ボディパーカッションについての考察
5	ボディパーカッションを演奏してみよう！ パート分け、練習開始
6	ボディパーカッションの全体合奏と考察

7	ボディパーカッションの演奏発表
8	基本的な打楽器の考察と演奏法 スネアドラム
9	基本的な打楽器の考察と演奏法 バスドラム、シンバル
10	基本的な打楽器の考察と演奏法 ティンパニ

11	基本的な打楽器の考察と演奏法 タンバリン、トライアングル、カスタネット
12	基本的な打楽器の考察と演奏法 様々な小物打楽器(ウッドブロック、カウベル 他)
13	基本的な打楽器の考察と演奏法 擬音打楽器
14	基本的な打楽器の考察と演奏法 ラテン楽器、エスニック打楽器

15	基本的な打楽器の考察と演奏法 民族打楽器(ジャンベ 他)
授業計画	
	［後期］ アンサンブルに関する概論と実習 【応用編】
1	後期ガイダンス
2	打楽器合奏の基本と楽曲分析

3	音楽教育において必要とされる打楽器の紹介と考察
4	簡単な小物打楽器のアンサンブル
5	基本的な膜質打楽器のアンサンブル
6	打楽器合奏におけるビート、リズムの考察と実習

7	小物、膜質打楽器アンサンブル曲のリハーサルと発表
8	鍵盤打楽器の考察と演奏法 マリンバ
9	鍵盤打楽器の考察と演奏法 グロッケン、ビブラフォン
10	鍵盤打楽器のアンサンブル パート分け、練習

11	鍵盤打楽器のアンサンブル 仕上げと発表
12	ガムランの考察と演奏法
13	ガムランアンサンブルの演奏実習
14	和太鼓の演奏法と実習

15	総括

科目名	作品研究法 ［月4］那須田クラス						
代表教員	那須田　務	授業コード	IE3070A0	科目コード	IE3070	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（MT・MU除く）			科目分類	共通選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

当講座は音楽学の専門的な論文を含む文章の読解力や文章力を養うと同時に、論文執筆に必要な知識や技術を身に着け、2年次の副論文の執筆に備えます。

2．授業概要

授業は原則的に教室での対面形式で行ないますが、新型コロナの状況次第でオンラインに変更する可能性もあります。

音楽学研究や論文執筆の基礎的な技術や方法を学びます。具体的には以下の通りです。音楽学の学問分野についての概説、レファレンス資料の紹介と欧文の文献（作品目録など）の読み方、文献の客観的で批判的な扱い方、学術論文の精読、論文執筆の方法論（構成、書式、引用や注釈、研究方法など）。なお、後期の講義で取り上げる研究論文や講義の内容は変更することがあります。あらかじめご了承ください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

当講座では論文執筆の基礎的な能力を養うために様々な課題（予習、復習）を設けています。授業時間外での作業も必要になりますが、これを通して学んだ事柄は、実際の執筆に役立つことでしょう。具体的な課題はその都度提示します。

４．成績評価の方法及び基準

1年間の授業を通していくつも課題を出します。平常点50%と課題の提出物50%の平均点で評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の際に指示します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
音楽理論（和声・対位法・楽曲分析）や音楽史の基礎的な知識を持つ者。1年次に履修してください。

授業計画	
	［前期］ 論文執筆の基礎的な知識や技術を学びます。
1	はじめに。課題の提示：小論文
2	音楽学について～音楽学とは何か、音楽学の歴史

3	音楽学について～音楽学の歴史的分野
4	音楽学について～非歴史的分野、音楽社会学、音楽心理学、民族音楽学、楽器学など
5	小論文の添削
6	レファレンス資料の紹介、文献資料の探し方

7	RISM・RILM講座
8	文献表の作成、課題の提示
9	欧文の作品目録（ＷＶ）の読み方～バッハ，ヘンデル
10	欧文の作品目録（ＷＶ）の読み方～シューマン、ブラームスなど

11	歴史的研究の方法論、課題の提示
12	学術論文を読む～例）フランス近代音楽の分析法を含む。沼野雄司1999「C．ドビュッシーの《海》研究序説～第1曲を中心に」東京音楽大学研究紀要
13	学術論文を読む
14	論文執筆のテーマの決め方、アプローチの方法、執筆のプロセス、計画の立て方など

15	前期のまとめ、夏休みの課題の提示
授業計画	
	［後期］ 各自研究テーマを決め、論文を執筆します。
1	夏休みの課題の提出と添削
2	コンサート等の曲目解説の書きかた。課題の提示

3	研究倫理について
4	2年生の副論文中間発表の聴講
5	情報の扱い方、分類・整理法、論文の構成法
6	引用・情報源の示し方、注釈の書き方

7	音楽学関連の講義～詩と韻律、音楽と言葉の関係（ドイツ語詩）
8	音楽学関連の講義～詩と韻律、言葉と音楽の関係（フランス語詩）
9	後期課題についての個別相談
10	後期課題についての個別相談の続き

11	音楽学関連の講義～音楽の修辞学
12	音楽学関連の講義～作曲家の自筆譜の世界
13	音楽学関連の講義～バッハの《フーガの技法》
14	音楽学関連の講義～《フーガの技法》第2回

15	当講座のまとめ

科目名	作品研究法 ［金2］那須田クラス						
代表教員	那須田　務	授業コード	IE3070B0	科目コード	IE3070	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（MT・MU除く）			科目分類	共通選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

当講座では音楽学の専門的な論文を含む文章の読解力や文章力を養うと同時に、論文の執筆に必要な知識や技術を身に着け、2年次の副論文の執筆に備えます。

２．授業概要

授業は原則的に教室での対面形式で行ないますが、新型コロナの状況次第でオンラインに変更する可能性があります。

音楽学研究や論文執筆の基礎的な技術を学びます。具体的には以下の通りです。音楽学の学問分野についての概説、レファレンス資料の紹介と欧文の文献（作品目録など）の読み方、文献資料の客観的で批判的な扱い方、学術論文の精読、論文執筆の方法論（構成、書式、引用や注釈、研究方法など）。また、後期には実際に論文を執筆します。なお、後期の講義で取り上げる研究論文や講義の内容は変更することがあります。あらかじめご了承ください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

当講座では論文執筆の基礎的な能力を養うために様々な課題（予習復習）を設けています。授業時間外での作業も必要になりますが、こうして学んだ事柄は、実際の執筆に役立つことでしょう。具体的な課題はその都度提示します。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%と課題の提出物50%の平均点で評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の際に指示します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
音楽理論（和声・対位法・楽曲分析）や音楽史などの基礎的な知識を持つ者。1年次に履修してください。

授業計画	
	［前期］論文執筆の基礎得 t 機な知識や技術を学びます。
1	はじめに。課題の提示（小論文）
2	音楽学について～音楽学とは何か、音楽学の歴史

3	音楽学について～音楽学の歴史的分野
4	音楽学について～非歴史的分野、音楽社会学、音楽心理学、民族音楽学、楽器学など
5	課題の添削(小論文)
6	レファレンス資料の紹介、文献資料の探し方

7	RISM・RILM講座
8	文献表の作成、課題の提示
9	欧文の作品目録（ＷＶ）の読み方～バッハ、ヘンデル
10	欧文の作品目録の読み方～シューマン、ブラームスなど

11	歴史的研究の方法論、課題の提示
12	学術論文を読む～例）フランス近代音楽の分析法を含む。沼野雄司1999「C．ドビュッシーの《海》研究序説～第1曲を中心に」東京音楽大学研究紀要
13	学術論文を読む
14	論文のテーマの決め方、アプローチの方法、執筆のプロセス、計画の立て方など

15	前期のまとめ、夏休みの課題の提示
授業計画	
	［後期］ 各自の演習と発表を中心に授業を進めます。
1	夏休みの課題の提出と添削
2	コンサートなどの曲目解説の書き方

3	研究倫理について
4	2年生の副論文中間発表を聴講
5	情報の扱い方、分類・整理の方法、論文の構成法
6	引用・情報源の示し方、注釈の書き方

7	音楽学関連の講義～詩と韻律、音楽と言葉の関係（ドイツ語詩）
8	音楽学関連の講義～詩と韻律、言葉と音楽の関係（フランス語詩）
9	後期課題についての個別相談
10	後期課題についての個別相談の続き

11	音楽学関連の講義～音楽の修辞学
12	音楽学関連の講義～作曲家の自筆譜の世界
13	音楽学関連の講義～バッハの《フーガの技法》
14	バッハの《フーガの技法》の続き

15	課題提出と当講座のまとめ

科目名	作品研究法 ［金2］森・鹿野クラス						
代表教員	森　威功	授業コード	IE3070C0	科目コード	IE3070	期間	通年
担当教員	鹿野　草平						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	EO・SC			科目分類	共通選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

SC.EOコースでは2年次にテクニカルレポートを執筆します。本講座では両コースの学生が志向する音楽分野の歴史や分析手法について理解を深め、各々の修了作品・演奏をテクニカルレポートとしてまとめるために必要な知識や技術を総合的に学び、執筆に備えます。

２．授業概要

対面と遠隔授業を組み合わせて実施する。
第1回授業は対面で実施し、スケジュールの詳細や各回の内容など説明する。

テクニカルレポート執筆の基礎的な技術や方法について指導します。さらに作品研究については各分野から講師を招き、それぞれの特徴や分析手法、専門的なアプローチの方法について学びます。作品研究の講義で取り上げる内容とスケジュールは変更することがあります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各々の楽曲解説や作品研究の講座では分野ごとのレポートを提出してもらいます。具体的な課題はその都度提示します。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%と課題の提出物50%の平均点で評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の際に指示します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
音楽理論や音楽史などの基礎的な知識を持つ者。1年次に履修してください。

授業計画	
	［前期］ テクニカルレポート執筆の基礎的な知識や技術及び作品の研究手法を学びます。
1	はじめに：（対面で実施）テクニカルレポートの概要 課題の提示
2	テクニカルレポートのテーマ設定とアプローチ方法

3	映画音楽の歴史 講師：関美奈子
4	映画音楽の思想や理念の紹介 講師：関美奈子
5	映画音楽の楽曲分析 講師：関美奈子
6	現代音楽ー12音技法とその応用 講師：鹿野草平

7	現代音楽ーミニマル音楽 講師：鹿野草平
8	現代音楽ー日本の作曲家 講師：鹿野草平
9	クラシック音楽ーバロック音楽の書法、J.S.Bachの作品を中心に 講師：萩森英明
10	クラシック音楽ー古典派音楽の書法、W. A. Mozartの作品を中心に 講師：萩森英明

11	クラシック音楽ーロマン派音楽の書法、F.Chopinの作品を中心に 講師：萩森英明
12	アニソンの歴史　誕生～発展編 講師：石田寛朗
13	アニソンの歴史　発展～現在編 講師：石田 寛朗
14	副論文　RISM・RILM講座

15	前期のまとめと課題提示
授業計画	
	［後期］ 前期に引き続き作品の研究手法を学びながら、各自研究テーマを決めテクニカルレポートを執筆します。
1	電子オルガンの歴史と奏法 講師：三宅康弘
2	電子オルガンのためのオリジナル曲 講師：三宅康弘

3	電子楽器の歴史　２０世紀前半 講師：森威功
4	電子楽器の歴史　２０世紀後半 講師：森威功
5	大学院２年生によるテクニカルレポート中間発表（SC学生）
6	大学院２年生によるテクニカルレポート中間発表（EO学生）

7	電子音響音楽ーフィクストメディア作品を中心に 講師：森威功
8	電子音響音楽ーライブ・エレクトロニクス作品を中心に 講師：森威功
9	録音やオーディオ技術の歴史（映画音響含む） 講師：生形三郎（オンデマンド配信）
10	録音制作手法について（スタジオ・ホール・屋外など） 講師：生形三郎 （オンデマンド配信）

11	イマーシブオーディオの概観と作品例 講師：生形三郎 （オンデマンド配信）
12	研究倫理と研究発表の進め方
13	研究発表のテーマ提出
14	研究発表会（SC学生）

15	研究発表会（E0学生）

科目名	楽曲分析法　[火1] 伊藤クラス						
代表教員	伊藤　康英	授業コード	IE3080A0	科目コード	IE3080	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（CO除く）			科目分類	共通選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音楽作品を分析することで、より充実した演奏表現が可能となる。また作曲への興味も抱くことができるので、音楽作品との関わりかたも変わってくるだろう。
ここでは、「分析から表現を」という観点で、より演奏に役立つ楽曲分析を行う。

2．授業概要

楽曲分析の方法を提示する。
形式や和声などさまざまな角度で分析をする方法を提示する。
実際の楽曲を分析する。
実際の楽曲を演奏し、分析を行う。
簡単な楽曲も創作してみる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

翌週の授業までの１週間に、学生諸君はさまざまな音楽に接するだろう。そういった音楽に積極的に興味をもち、分析してみることをお薦めする。

４．成績評価の方法及び基準

授業内にて、楽曲分析のレポートを提出。それによって評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業計画に記した黒丸の楽譜については各自準備のこと。
授業ではそのほかの多くの楽曲を扱うが、場合によってはポータルの授業資料として配布することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］楽曲分析の基本をさまざまな角度からのアプローチにより知る。 第１回～第５回　分析の基本 第６回～第１０回　変奏の技法から対位法作品の分析へ 第11回～第15回 ソナタ形式
1	分析とは何か ● R.Schumann / Träumereiなど
2	形式とは何か（１） 一部形式などの簡単な形式の楽曲を探し、調べ、そして実際に創作してみる。 ● R. Schumann / Album für die Jugendなど

3	形式とは何か（２） より大きな構造の楽曲を分析するとともに、和声や変奏に対しても興味を持つ。ロンド形式や、ソナタ（ソナチネ）形式も概説。 ● 「ソナチネ・アルバム」。具体的には改めて指示。
4	和声の楽しみ（１） 属和音と主和音の重要性を認識する。 教会旋法についても触れる。 また、実際に楽曲を創作してみる。
5	和声の楽しみ（２） さまざまな種類の和音や転調について知る。 古典的な作品の調の流れを知る。
6	変奏の技法（１） 変奏曲とは？ 変奏の技法を知る。 変奏曲を書いてみる。 ● W.A.Mozart / Zwölf Variationen über das französische Lied "Ah, von dirai-je Mamon" ○ J-B.Arban / The Carnival of Venice, variations

7	変奏の技法（２） Chaconne、Passacagliaといった、変奏を主軸とした楽曲を知り、書いてみる。Pachelbelのカノンも。 ● L.v.Beethoven / "Eroica" variations (op.35)
8	模倣の技法（１） カノンを知り、作ってみる。 ● J.S.Bach / Das Musikalishe Opfer ● J.S.Bach / Invention
9	模倣の技法（２） インヴェンションからフーガへ ● J.S.Bach / Invention そのほか、Bachのさまざまなフーガ
10	対位法の音楽 さまざまなフーガを知る。 Beethoven「大フーガ」、Mendelssohn、Messiaenなど。

11	其方はソナタをご存知か（１） ソナタ形式を、形式、転調法、主題の展開、和声のあらゆる側面から分析し、ソナタ形式の発展の歴史を知る。 HaydnやMozartのソナタ。
12	其方はソナタをご存知か（２） Beethovenのソナタを知る。 ● L.v.Beethoven / Klaviersonate Nr.15 (op.28) ● L.v.Beethoven / "Waldstein" Klaviersonate Nr.21 (op.53) ● L.v. Beethoven / Symphonie Nr.5 (op.67)
13	其方はソナタをご存知か（３） より発展したソナタを分析する。 ○ C.Franck / Violin Sonata ○ F.Liszt / Piano Sonata ○ R.Strauss / Ein Heldenleben
14	ソナタを演奏して分析する（１） 学生の専攻楽器のために書かれたソナタを実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。

15	ソナタを演奏して分析する（２） 学生の専攻楽器のために書かれたソナタを実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。（前回とは異なる学生、楽器）。
授業計画	
	［後期］声楽曲はじめ、さまざまな楽曲の分析を行う。 第１回～第７回 声楽作品 第11回～第14回 より新しい音楽の分析の基本
1	声楽曲には歌詞がある（１） イタリア語やドイツ語の歌曲やアリアを通して、言葉をメロディーにする工夫を探る。 ○ Aria Antiche Italiane 1 (ed. Parisotti)他
2	声楽曲には歌詞がある（２） 日本語の特性をを知り、日本語の歌曲を分析する。

3	オペラを知る（１） 〇 W.A.Mozart / Le Nozze di Figaroより第２幕の分析・その１ アリアと重唱
4	オペラを知る（２） 〇 W.A.Mozart / Le Nozze di Figaro第２幕の分析・その２ レチタティーヴォの技法
5	オペラを知る（3） 〇 W.A.Mozart / Le Nozze di Figaroより第２幕の分析・その3 ヴォーカル・アンサンブルの技法
6	オペラを知る（４） 〇 G.Puccini / La Bohème第３幕より

7	オペラを知る（5） ○ G.Verdi / La Traviata ○ G.Verdi / Falstaff
8	さまざまな作品を演奏して分析する（１） 学生のそれぞれの先行のために書かれたさまざまな作品を実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。
9	さまざまな作品を演奏して分析する（２） 学生のそれぞれの先行のために書かれたさまざまな作品を実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。（前回とは異なる学生）。
10	さまざまな作品を演奏して分析する（３） 学生のそれぞれの先行のために書かれたさまざまな作品を実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。（前回とは異なる学生）。

11	より新しい和声を知る Fauré、Ravel、Bartókなどの作品を通じて。
12	より新しい音楽を知る。 形式や作曲技法について、19世紀の音楽からどのように展開してきたか。Bartók、Stravinskyの作品を中心に。
13	十二音技法の魅力 Schönbergはどのようにして十二音技法に到達したか。
14	現代曲 西洋音楽はどのようにして発展を遂げてきたか。

15	総括

科目名	楽曲分析法 ［水3］久行クラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	IE3080B0	科目コード	IE3080	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（MT・CO除く）			科目分類	共通選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

説得力のある演奏を行うためには入念な演奏プランニングが必須である。そのためには作曲家の意図をしっかり把握する必要があり、楽曲分析が極めて有効な手段となる。この講座では様々な時代の様々な編成・形式による作品を取り上げ、適切な分析をできるノウハウを会得することを目標とする。

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

スコアを読みながら音源を聴き、旋律・和声・形式・楽器法・管弦楽法などあらゆる角度からの分析を試みる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

入手可能なスコアについては事前に用意し、一度は曲全体を視聴しておくこと。可能であれば複数の演奏家による演奏を視聴しておくのが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、提出物等による平常点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

基本的に授業で扱う曲の楽譜は各自用意すること。入手困難なものについてはこちらで用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
1年次に履修することが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	器楽曲の分析に求められるもの ～チャイコフスキー「四季」より「炉端にて」を題材にして～
2	声楽作品の分析に求められるもの ～シューマン「女の愛と生涯」を題材にして～

3	旋律の分析について ハイドン　交響曲101番「時計」より モーツァルト　「クラリネット協奏曲」より ショパン　練習曲　op10-3　より
4	和声分析について ベートーヴェン　ピアノソナタ　op14-2 第２楽章より メンデルスゾーン　「Lieder ohne Worte」より
5	形式分析について 三部形式・ロンド形式で表現できること ブラームス「インテルメッツォ」op117より ブラームス「ヴァイオリンソナタ２番」より
6	形式分析について ソナタ形式とは ～19世紀以前のソナタ形式～ C.F.E.バッハ「チェンバロのためのソナタ」より モーツァルト「ピアノソナタ」k.331より

7	形式分析について ソナタ形式とは ～19世紀以降のソナタ形式～ ベートーヴェン「ヴァイオリンソナタ９番」より ブラームス「交響曲４番」より
8	形式分析について バール形式とは ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルバイデ「パレスチナリート」 ヴァーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より
9	形式分析について 定旋律（カントゥス・フィルムス）とは（１） ペロタン「ヴィデルント・オムネス」 デュファイ「ヌーペル・ロザーヌム」
10	形式分析について 定旋律（カントゥス・フィルムス）とは（２） オケゲム「戦士のミサ」 ジョスカン「フェララ公エルコーレのミサ」

11	形式分析について イソリズムとは マショー「ノートルダーム・ミサ」より メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より
12	形式分析について フーガとは（１） フレスコバルディ「フィオーリ・ムジカーリ」より スヴェーリンク「半音階的幻想曲」
13	形式分析について フーガとは（２） フィッシャー「アリアドネ・ムジカ」より J.S.バッハ「平均律クラヴィア集」より
14	形式分析について フーガとは（３） ベートーヴェン「交響曲第３番」より ベートーヴェン「ピアノソナタ29番」より

15	形式分析について フーガとは（４） ブラームス「チェロソナタ１番」より バルトーク「弦楽器、打楽器、チェレスタのための音楽」より
授業計画	
	［後期］
1	楽曲分析総合演習（１） モーツァルト「ピアノソナタk576」
2	楽曲分析総合演習（２） ベートーヴェン「弦楽四重奏曲」op56-1

3	楽曲分析総合演習（３） パガニーニ「カプリス」より パガニーニ「ヴァイオリン協奏曲１番」より
4	楽曲分析総合演習（４） ヴェーバー「魔弾の射手」より
5	楽曲分析総合演習（５） ロッシーニ「ウイリアム・テル」より
6	楽曲分析総合演習（６） シューベルト「冬の旅」

7	楽曲分析総合演習（７） ベルリオーズ「ファウストの郷罰」より
8	楽曲分析総合演習（８） シューマン「ピアノ四重奏曲」
9	楽曲分析総合演習（９） ショパン「チェロソナタ」
10	楽曲分析総合演習（10） ブラームス「ピアノトリオ１番」

11	楽曲分析総合演習（11）]フォーレ「レクイエム」より デュルフレ「レクイエム」より
12	楽曲分析総合演習（12） ドビュッシー　交響詩「海」より
13	楽曲分析総合演習（13） シェーンベルク「浄夜」 シェーンベルク「ピエロ・リュネール」
14	楽曲分析総合演習（14） ヴェーベルン「３つの歌曲」op.18より ベルク「ヴァイオリン協奏曲」より

15	楽曲分析総合演習（15） バルトーク「２台のピアノと打楽器のためのソナタ」

科目名	音楽教育学演習II ［シラバス用］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XIE141500	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP			科目分類	専門必修		
前提科目	「音楽教育学演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：各自の研究テーマに基づいた修士論文の執筆
目標：修士論文の完成

２．授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、担当教員の個人指導のもとに進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。少ないときで2時間ほど、多いときで総計10時間ほどに及ぶことが想定される。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

基準として、授業（中間発表を含む）の参加態度を成績評価の50%、修士論文の出来を成績評価の50%とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『レポート・論文のまとめ方』新田誠吾 2019 すばる社

その他、各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案

3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定

7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出

11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討

15	前期の総括及び中間発表の準備
授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表

3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成１　序論

7	論文作成２　第1章作成
8	論文作成３　第1章推敲
9	論文作成４　第2章作成
10	論文作成５　第2章推敲

11	論文作成６　第3章作成
12	論文作成７　第3章推敲
13	論文作成８　結論
14	論文の仕上げと見直し

15	論文要旨作成

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究１　［シラバス用］						
代表教員	森　威功	授業コード	XIE263100	科目コード	IE2631	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座では下記の３分野にクラス分けを行い、それぞれ実践的かつ専門性の高い制作技術や知識を学び作品を創作する。
創作制作研究（レッスン）と並びカリキュラムの軸となる講座のため院1年次に必ず履修すること。
・劇伴音楽・ゲーム音楽（担当教員：山下康介）
・ヴォーカル曲・ポップス（担当教員：上倉紀行）
・電子音楽・サウンドデザイン（担当教員：森威功）
また、その成果を他者と共有しディスカッションを繰り返すことによって、院生として研究を進めるために不可欠な分析能力やリサーチ能力、言語化能力、プレゼンテーション能力を総合的に養うことを目標とする。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、感染状況により対面および遠隔授業を適宜判断し実施する。
本講座はゼミ形式で実施するため、各々の研究テーマに沿って創作および文献の調査等を自主的に行い、積極的に授業に参加することが求められる。各回の授業は下記の内容を複合的に組み合わせて実施する。
・担当教員またはゲストによるレクチャー
・学生による研究報告と作品発表
・レコーディング
・グループワーク
詳細については、初回のガイダンスで担当教員に確認すること。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レクチャーで紹介された作品の視聴や研究報告および作品発表の準備などを週3時間程度行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（研究報告や作品発表を含む）：７０％
課題提出：３０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

クラス別に必要に応じて配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
音楽・音響デザインコースの院1年生のみを対象とし、各々コースより指定されたクラスを受講すること。他クラスの聴講や院２年生の聴講は認めない。 また、クラス分けはレッスン配当調査アンケートの回答と入試の成績、面談の内容を加味して決定する。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス：授業の進め方と年間計画の説明など
2	レクチャー：映画音楽の歴史と変遷

3	レクチャー：映画音楽の思想と理念
4	レクチャー：映画音楽の楽曲分析
5	研究報告会（映画音楽）
6	レコーディング実習（録音：映画音楽）

7	レコーディング実習（ミックスダウン：映画音楽）
8	前期中間発表会
9	レクチャー：ゲーム音楽の歴史と変遷
10	レクチャー：ゲーム音楽のスタイルや制作手法の変遷について

11	レクチャー：ゲーム音楽の楽曲分析
12	研究報告（ゲーム音楽）
13	レコーディング実習（録音：ゲーム音楽）
14	レコーディング実習（ミックスダウン：ゲーム音楽）

15	前期作品講評会
授業計画	
	［後期］
1	研究報告会（夏期課題）
2	レクチャー：ヴォーカル曲を中心としたポピュラー音楽の歴史と変遷

3	レクチャー：ポピュラー音楽のスタイルや制作手法の変遷について
4	レクチャー：ポピュラー音楽の楽曲分析
5	研究報告会（ポピュラー音楽）
6	レコーディング実習（録音：ポピュラー音楽）

7	レコーディング実習（ミックスダウン：ポピュラー音楽）
8	後期中間発表会
9	レクチャー：電子音響音楽の歴史と変遷
10	レクチャー：電子音響音楽のスタイルや制作手法の変遷について

11	レクチャー：電子音響音楽の楽曲分析
12	研究報告会（電子音響音楽）
13	レコーディング実習（録音：電子音響音楽）
14	レコーディング実習（ミックスダウン：電子音響音楽）

15	後期作品講評会

科目名	歌曲研究１　［シラバス用］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIE275700	科目コード	IE2757	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究２　［シラバス用］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIE275800	科目コード	IE2758	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・イタリア歌曲の変遷と近代化曲の流れについて ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・L.Denza　歌曲の解釈と演奏研究 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に

3	・A.Catalani　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・R.Leoncavallo　歌曲の解釈と演奏研究 ・　シューベルトの歌曲作品2
5	・G.Puccini　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマンの歌曲作品
6	・P.Mascagni　歌曲の解釈と演奏研究 ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品

7	・U.Giordano　歌曲の解釈と演奏研究 ・ブラームスの歌曲作品
8	・E.De Curtis　歌曲の解釈と演奏研究 ・前半の総括
9	・E.Wolf-Ferrari　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・O.Respighi　歌曲の解釈と演奏研究 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）

11	・I.Pizetti　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・R.Zandonai　歌曲の解釈と演奏研究 ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・A.Casella　歌曲の解釈と演奏研究 ・様々な近代歌曲
14	・P.Cimara　歌曲の解釈と演奏研究 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備

15	・まとめ 授業内実技試験 ・授業内発表 とまとめ
授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲ガイダンス　発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・フォーレの歌曲2 作品研究と演習 1 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

3	・フォーレの歌曲　作品研究と演習２ ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・アーンの歌曲　作品研究と演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習１ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・ドビュッシーの歌曲　作品研究と演習２ ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2

7	・デュパルクの歌曲　作品研究と演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・ショーソンの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・シャブリエの歌曲　作品研究と演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・ラヴェルの歌曲　作品研究と演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

11	・ルーセルの歌曲　作品研究と演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・プーランクの歌曲　作品研究と演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・その他の近代歌曲　作品研究と演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・授業内発表 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習

15	・授業内発表の振り返りと授業のまとめ ・まとめと授業内発表会

科目名	プロフェッショナル特殊研究１　［シラバス用］						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XIE2801A0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾・イタリア式装飾の演奏技法

3	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
4	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～

7	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
8	器楽伴奏法（１）～器楽伴奏におけるピアニストの役割～
9	ピアノ連弾、2台ピアノ作品の作品研究と楽曲分析
10	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～

11	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
12	指導法特別講座 （１）初期指導における教材研究
13	指導法特別講座 （２）幼児からのソルフェージュの流れ、指導法
14	指導法特別講座 （３）演奏の土台となるテクニックの養成

15	指導法特別講座 （４）オンラインレッスンの組み立て方
授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	指導法特別講座 （５）バロック・古典作品の指導の実践～バッハ・ソナチネを中心に～
2	指導法特別講座 （6）ロマン派作品の指導の実践～ピティナコンペ課題曲を中心に～

3	指導法特別講座 （7）近現代作品の指導の実践～邦人作品を中心に～
4	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～
5	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
6	指揮者によるオペラ研究（２）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～

7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～コレペティトールにおける歌唱指導～
8	歌曲伴奏法（２）～歌曲と独奏曲の相違点～
9	器楽伴奏法（２）～コンチェルト伴奏についての研究。オーケストラ版の奏法について～
10	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》

11	近現代作品における奏法研究～ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》～
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性

15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究２　［シラバス用］						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XIE280200	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾・イタリア式装飾の演奏技法

3	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
4	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～

7	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
8	器楽伴奏法（１）～器楽伴奏におけるピアニストの役割～
9	ピアノ連弾、2台ピアノ作品の作品研究と楽曲分析
10	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～

11	ピアノ連弾のアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
12	指導法特別講座 （１）初期指導における教材研究
13	指導法特別講座 （２）幼児からのソルフェージュの流れ、指導法
14	指導法特別講座 （３）演奏の土台となるテクニックの養成

15	指導法特別講座 （４）オンラインレッスンの組み立て方
授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	指導法特別講座 （５）バロック・古典作品の指導の実践～バッハ・ソナチネを中心に～
2	指導法特別講座 （６）ロマン派作品の指導の実践～ピティナコンペ課題曲を中心に～

3	指導法特別講座 （７）近現代作品の指導の実践～邦人作品を中心に～
4	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～音色の研究や表現について～
5	2台ピアノのアンサンブルにおける演奏解釈～和声の考察、バランスのとり方や呼吸について～
6	指揮者によるオペラ研究（２）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～

7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～コレペティトールにおける歌唱指導～
8	歌曲伴奏法（２）～歌曲と独奏曲の相違点～
9	器楽伴奏法（２）～コンチェルト伴奏についての研究。オーケストラ版の奏法について～
10	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》

11	近現代作品における奏法研究～ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》～
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性

15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(PF)						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XIL1110A0	科目コード	IL1110d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

修了後の高度な専門性が求められるピアニストとしての演奏技術、深い学識及び卓越した音楽性を培うことを目標とする。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

習得すべき演奏技術、いかなる状況においても揺るがぬ自己の音楽性を身につけるため、日々錬磨研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおいての取り組み成果による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

其々の状況に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	楽式から音楽表現法を考察し、演奏に効果的な演奏技術を研究する。
2	バロック時代の舞曲から、時代の変遷により発展した楽曲を実践研究。

3	ドイツ起源の宮廷舞曲として採り入れられたアルマンドの形式を、バッハの作品から研究する。
4	フランス起源のクーラントを、バッハのイギリス組曲から考察、基本の3拍子のリズムを研究。
5	スペイン起源のサラバンドの3拍子を、クーラントとの比較研究により実践する。
6	イギリス起源で17世紀にヨーロッパ大陸に広まったジーグの形式を、急速なテンポにおける音質、音色の演奏効果を考察、実践する。

7	フランス起源のガヴォットの2拍子の舞曲を、バッハの作品より研究し、適切な音質と音色の奏法を探る。
8	フランスの民族舞曲から発展したメヌエットを、バッハのフランス組曲から表現方法を研究実践。
9	リュリによって宮廷舞曲に採りこまれたブーレの急速なテンポの2拍子を、明るい音質で奏する技術の探求実践。
10	フランス起源の舞曲パスピエを、指先のタッチの効果的奏法を研究し実践する。

11	シチリア島起源のシチリアーノを取り上げ、遅いテンポの舞曲のフレーズから音の響き方を研究し実践する。
12	スコットランド起源のエコセーズを、ベートーヴェンの作品から研究実践する。
13	ポロネーズのしっかりとしたリズムを、ショパンの作品から研究し、ポロネーズのリズムに適切な音質を探求する。
14	ポーランド舞曲でショパンによって広められたマズルカを、ポロネーズの3拍子と比較し研究実践する。

15	スペイン起源のボレロを取り上げ、繰り返されるリズムから音質や音色の変化による表現法を実践から研究する。
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	イタリア起源のタランテラをリストの作品により激しい曲想の表現、音質を探求する。
2	様々な楽曲の奏法に必要な技術を習得するため、ショパンの練習曲から適切なタッチのあり方を研究実践する。

3	リストの練習曲からヴィルトゥオーソ的な奏法を研究実践する。
4	ドビュッシーの練習曲から、より繊細な音質と音色を研究し、タッチの多様性を探求する。
5	ラフマニノフの絵画的練習曲「音の絵」から、ロシアのピアニズムを研究し、適切な音質と音色を探求し演奏表現の拡大を図る。
6	スクリャービンの練習曲から、テヌート、スタッカート、スラーなど多様なタッチによる表現法の確立を図る。

7	バッハの作品を取り上げ、チェンバロとのタッチの相違、現代でのピアノによる表現法を探求する。
8	バッハの作品から、オルガンとピアノの響き方の比較をし、現代のピアノによる効果的な奏法の研究実践。
9	スカルラッティのソナタを取り上げ、この時代のタッチを研究実践する。
10	ソナタ形式による奏法を探求し、モーツァルトの作品から研究実践する。

11	ベートーヴェンのソナタから、ソナタ形式の発展に伴う奏法の発展を研究実践する。
12	シューベルトのソナタを取り上げ、ベートーヴェンの影響と相違を比較研究、音質と音色の相違について探求実践する。
13	シューマンのソナタを取り上げ、古典派との相違、それに伴う音質、音色の奏法について研究実践。
14	研究演奏会における楽曲の分析から効果的な奏法の研究。

15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(WI)						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XIL1110C0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに収得する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成

3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践研究
5	専門器楽実習（５）無伴奏作品研究
6	専門器楽実習（６）バロック作品研究ヴィヴァルディ

7	専門器楽実習（７）バロック作品研究ヘンデル
8	専門器楽実習（８）バロック作品研究バッハ
9	専門器楽実習（９）古典作品研究ハイドン
10	専門器楽実習（１０）古典作品研究モーツァルト

11	専門器楽実習（１１）古典作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）ロマン派作品研究シューマン
13	専門器楽実習（１３）ロマン派作品研究ブラームス
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究ライネッケ

15	専門器楽実習（１５）ロマン派作品研究ウェーバー
授業計画	
	［後期］
1	専門器楽実習（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー

3	専門器楽実習（３）近代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近代作品研究ラヴェル

7	専門器楽実習（７）近代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン

11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究　平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作品研究　武満徹

15	専門器楽実習（１５）研究演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(SI)						
代表教員	沼田　園子	授業コード	XIL1110D0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、世界に通用する演奏家、教育者になるための高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

担当教員による個人レッスン
そのためには、基本的な奏法の見直しをし、テクニックの向上を図る。音楽的教養を備えるためにも日々研究を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に、自分の演奏に対して客観的にとらえ、奏法研究、表現、分析につとめる。

４．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（１） 単音のスケールの確実な音程の取り方、ポジション移動の極意の研究。
2	３度、６度、８度、１０度など和音のスケールを通して美しい音程の取り方を研究する。

3	ヴィヴラートのかけ方の種類の研究と実践。
4	ボーイングの演習。デタシェ、スピッカート、サルタート等研究。
5	身体の使い方とバランスと音色について実践と研究。
6	ロングトーンを通して身体のバランスと右手の研究と実践。

7	バロック奏法研究。 テレマン12のファンタジー
8	バロック奏法研究。 バッハ無伴奏ソナタNo.1
9	バロック奏法研究。 バッハ無伴奏パルティータNo.3
10	バッハ奏法研究。 無伴奏ソナタNo.1

11	バッハ奏法研究。 パルティータNo. 3
12	バッハ無伴奏奏法研究。 ソナタNo. 2
13	バッハ無伴奏研究。 右手テクニックの分析。
14	無伴奏バッハ奏法研究。 フィンガリングの分析。

15	無伴奏バッハ研究を通してバロック奏法を学ぶ。
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）・修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	モーツァルト協奏曲No.3の楽曲分析。
2	モーツァルト協奏曲No.3ボーイングとフィンガリングの研究。

3	モーツァルト協奏曲No.4 楽曲分析。
4	モーツァルト協奏曲No.4ボーイングとフィンガリング研究。
5	モーツァルト協奏曲No.5楽曲分析。
6	モーツァルト協奏曲No.5.ボーイングとフィンガリング研究。

7	モーツァルトソナタ分析と奏法研究。
8	モーツァルトソナタのピアノを学ぶ。
9	ベートーベンソナタNo.1楽曲分析。
10	ベートーベンソナタNo.1ボーイングとフィンガリング。

11	ベートーベンソナタNo.3楽曲分析。
12	ベートーベンソナタNo.3ボーイングとフィンガリング研究。
13	ベートーベンソナタNo.5楽曲分析。
14	ベートーベンソナタNo.５ボーイングとフィンガリング研究。

15	メンデルスゾーン協奏曲楽曲分析。

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(PI)						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XIL1110E0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI			科目分類	専門必修		
前提科目	専門器楽実習Ⅰは専門器楽実習Ⅱとリンクさせることを前提に履修することが望ましい。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

大学院として学部レベルと比較して、演奏技術のさらなる向上を目指す。同時に、楽器と演奏する作品に対するより深い知識と理解力を身につけ、それを自身が音楽を表現するツールとしていく。
将来的に音楽が社会でどんな役割を担うことが出来るかということも常に意識し、考察する。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること。
レッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。
取り組む作品のアナリーゼを行い、作品や作曲者に関連した文献などがある場合は
それらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

講座、課題に取り組む姿勢と、それによる成果のレベルを考慮し評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修条件は特になし。原則として履修生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	［前期］ 概ね下記の流れで進むが、それに加えて複数の教員が担当教員となる個人レッスンのため、各履修者の技量に応じ、各担当教員それぞれの方法で演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	演奏楽器の発音法を研究する。身体の使い方、ストロークなどを変えることで、出る音がどう変化するかを検証。
2	演奏楽器によって出せる音のダイナミックスの検証。 大きい音、小さい音を出すのにどういう発音法と力の使い方が必要かを考える。

3	呼吸について。身体の動きに伴う呼吸法を検証。 身体の動き、呼吸法を的確に使うことによって出せる音と多彩な音色を検証、確認する。
4	リズム、ビートについて考える。
5	音、それに対する間について考える。
6	演奏楽器の奏法、テクニックについての検証。

7	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
8	楽曲についての学習。アナリーゼ。
9	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
10	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。

11	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
12	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
13	履修者が考える楽曲の取り組み方について効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
14	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。

15	前期レッスンの統括。後期レッスンに繋げる。

授業計画

［後期］
前期授業計画に準ずるが、前期での学習をふまえ、より高度なレッスン内容としていくことを目指す。

1	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
2	楽曲についての学習。アナリーゼ。

3	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
4	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
5	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
6	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。

7	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める
8	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
9	次の楽曲に取り組む。より難易度の高い作品を取り上げる。ここであらためて体の使い方、呼吸方などを検証。楽曲を読み、曲に対するイメージを広げる。
10	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。

11	楽曲を演奏する為に必要な奏法とテクニックの検証。
12	楽曲を演奏し、表現する為の効果的な音色や音質を検証。
13	楽曲構築の研究。
14	取り組む楽曲の現時点での完成を目指す。

15	後期レッスンの統括、また、年間を通した学習内容の再確認と反省。次のステップについてのディスカッション。

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(E0)						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XIL1110F0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性を習得することを目指す。

2．授業概要

研究演奏会での演奏のための選曲、分析、演奏解釈、表現テクニックを学ぶ。
担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

積極的な予習、復習を望む。

４．成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習(1)　アレンジ曲を選曲
2	専門器楽実習(2)　アレンジ曲の選曲と分析

3	専門器楽実習(3)　曲の時代背景、スタイル研究　読譜の確認
4	専門器楽実習(4)　曲の時代背景、スタイル研究　表現の工夫
5	専門器楽実習(5)　曲のハーモニー分析　和音からフレーズの仕組みを考える。
6	専門器楽実習(6)　曲のハーモニー分析　曲全体の流れをつかむ。

7	専門器楽実習(7)　曲のアレンジ実習　スコアリーディングをおこなう。
8	専門器楽実習(8)　曲のアレンジ実習　スコアをリダクションする。楽譜の確認。
9	専門器楽実習(9)　曲のアレンジ実習　確認
10	専門器楽実習(10)　レジストレーション研究　曲に合った音色を選択

11	専門器楽実習(11)　レジストレーション研究　音色の組み合わせについて
12	専門器楽実習(12)　演奏解釈並びに表現テクニック研究 アーティキュレーションの確認
13	専門器楽実習(13)　演奏解釈並びに表現テクニック研究 表現の工夫
14	専門器楽実習(14)　1曲を通しての音楽のまとめ方

15	まとめの演奏
授業計画	
	前期授業計画に準ずる。年度末に実施される研究演奏会に向けて、指導を行う。
1	専門器楽実習(1)　コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究
2	専門器楽実習(2)　コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究　時代背景、形式から

3	専門器楽実習(3)　アレンジ研究並びにレジストレーション研究　ハーモニーの確認
4	専門器楽実習(4)　アレンジ研究並びにレジストレーション研究　フレーズと音色の関係を考える
5	専門器楽実習(5)　楽曲分析と演奏法研究
6	専門器楽実習(6)　楽曲分析と演奏法研究　表現の工夫

7	専門器楽実習(7)　アーティキュレーション並びにフレーズ研究
8	専門器楽実習(8)　アーティキュレーション並びにフレーズ研究　フレーズに合った表現の工夫
9	専門器楽実習(9)　演奏解釈と表現方法についての研究 曲全体から考える、それぞれのフレーズの表現
10	専門器楽実習(10)　演応解釈と表現テクニックについての研究　表現の掘り下げ

11	専門器楽実習(11)　音色と演奏テクニックの関連性についての研究　確認
12	専門器楽実習(12)　音色と演奏テクニックの関連性についての研究　表現並びにメカニックな指の動きの工夫
13	専門器楽実習(13)　それぞれ曲を通してのまとめ方研究
14	専門器楽実習(14)　曲を通して演奏する時の表現研究 仕上げの演奏

15	専門器楽実習(15)　演奏会のための通しリハーサルとまとめ

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(WA)						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	XIL1110G0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏の音楽性を磨き上げていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏能力を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2．授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を５回で１クールとして、1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断に基づき、指導を進めていく。
（・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%）
但し、成績評価は学年末実技試験の採点結果が全て（100%）である。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「専門器楽実習Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品演奏研究実践、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究

3	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 導入編～演奏に向けての概説

7	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 研究成果発表と講評

11	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服

15	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評
授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品演奏研究実践、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究

3	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 ／ 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 ／ 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 ／ 研究成果発表と講評
6	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 ／ 導入編～演奏に向けての概説

7	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評

11	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服

15	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(PF)						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XIL1115A0	科目コード	IL1115d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF			科目分類	専門必修		
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

1年次において習得した演奏技術と音楽性の発展を目指し、修了後にピアニストとして活躍すべく自己の演奏表現の確立をする。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

修了後の演奏活動に向けての準備、リサイタルを開催する際のプログラムのレパートリーを錬磨研究する。

４．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の状況に応じて担当教員より指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	1年を通して時代の変遷により発展を遂げた奏法の変化を研究実践するための計画の立案。
2	バロック時代の楽曲形式を研究し、チェンバロとの音質、音色の違いを比較、現代の奏法に活かすタッチの研究実践。

3	変奏曲の形式の発展を研究、それに伴う楽器、奏法の発展も実践研究する。
4	即興的な形式の研究。バッハのトッカータとフーガ　二短調を実践し研究する。
5	バロック時代のソナタと古典派のソナタの比較研究。時代の変遷による鍵盤楽器の表現法の拡大を、実践により研究する。
6	古典派とロマン派のソナタを比較し、楽器の変遷による奏法の比較、それに伴う表現法の拡大。

7	ロマン派と20世紀のソナタの比較研究。形式の発展から見る演奏表現の¡可能性を実践から研究する。
8	作曲家の民族性から見える特色の研究。
9	バロック時代のイタリアにおける作曲家の特徴。併せてチェンバロガ持つ特色も研究する。
10	バロック音楽の協奏様式、通奏低音の研究実践。

11	バロック音楽の重要な作曲家の一人であるヘンデルのソナタの研究。バッハの作品との比較によりバロック時代の音楽性を探求する。
12	チェンバロ、オルガン、ピアノを実際に演奏し、タッチの違い響きの違いを実践研究し、表現法の創作意識を高める。
13	バロック音楽と古典派の音楽の旋律法、和声の比較研究。
14	絶対音楽と標題音楽の研究。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品から実践し探求する。

15	ロマン派の作曲様式、作曲技法の特徴を研究する。ダイナミックスの変化がもたらす演奏効果を考察実践する。
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ロマン派の作曲家ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームスを取り上げ、鍵盤楽曲以外の作品とピアノ曲の比較研究をし、表現の拡大を図る。
2	サン=サーンス、フォーレ、ドビュッシーの作品から、フランスの作曲家の特徴を考察し、ドイツ音楽との比較から音質、音色の相違を研究する。

3	ムソルグスキー、バラキレフ、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフの作品を通して、ロシアの民族的な色彩の表現法の実践研究。
4	アルベニス、グラナドスの作品をから、スペイン音楽と他国の音楽の比較研究。独特のリズム感やハーモニーから奏法の多様性を実践研究する。
5	キャラクターピースにおける表現の創意性の探求。
6	20世紀の音楽における発展の研究。旋律、和声、調性、リズム、形式から見える複雑化を考察し、その奏法、表現法を探る。

7	修了演奏会における楽曲の分析、奏法解釈から、自身の効果的な表現法を研究実践する。
8	修了演奏会における楽曲の副論文作成により、考察した結論を演奏に活かすための奏法研究の実践。
9	自身のレパートリーとなるコンチェルトの奏法研究。独奏とコンチェルトの奏法の比較から効果的な奏法を探求する。
10	オーケストラスコアから見るソリストとしての奏法研究。オーケストラとのアンサンブルからソリストとしての音質、音色、表現法について探求する。

11	声楽曲から見るピアノ独奏曲の実践。リストの編曲作品を取り上げ、歌曲を奏でる声を音によって表現する奏法研究。
12	ピアノ独奏によるベートーヴェン交響曲の奏法研究。 リストの編曲作品から、オーケストラの表現法の研究をとおして、多様な音質、音色の表現を習得する。
13	音楽的な演奏の原理の追求。フレージング、リズム、拍子、音質、音色、2年間の研究を通して培った演奏技術を確立する。
14	ペダリングの演奏効果についての実践研究。ペダリングによる表現の可能性をバロック音楽から現代音楽までを比較実践し、演奏表現の拡大を探求する。

15	2年間の研究成果を試演会の発表を通して、自己の音楽性、演奏技術を確立する。

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(WI)						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XIL1115C0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI			科目分類	専門必修		
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに収得する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成

3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践
5	専門器楽実習（５）コンクール用無伴奏曲実践
6	専門器楽実習（６）コンクール課題曲選定

7	専門器楽実習（７）バロックソナタ作品研究バッハ
8	専門器楽実習（８）バロック協奏曲作品研究ヴィヴァルディ
9	専門器楽実習（９）古典派ソナタ作品研究モーツァルト
10	専門器楽実習（１０）古典派協奏曲作品研究モーツァルト

11	専門器楽実習（１１）古典派ソナタ作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）古典派協奏曲作品研究シュターミッツ
13	専門器楽実習（１３）古典派ソナタ作品研究ウェーバー
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究シューマン

15	専門器楽実習（１５）ロマン派ソナタ作品研究ブラームス
授業計画	
	［後期］
1	専門器楽実習（１） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー

3	専門器楽実習（３）近現代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近現代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近現代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近現代作品研究ラヴェル

7	専門器楽実習（７）近現代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン

11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究　平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作曲家作品研究　武満徹

15	専門器楽実習（１５）修了演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(SI)						
代表教員	沼田　園子	授業コード	XIL1115D0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI			科目分類	専門必修		
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること

４．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	速いスピードでスケールを正確に弾けるための奏法研究
2	パガニーニ奇想曲No.24奏法研究・楽曲分析

3	パガニーニ奇想曲No.24ボーイングとフィンがリング研究
4	パガニーニ奇想曲No.９、１１、１６奏法研究・楽曲分析
5	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタ楽曲分析
6	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタボーイングとフィンガリング

7	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo.2楽曲分析
8	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo.2ボーイングとフィンガリング
9	メンデルスゾーン協奏曲のボーイングとフィンガリング
10	メンデルスゾーン協奏曲表現研究とテクニックの分析

11	サン=サーンス協奏曲研究 楽曲分析
12	サン=サーンス協奏曲研究 ボーイングとフィンガリング
13	サン=サーンス協奏曲研究 表現とテクニックについて
14	フランク ソナタ研究 楽曲分析

15	フランク ソナタ研究 ボーイング、フィンガリング、テクニック分析
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）、修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ベートーベン ソナタNo.7研究楽曲分析
2	ベートーベン ソナタNo.7研究ボーイング フィンガリング

3	ベートーベン ソナタNo.9研究 楽曲分析
4	ベートーベン ソナタNo.9研究 ボーイング、フィンガリング
5	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 楽曲分析
6	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 ボーイング、フィンガリング

7	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章楽曲分析
8	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
9	ブラームス協奏曲 1楽章 楽曲分析
10	ブラームス協奏曲1楽章 ボーイング、フィンガリング

11	プラームス協奏曲2.3楽章 楽曲分析
12	プラームス協奏曲2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
13	プラームス ソナタ楽曲分析
14	プラームス ソナタ、ボーイング、フィンガリング

15	プラームス ソナタ 表現研究

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(PI)						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XIL1115E0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI			科目分類	専門必修		
前提科目	専門器楽実習Ⅰは専門器楽実習Ⅱとリンクさせることを前提に履修することが望ましい。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

大学院として学部レベルと比較して、演奏技術のさらなる向上を目指す。同時に、楽器と演奏する作品に対するより深い知識と理解力を身につけ、それを自身が音楽を表現するツールとしていく。
将来的に音楽が社会でどんな役割を担うことが出来るかということも常に意識し、考察する。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること。
レッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。
取り組む作品のアナリーゼを行い、作品や作曲者に関連した文献などがある場合は
それらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

講座、課題に対する取り組み姿勢と、それによる成果のレベルを考慮し評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修条件は特になし。クラス分けは、原則として履修生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	［前期］ 概ね下記の流れで進むが、それに加えて複数の教員が担当教員となる個人レッスンのため、各履修者の技量に応じ、各担当教員それぞれの方法で演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	演奏楽器の発音法を研究する。身体の使い方、ストロークなどを変えることで、出る音がどう変化するかを検証。
2	演奏楽器によって出せる音のダイナミックスの検証。 大きい音、小さい音を出すのにどういう発音方と力の使い方が必要かを考える。

3	呼吸について。身体の動きに伴う呼吸法を検証。 身体の動き、呼吸法を的確に使うことによって出せる音と多彩な音色を検証、確認する。
4	リズム、ビートについて考える。
5	音、それに対する間について考える。
6	演奏楽器の奏法、テクニックについての検証。

7	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
8	楽曲についての学習。アナリーゼ。
9	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
10	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。

11	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
12	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
13	履修者が考える楽曲の取り組み方について効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
14	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。

15	前期レッスンの統括。後期レッスンに繋げる。
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、前期での学習をふまえ、より高度なレッスン内容としていくことを目指す。
1	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
2	楽曲についての学習。アナリーゼ。

3	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
4	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
5	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
6	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。

7	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める
8	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
9	次の楽曲に取り組む。より難易度の高い作品を取り上げる。ここであらためて身体の使い方、呼吸方などを検証。楽曲を読み、曲に対するイメージを広げる。
10	履修者が考える楽曲の取り組み方について効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。

11	楽曲を演奏するのに必要な奏法とテクニックの検証。
12	楽曲を演奏し、表現するのに効果的な音色や音質を検証。
13	楽曲構築の研究。
14	取り組む楽曲の現時点での完成を目指す。

15	後期レッスンの統括、また、年間を通した学習内容の再確認と反省。次のステップについてのディスカッション。

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(E0)						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XIL1115F0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0			科目分類	専門必修		
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性を習得することを目指す。

2．授業概要

修了演奏会での演奏のための選曲、分析、演奏解釈、表現テクニックを学ぶ。
担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

積極的な予習、復習を望む。

４．成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習(1)　アレンジ曲を選曲
2	専門器楽実習(2)　アレンジ曲の選曲と分析

3	専門器楽実習(3)　曲の時代背景、スタイル研究　読譜の確認
4	専門器楽実習(4)　曲の時代背景、スタイル研究　表現の工夫
5	専門器楽実習(5)　曲のハーモニー分析　和音からフレーズの仕組みを考える。
6	専門器楽実習(6)　曲のハーモニー分析　曲全体の流れをつかむ。

7	専門器楽実習(7)　曲のアレンジ実習　スコアリーディングをおこなう。
8	専門器楽実習(8)　曲のアレンジ実習　スコアをリダクションする。楽譜の確認。
9	専門器楽実習(9)　曲のアレンジ実習　確認
10	専門器楽実習(10)　レジストレーション研究　曲に合った音色を選択

11	専門器楽実習(11)　レジストレーション研究　音色の組み合わせについて
12	専門器楽実習(12)　演奏解釈並びに表現テクニック研究 アーティキュレーションの確認
13	専門器楽実習(13)　演奏解釈並びに表現テクニック研究 表現の工夫
14	専門器楽実習(14)　1曲を通しての音楽のまとめ方

15	まとめの演奏
授業計画	
	前期授業計画に準ずる。年度末に実施される修了演奏会に向けて、指導を行う。
1	専門器楽実習(1)　コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究
2	専門器楽実習(2)　コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究　時代背景、形式から

3	専門器楽実習(3)　アレンジ研究並びにレジストレーション研究　ハーモニーの確認
4	専門器楽実習(4)　アレンジ研究並びにレジストレーション研究　フレーズと音色の関係を考える
5	専門器楽実習(5)　楽曲分析と演奏法研究
6	専門器楽実習(6)　楽曲分析と演奏法研究　表現の工夫

7	専門器楽実習(7)　アーティキュレーション並びにフレーズ研究
8	専門器楽実習(8)　アーティキュレーション並びにフレーズ研究　フレーズに合った表現の工夫
9	専門器楽実習(9)　演奏解釈と表現方法についての研究 曲全体から考える、それぞれのフレーズの表現
10	専門器楽実習(10)　演応解釈と表現テクニックについての研究　表現の掘り下げ

11	専門器楽実習(11)　音色と演奏テクニックの関連性についての研究　確認
12	専門器楽実習(12)　音色と演奏テクニックの関連性についての研究　表現並びにメカニックな指の動きの工夫
13	専門器楽実習(13)　それぞれ曲を通してのまとめ方研究
14	専門器楽実習(14)　曲を通して演奏する時の表現研究 仕上げの演奏

15	専門器楽実習(15)　演奏会のための通しリハーサルとまとめ

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(WA)						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	XIL1115G0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA			科目分類	専門必修		
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位取得を前提としている。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏の音楽性を更に高度に磨き上げていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏能力を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2．授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を５回で１クールとして、1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。
その他、今年度については、オンデマンド型の課題への対応も重要な学習となる。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断に基づき、指導を進めていく。
（・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%）
但し、成績評価は学年末実技試験の採点結果が全て（100%）である。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。
参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
大学院修士課程２年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。１年目の「器楽演奏実習Ｉ」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品演奏研究実践、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究

3	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
6	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説

7	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評

11	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服

15	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品演奏研究実践、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究

3	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
6	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説

7	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し 「和のいろは」コンサート曲レッスン4
9	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評

11	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服

15	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 ／ 研究成果発表と講評

科目名	演奏法研究Ⅰ　(PF)						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XIL1170A0	科目コード	IL1170d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

修了後の高度な専門性が求められるピアニストとしての演奏技術、深い学識及び卓越した音楽性を培うことを目標とする。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

習得すべき演奏技術、いかなる状況においても揺るがぬ自己の音楽性を身につけるため、日々錬磨研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおいての取り組み成果による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

其々の状況に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	楽式から音楽表現法を考察し、演奏に効果的な演奏技術を研究する。
2	バロック時代の舞曲から、時代の変遷により発展した楽曲を実践研究。

3	ドイツ起源の宮廷舞曲として採り入れられたアルマンドの形式を、バッハの作品から研究する。
4	フランス起源のクーラントを、バッハのイギリス組曲から考察、基本の3拍子のリズムを研究。
5	スペイン起源のサラバンドの3拍子を、クーラントとの比較研究により実践する。
6	イギリス起源で17世紀にヨーロッパ大陸に広まったジーグの形式を、急速なテンポにおける音質、音色の演奏効果を考察、実践する。

7	フランス起源のガヴォットの2拍子の舞曲を、バッハの作品より研究し、適切な音質と音色の奏法を探る。
8	フランスの民族舞曲から発展したメヌエットを、バッハのフランス組曲から表現方法を研究実践。
9	リュリによって宮廷舞曲に採りこまれたブーレの急速なテンポの2拍子を、明るい音質で奏する技術の探求実践。
10	フランス起源の舞曲パスピエを、指先のタッチの効果的奏法を研究し実践する。

11	シチリア島起源のシチリアーノを取り上げ、遅いテンポの舞曲のフレーズから音の響き方を研究し実践する。
12	スコットランド起源のエコセーズを、ベートーヴェンの作品から研究実践する。
13	ポロネーズのしっかりとしたリズムを、ショパンの作品から研究し、ポロネーズのリズムに適切な音質を探求する。
14	ポーランド舞曲でショパンによって広められたマズルカを、ポロネーズの3拍子と比較し研究実践する。

15	スペイン起源のボレロを取り上げ、繰り返されるリズムから音質や音色の変化による表現法を実践から研究する。
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	イタリア起源のタランテラをリストの作品により激しい曲想の表現、音質を探求する。
2	様々な楽曲の奏法に必要な技術を習得するため、ショパンの練習曲から適切なタッチのあり方を研究実践する。

3	リストの練習曲からヴィルトゥオーソ的な奏法を研究実践する。
4	ドビュッシーの練習曲から、より繊細な音質と音色を研究し、タッチの多様性を探求する。
5	ラフマニノフの絵画的練習曲「音の絵」から、ロシアのピアニズムを研究し、適切な音質と音色を探求し演奏表現の拡大を図る。
6	スクリャービンの練習曲から、テヌート、スタッカート、スラーなど多様なタッチによる表現法の確立を図る。

7	バッハの作品を取り上げ、チェンバロとのタッチの相違、現代でのピアノによる表現法を探求する。
8	バッハの作品から、オルガンとピアノの響き方の比較をし、現代のピアノによる効果的な奏法の研究実践。
9	スカルラッティのソナタを取り上げ、この時代のタッチを研究実践する。
10	ソナタ形式による奏法を探求し、モーツァルトの作品から研究実践する。

11	ベートーヴェンのソナタから、ソナタ形式の発展に伴う奏法の発展を研究実践する。
12	シューベルトのソナタを取り上げ、ベートーヴェンの影響と相違を比較研究、音質と音色の相違について探求実践する。
13	シューマンのソナタを取り上げ、古典派との相違、それに伴う音質、音色の奏法について研究実践。
14	研究演奏会における楽曲の分析から効果的な奏法の研究。

15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	演奏法研究Ⅰ　(WI)						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XIL1170C0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに収得する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成

3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践研究
5	専門器楽実習（５）無伴奏作品研究
6	専門器楽実習（６）バロック作品研究ヴィヴァルディ

7	専門器楽実習（７）バロック作品研究ヘンデル
8	専門器楽実習（８）バロック作品研究バッハ
9	専門器楽実習（９）古典作品研究ハイドン
10	専門器楽実習（１０）古典作品研究モーツァルト

11	専門器楽実習（１１）古典作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）ロマン派作品研究シューマン
13	専門器楽実習（１３）ロマン派作品研究ブラームス
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究ライネッケ

15	専門器楽実習（１５）ロマン派作品研究ウェーバー
授業計画	
	［後期］
1	専門器楽実習（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー

3	専門器楽実習（３）近代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近代作品研究ラヴェル

7	専門器楽実習（７）近代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン

11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究　平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作品研究　武満徹

15	専門器楽実習（１５）研究演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅰ　(SI)						
代表教員	沼田　園子	授業コード	XIL1170D0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、世界に通用する演奏家、教育者になるための高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

担当教員による個人レッスン
そのためには、基本的な奏法の見直しをし、テクニックの向上を図る。音楽的教養を備えるためにも日々研究を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に、自分の演奏に対して客観的にとらえ、奏法研究、表現、分析につとめる。

４．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（１） 単音のスケールの確実な音程の取り方、ポジション移動の極意の研究。
2	３度、６度、８度、１０度など和音のスケールを通して美しい音程の取り方を研究する。

3	ヴィヴラートのかけ方の種類の研究と実践。
4	ボーイングの演習。デタシェ、スピッカート、サルタート等研究。
5	身体の使い方とバランスと音色について実践と研究
6	ロングトーンを通して身体のバランスと右手の研究と実践。

7	バロック奏法研究。 テレマン12のファンタジー
8	バロック奏法研究。 バッハ無伴奏ソナタNo.1
9	バロック奏法研究。 バッハ無伴奏パルティータNo.3
10	バッハ奏法研究。 無伴奏ソナタNo.1

11	バッハ奏法研究。 パルティータNo. 3
12	バッハ無伴奏奏法研究。 ソナタNo. 2
13	バッハ無伴奏研究。 右手テクニックの分析。
14	無伴奏バッハ奏法研究。 フィンガリングの分析。

15	無伴奏バッハ研究を通してバロック奏法を学ぶ。
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）・修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	モーツァルト協奏曲No.3の楽曲分析。
2	モーツァルト協奏曲No.3ボーイングとフィンガリングの研究。

3	モーツァルト協奏曲No.4 楽曲分析。
4	モーツァルト協奏曲No.4ボーイングとフィンガリング研究。
5	モーツァルト協奏曲No.5楽曲分析。
6	モーツァルト協奏曲No.5.ボーイングとフィンガリング研究。

7	モーツァルトソナタ分析と奏法研究。
8	モーツァルトソナタのピアノを学ぶ。
9	ベートーベンソナタNo.1楽曲分析。
10	ベートーベンソナタNo.1ボーイングとフィンガリング。

11	ベートーベンソナタNo.3楽曲分析。
12	ベートーベンソナタNo.3ボーイングとフィンガリング研究。
13	ベートーベンソナタNo.5楽曲分析。
14	ベートーベンソナタNo.5ボーイングとフィンガリング研究。

15	メンデルスゾーン協奏曲楽曲分析。

科目名	演奏法研究Ⅰ　(PI)						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XIL1170E0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI			科目分類	専門必修		
前提科目	演奏法研究Ⅰ、Ⅱはそれぞれをリンクさせて取り組むことが望ましい。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽器を演奏する上での基礎を固め、そこからより高度なテクニックを身につけていく中で、
多彩な音色、リズム、ビートについての考察、表現することなどについて深く研究する。
その学習の先に、院を修了後、社会に出てからどのような形で音楽と社会を結んでいくことが
出来るかという点も常に考えて各々の研究を進めていくことが望まれる。

年度末の研究演奏会での発表を大きな目標とし、そこに結びつくよう
考えて年間の授業を進めていく。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること。
レッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。
取り組む作品のアナリーゼを行い、作品や作曲者に関連した文献などがある場合は
それらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏により評価する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修条件は特になし。クラス分けは、原則として受講生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	［前期］ 概ね下記のような流れで進むことになるが、複数担当教員による個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべくそれぞれの方法を交えて受講生と相談しながら個人指導にあたる。
1	前期授業についてのガイダンス。後期の研究演奏会で発表するプログラムを何にするかの相談を交えつつ、前期に取り組む作品をおおよそ決定する。受講生が取り組むべき基礎課題についても相談、確認する。
2	演奏楽器を演奏する上での姿勢について、発音するのに必要なストローク、身体の使い方などを実践を交えて研究と確認をする。

3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながら アナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうかに重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。

7	取り組む作品の、この時点での一つの完成を目指す。 演奏会で取り上げられるレベルの演奏が出来るようになっているか、あらためて細部を確認する。
8	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や身体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認。年度始めのレッスンから成長したところ、より改善が必要なところを認識し、この先のレッスンにつなげていく。
9	次の作品への取り組み。基礎を大切にしながら、より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。
10	取り組む作品が楽譜となっている場合、楽譜上に記載されていることを大切にしつつ、あえて違ったアプローチの可能性があるか、など、既成概念にとらわれずに作品と向き合う時間を持つ。実践を交えながら、受講生と担当教員間でのアイデアの交換、ディスカッションを中心にレッスンを進める。

11	あらためて取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行ったアプローチが有効であるかどうかを検証する。 作品と取り組み始めた当初よりも広い視野で作品を捉えていく。
12	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
13	前期にこれまで取り組んで来た作品とは違ったテイストの小品を学習する。作品に応じた演奏楽器の音色を探す。
14	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。小品ならではの表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。

15	前期レッスンの統括。その上で後期研究演奏会のプログラムについて再考し、後期のレッスンに繋げる。
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会に向けて重点を置き個人指導にあたる。
1	後期授業についてのガイダンス。研究演奏会で発表するプログラムを何にするかを相談、決定し、それを前提として後期レッスンの進め方を相談する。
2	前期レッスンで学習したことを復習する。基礎の確認と表現についての再考など。

3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながら アナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうかに重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。

7	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や身体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認し、作品演奏に反映させられているかを検証。
8	より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。既成概念にとらわれるだけにとどまらない自由な発想を持って作品と向かい合う方法を相談、考える。
9	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
10	次の作品への取り組み。担当教員の指導を形にするだけではなく、受講生が自分で考え、自分の演奏とそこから生まれる音、音楽を体感する、という方向性を強めていく。

11	取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行った自分で考えたアプローチが有効であるかどうかを検証する。 一層広い視野で作品を捉えていく方法を相談、研究する。
12	表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。１曲を演奏する上での構築を相談、研究する。
13	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。 研究演奏会での演奏を前提に、演奏会場の広さ、響きなども想定した演奏を目指す。
14	研究演奏会で演奏するにあたって、ステージ上での立ち振る舞い、演奏曲間の気持ちの切り替え、集中力の保ち方と緩め方など、演奏するという以外の部分について考察する。

15	研究演奏会プログラムの最終確認。 後期レッスンの統括。

科目名	演奏法研究Ⅰ　(E0)						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XIL1170F0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専門器楽実習と関連性を持たせつつ、修士論文のテーマを決定し、その研究を担当教員指導のもと、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2．授業概要

研究演奏会での演奏のための選曲、分析、演奏解釈、表現テクニックを学ぶ。
担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

継続的な研究、練習を望む。

４．成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏により評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
積極的にレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	個人レッスンの、各個人の技量に応じ、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すると同時に、アレンジやオリジナル作品等の指導も行う。
1	演奏法研究(1)　レパートリー選曲
2	演奏法研究(2)　バロック演奏法研究　様式を中心に

3	演奏法研究(3)　バロック演奏法研究　形式、和声を学ぶ
4	演奏法研究(4)　パイプオルガン演奏法研究と応用　フィンガリングを中心に
5	演奏法研究(5)　パイプオルガン演奏法研究と応用　ペダル奏法を学ぶ
6	演奏法研究(6)　アーティキュレーション研究　レガート奏法を学ぶ。

7	演奏法研究(7)　アーティキュレーション研究　スタッカート、テヌートなどを学ぶ。
8	演奏法研究(8)　レジストレーション研究　音色を生かした奏法を研究する。
9	演奏法研究(9)　レジストレーション研究、エディット研究　木管楽器の音色を作る。
10	演奏法研究(10)　レジストレーション研究、エディット研究　金管楽器の音色を作る。

11	演奏法研究(11)　レジストレーション研究、エディット研究　ストリングスの音色を作る。
12	演奏法研究(12)　フレーズの表現についての研究 フレーズの解釈からの表現方法
13	演奏法研究(13)　フレーズの表現についての研究 ペダル鍵盤のよるフレーズの表現の仕方。
14	演奏法研究(14)　曲のまとめと解釈について　表現の工夫

15	演奏法研究(15)　曲のまとめと解釈について　演奏の確認
授業計画	
	前期授業計画に準ずる。研究演奏会に向けての指導も積極的 に行われる。
1	演奏法研究(1)　ロマン派の音楽について　選曲
2	演奏法研究(2)　ロマン派の音楽のレジストレーション研究　アナリーゼから音色を工夫する。

3	演奏法研究(3)　ロマン派の音楽とレジストレーション研究　奏法を中心に
4	演奏法研究(4)　ロマン派のレパートリー　音色と演奏法の関係性について　時代背景や様式から考える。
5	演奏法研究(5)　ロマン派のレパートリー　音色と演奏法の関係性について　形式、和声から分析する。
6	演奏法研究(6)　近現代のレパートリー選曲

7	演奏法研究(7)　近現代作品のスタイル研究　様式や時代背景から学ぶ。
8	演奏法研究(8)　近現代作品スタイル研究　形式や和声から考える。
9	演奏法研究(9)　近現代作品の演奏表現についての研究 表現法、音色を考える。
10	演奏法研究(10)　近現代作品の演奏表現についての研究 表現の工夫

11	演奏法研究(11)　近現代作品のフレーズ研究と表現 表現を掘り下げ。
12	演奏法研究(12)研究演奏会用楽曲のアナリーゼと解釈について
13	演奏法研究(13)研究演奏会用楽曲の音色研究
14	演奏法研究(14)研究演奏会用楽曲のフレーズの表現並びにアーティキュレーションの研究

15	演奏法研究(15)研究演奏会用楽曲の全体を通しての演奏によるリハーサル

科目名	演奏法研究Ⅰ　(WA)						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	XIL1170G0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA			科目分類	専門必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏法（技術面）を鍛えていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏技法を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を５回で１クールとして、1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断に基づき、指導を進めていく。
（・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%）
但し、成績評価は学年末実技試験の採点結果が全て（100%）である。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

参考文献 ：
日本楽器法（音楽之友社刊 / 三木稔著）
図解 日本音楽史（東京堂出版刊 / 田中健次著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「演奏法研究Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究

3	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説

7	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 研究成果発表と講評

11	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服

15	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究

3	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
6	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説

7	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

11	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服

15	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

科目名	演奏法研究Ⅱ　(PF)						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XIL1175A0	科目コード	IL1175d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF			科目分類	専門必修		
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

1年次において習得した演奏技術と音楽性の発展を目指し、修了後にピアニストとして活躍すべく自己の演奏表現の確立をする。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

修了後の演奏活動に向けての準備、リサイタルを開催する際のプログラムのレパートリーを錬磨研究する。

４．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の状況に応じて担当教員より指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	1年を通して時代の変遷により発展を遂げた奏法の変化を研究実践するための計画の立案。
2	バロック時代の楽曲形式を研究し、チェンバロとの音質、音色の違いを比較、現代の奏法に活かすタッチの研究実践。

3	変奏曲の形式の発展を研究、それに伴う楽器、奏法の発展も実践研究する。
4	即興的な形式の研究。バッハのトッカータとフーガ　二短調を実践し研究する。
5	バロック時代のソナタと古典派のソナタの比較研究。時代の変遷による鍵盤楽器の表現法の拡大を、実践により研究する。
6	古典派とロマン派のソナタを比較し、楽器の変遷による奏法の比較、それに伴う表現法の拡大。

7	ロマン派と20世紀のソナタの比較研究。形式の発展から見る演奏表現の｣可能性を実践から研究する。
8	作曲家の民族性から見える特色の研究。
9	バロック時代のイタリアにおける作曲家の特徴。併せてチェンバロガ持つ特色も研究する。
10	バロック音楽の協奏様式、通奏低音の研究実践。

11	バロック音楽の重要な作曲家の一人であるヘンデルのソナタの研究。バッハの作品との比較によりバロック時代の音楽性を探求する。
12	チェンバロ、オルガン、ピアノを実際に演奏し、タッチの違い響きの違いを実践研究し、表現法の創作意識を高める。
13	バロック音楽と古典派の音楽の旋律法、和声の比較研究。
14	絶対音楽と標題音楽の研究。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品から実践し探求する。

15	ロマン派の作曲様式、作曲技法の特徴を研究する。ダイナミックスの変化がもたらす演奏効果を考察実践する。
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ロマン派の作曲家ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームスを取り上げ、鍵盤楽曲以外の作品とピアノ曲の比較研究をし、表現の拡大を図る。
2	サン=サーンス、フォーレ、ドビュッシーの作品から、フランスの作曲家の特徴を考察し、ドイツ音楽との比較から音質、音色の相違を研究する。

3	ムソルグスキー、バラキレフ、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフの作品を通して、ロシアの民族的な色彩の表現法の実践研究。
4	アルベニス、グラナドスの作品をから、スペイン音楽と他国の音楽の比較研究。独特のリズム感やハーモニーから奏法の多様性を実践研究する。
5	キャラクターピースにおける表現の創意性の探求。
6	20世紀の音楽における発展の研究。旋律、和声、調性、リズム、形式から見える複雑化を考察し、その奏法、表現法を探る。

7	修了演奏会における楽曲の分析、奏法解釈から、自身の効果的な表現法を研究実践する。
8	修了演奏会における楽曲の副論文作成により、考察した結論を演奏に活かすための奏法研究の実践。
9	自身のレパートリーとなるコンチェルトの奏法研究。独奏とコンチェルトの奏法の比較から効果的な奏法を探求する。
10	オーケストラスコアから見るソリストとしての奏法研究。オーケストラとのアンサンブルからソリストとしての音質、音色、表現法について探求する。

11	声楽曲から見るピアノ独奏曲の実践。リストの編曲作品を取り上げ、歌曲を奏でる声を音によって表現する奏法研究。
12	ピアノ独奏によるベートーヴェン交響曲の奏法研究。 リストの編曲作品から、オーケストラの表現法の研究をとおして、多様な音質、音色の表現を習得する。
13	音楽的な演奏の原理の追求。フレージング、リズム、拍子、音質、音色、2年間の研究を通して培った演奏技術を確立する。
14	ペダリングの演奏効果についての実践研究。ペダリングによる表現の可能性をバロック音楽から現代音楽までを比較実践し、演奏表現の拡大を探求する。

15	2年間の研究成果を試演会の発表を通して、自己の音楽性、演奏技術を確立する。

科目名	演奏法研究Ⅱ　(WI)						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XIL1175C0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに収得する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成

3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践
5	専門器楽実習（５）コンクール用無伴奏曲実践
6	専門器楽実習（６）コンクール課題曲選定

7	専門器楽実習（７）バロックソナタ作品研究バッハ
8	専門器楽実習（８）バロック協奏曲作品研究ヴィヴァルディ
9	専門器楽実習（９）古典派ソナタ作品研究モーツァルト
10	専門器楽実習（１０）古典派協奏曲作品研究モーツァルト

11	専門器楽実習（１１）古典派ソナタ作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）古典派協奏曲作品研究シュターミッツ
13	専門器楽実習（１３）古典派ソナタ作品研究ウェーバー
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究シューマン

15	専門器楽実習（１５）ロマン派ソナタ作品研究ブラームス
授業計画	
	［後期］
1	専門器楽実習（１） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー

3	専門器楽実習（３）近現代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近現代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近現代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近現代作品研究ラヴェル

7	専門器楽実習（７）近現代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン

11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究　平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作曲家作品研究　武満徹

15	専門器楽実習（１５）修了演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ　(SI)						
代表教員	沼田　園子	授業コード	XIL1175D0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること

４．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	速いスピードでスケールを正確に弾けるための奏法研究
2	パガニーニ奇想曲No.24奏法研究・楽曲分析

3	パガニーニ奇想曲No.24ボーイングとフィンがリング研究
4	パガニーニ奇想曲No.９、１１、１６奏法研究・楽曲分析
5	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタ楽曲分析
6	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタボーイングとフィンがリング

7	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo.2楽曲分析
8	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo.2ボーイングとフィンがリング
9	メンデルスゾーン協奏曲のボーイングとフィンがリング
10	メンデルスゾーン協奏曲表現研究とテクニックの分析

11	サン=サーンス協奏曲研究 楽曲分析
12	サン=サーンス協奏曲研究 ボーイングとフィンガリング
13	サン=サーンス協奏曲研究 表現とテクニックについて
14	フランク ソナタ研究 楽曲分析

15	フランク ソナタ研究 ボーイング、フィンガリング、テクニック分析
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）、修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ベートーベン ソナタNo.7研究楽曲分析
2	ベートーベン ソナタNo.7研究ボーイング フィンガリング

3	ベートーベン ソナタNo.9研究 楽曲分析
4	ベートーベン ソナタNo.9研究 ボーイング、フィンガリング
5	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 楽曲分析
6	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 ボーイング、フィンガリング

7	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章楽曲分析
8	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
9	ブラームス協奏曲1楽章　楽曲分析
10	ブラームス協奏曲1楽章　ボーイング、フィンガリング

11	プラームス協奏曲2.3楽章　楽曲分析
12	プラームス協奏曲2.3楽章　ボーイング、フィンガリング
13	プラームス　ソナタ楽曲分析
14	プラームス　ソナタ、ボーイング、フィンガリング

15	プラームス ソナタ 表現研究

科目名	演奏法研究Ⅱ　(PI)						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XIL1175E0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI			科目分類	専門必修		
前提科目	演奏法研究Ⅰ、Ⅱはそれぞれをリンクさせて取り組むことが望ましい。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽器を演奏する上での基礎を固め、そこからより高度なテクニックを身につけていく中で、
多彩な音色、リズム、ビートについての考察、表現することなどについて深く研究する。
その学習の先に、院を修了後、社会に出てからどのような形で音楽と社会を結んでいくことが
出来るかという点も常に考えて各々の研究を進めていくことが望まれる。

年度末の修了演奏会での発表を大きな目標とし、そこに結びつくよう
考えて年間の授業を進めていく。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること。
レッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。
取り組む作品のアナリーゼを行い、作品や作曲者に関連した文献などがある場合は
それらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏により評価する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
履修条件は特になし。クラス分けは、原則として受講生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	［前期］ 概ね下記のような流れで進むことになるが、複数担当教員による個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべくそれぞれの方法を交えて受講生と相談しながら個人指導にあたる。
1	前期授業についてのガイダンス。後期の修了演奏会で発表するプログラムを何にするかの相談を交えつつ、前期に取り組む作品をおおよそ決定する。受講生が取り組むべき基礎課題についても相談、確認する。
2	演奏楽器を演奏する上での姿勢について、発音するのに必要なストローク、身体の使い方などを実践を交えて研究と確認をする。

3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながら アナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうかに重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。

7	取り組む作品の、この時点での一つの完成を目指す。 演奏会で取り上げられるレベルの演奏が出来るようになっているか、あらためて細部を確認する。
8	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や身体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認。年度始めのレッスンから成長したところ、より改善が必要なところを認識し、この先のレッスンにつなげていく。
9	次の作品への取り組み。基礎を大切にしながら、より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。
10	取り組む作品が楽譜となっている場合、楽譜上に記載されていることを大切にしつつ、あえて違ったアプローチの可能性があるか、など、既成概念にとらわれずに作品と向き合う時間を持つ。実践を交えながら、受講生と担当教員間でのアイデアの交換、ディスカッションを中心にレッスンを進める。

11	あらためて取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行ったアプローチが有効であるかどうかを検証する。 作品と取り組み始めた当初よりも広い視野で作品を捉えていく。
12	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
13	前期にこれまで取り組んで来た作品とは違ったテイストの小品を学習する。作品に応じた演奏楽器の音色を探す。
14	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。小品ならではの表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。

15	前期レッスンの統括。その上で後期修了演奏会のプログラムについて再考し、後期のレッスンに繋げる。
授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会に向けて重点を置き個人指導にあたる。
1	後期授業についてのガイダンス。修了演奏会で発表するプログラムを何にするかを相談、決定し、それを前提として後期レッスンの進め方を相談する。
2	前期レッスンで学習したことを復習する。基礎の確認と表現についての再考など。

3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながら アナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうかに重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。

7	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や身体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認し、作品演奏に反映させられているかを検証。
8	より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。既成概念にとらわれるだけにとどまらない自由な発想を持って作品と向かい合う方法を相談、考える。
9	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
10	次の作品への取り組み。担当教員の指導を形にするだけではなく、受講生が自分で考え、自分の演奏とそこから生まれる音、音楽を体感する、という方向性を強めていく。

11	取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行った自分で考えたアプローチが有効であるかどうかを検証する。 一層広い視野で作品を捉えていく方法を相談、研究する。
12	表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。１曲を演奏する上での構築を相談、研究する。
13	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。 修了演奏会での演奏を前提に、演奏会場の広さ、響きなども想定した演奏を目指す。
14	修了演奏会で演奏するにあたって、ステージ上での立ち振る舞い、演奏曲間の気持ちの切り替え、集中力の保ち方と緩め方など、演奏するという以外の部分について考察する。

15	修了演奏会プログラムの最終確認。 後期レッスンの統括。

科目名	演奏法研究Ⅱ　(E0)						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XIL1175F0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0			科目分類	専門必修		
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専門器楽実習と関連性を持たせつつ、修士論文のテーマを決定し、その研究を担当教員指導のもと、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2．授業概要

修了演奏会での演奏のための選曲、分析、演奏解釈、表現テクニックを学ぶ。
担当教員による個人レッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

継続的な研究、練習を望む。

４．成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏により評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
積極的にレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	個人レッスンの、各個人の技量に応じ、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すると同時に、アレンジやオリジナル作品等の指導も行う。
1	演奏法研究(1)　レパートリー選曲
2	演奏法研究(2)　バロック演奏法研究　様式を中心に

3	演奏法研究(3)　バロック演奏法研究　形式、和声を学ぶ
4	演奏法研究(4)　パイプオルガン演奏法研究と応用　フィンガリングを中心に
5	演奏法研究(5)　パイプオルガン演奏法研究と応用　ペダル奏法を学ぶ
6	演奏法研究(6)　アーティキュレーション研究　レガート奏法を学ぶ。

7	演奏法研究(7)　アーティキュレーション研究　スタッカート、テヌートなどを学ぶ。
8	演奏法研究(8)　レジストレーション研究　音色を生かした奏法を研究する。
9	演奏法研究(9)　レジストレーション研究、エディット研究　木管楽器の音色を作る。
10	演奏法研究(10)　レジストレーション研究、エディット研究　金管楽器の音色を作る。

11	演奏法研究(11)　レジストレーション研究、エディット研究　ストリングスの音色を作る。
12	演奏法研究(12)　フレーズの表現についての研究 フレーズの解釈からの表現方法
13	演奏法研究(13)　フレーズの表現についての研究 ペダル鍵盤のよるフレーズの表現の仕方。
14	演奏法研究(14)　曲のまとめと解釈について　表現の工夫

15	演奏法研究(15)　曲のまとめと解釈について　演奏の確認
授業計画	
	前期授業計画に準ずる。修了演奏会に向けての指導も積極的 に行われる。
1	演奏法研究(1)　ロマン派の音楽について　選曲
2	演奏法研究(2)　ロマン派の音楽のレジストレーション研究　アナリーゼから音色を工夫する。

3	演奏法研究(3)　ロマン派の音楽とレジストレーション研究　奏法を中心に
4	演奏法研究(4)　ロマン派のレパートリー　音色と演奏法の関係性について　時代背景や様式から考える。
5	演奏法研究(5)　ロマン派のレパートリー　音色と演奏法の関係性について　形式、和声から分析する。
6	演奏法研究(6)　近現代のレパートリー選曲

7	演奏法研究(7)　近現代作品のスタイル研究　様式や時代背景から学ぶ。
8	演奏法研究(8)　近現代作品スタイル研究　形式や和声から考える。
9	演奏法研究(9)　近現代作品の演奏表現についての研究 表現法、音色を考える。
10	演奏法研究(10)　近現代作品の演奏表現についての研究 表現の工夫

11	演奏法研究(11)　近現代作品のフレーズ研究と表現 表現を掘り下げ。
12	演奏法研究(12)修了演奏会用楽曲のアナリーゼと解釈について
13	演奏法研究(13)修了演奏会用楽曲の音色研究
14	演奏法研究(14)修了演奏会用楽曲のフレーズの表現並びにアーティキュレーションの研究

15	演奏法研究(15)修了演奏会用楽曲の全体を通しての演奏によるリハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ　(WA)						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	XIL1175GO	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA			科目分類	専門必修		
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位取得を前提としている。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏法（技術面）を鍛えていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏技法を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2．授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を５回で１クールとして、1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
尚、今年度は諸般の状況を考慮して、オンデマンド型と同時双方向型の二つの方法を組み合わせて、インターネットを活用した遠隔指導を併用する場合があり得ることを付記しておく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断に基づき、指導を進めていく。
（・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%）
但し、成績評価は学年末実技試験の採点結果が全て（100%）である。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「演奏法研究Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究

3	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説

7	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 研究成果発表と講評

11	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服

15	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究

3	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
6	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説

7	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

11	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服

15	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

科目名	声楽実習Ⅰ　(V0)						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIL131000	科目コード	IL1310d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0			科目分類	専門必修		
前提科目	演奏法研究Ⅰとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1．主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人に合わせたレッスンを行う。
担当教員により、各自の目標を達成できるよう指導が行われる

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、研究演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

４．成績評価の方法及び基準

試験　１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レッスン担当教員の指示のもと準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
年間30回のレッスンは、1回1回の積み重ねによって成立するので、遅刻欠席がないようにする。 また、担当教員と研究課題をしっかり決め、積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究

3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括

7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析

11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係

15	前期のまとめ
授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス／研究演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究

3	選曲した作品の作曲家及び時代背景
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究

7	前半のまとめ／研究演奏に向けてプログラムの確定
8	研究演奏会に選曲した曲の作品研究
9	研究演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	研究演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究

11	研究演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	研究演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	研究演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	研究演奏会に向けて、全体の流れを確認する

15	年間を通してのまとめ（研究演奏会への仕上げ）

科目名	声楽実習Ⅱ　(V0)						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIL131500	科目コード	IL1315d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0			科目分類	専門必修		
前提科目	演奏法研究Ⅱとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1．主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人に合わせたレッスンを行う。
担当教員により、各自の目標を達成できるよう指導が行われる

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、修了演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

４．成績評価の方法及び基準

修了演奏会（試験）100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レッスン担当教員の指示のもと準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
年間30回のレッスンは、1回1回の積み重ねによって成立するので、遅刻欠席がないようにする。 また、担当教員と研究課題をしっかり決め、積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究

3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括

7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析

11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係

15	前期のまとめ
授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス／修了演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究

3	選曲した作品の作曲家及び時代背景の研究
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究

7	前半のまとめ／修了演奏に向けてプログラムの確定
8	修了演奏会に選曲した曲の作品研究
9	修了演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	修了演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究

11	修了演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	修了演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	修了演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	修了演奏会に向けて、全体の流れを確認する

15	年間を通してのまとめ（修了演奏会への仕上げ）

科目名	演奏法研究Ⅰ　(V0)						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIL137000	科目コード	IL1370d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0			科目分類	専門必修		
前提科目	声楽実習Ⅰとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1．主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人に合わせたレッスンを行う。
担当教員により、各自の目標を達成できるよう指導が行われる。

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、研究演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

４．成績評価の方法及び基準

試験　100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レッスン担当教員の指示のもと準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
研究課題をしっかり決めること. 1回1回のレッスンを、しっかり積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究

3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括

7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析

11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係

15	前期のまとめ
授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス／研究演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究

3	選曲した作品の作曲家及び時代背景
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究

7	前半のまとめ／研究演奏に向けてプログラムの確定
8	研究演奏会に選曲した曲の作品研究
9	研究演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	研究演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究

11	研究演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	研究演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	研究演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	研究演奏会にむけて仕上げをしていく

15	年間を通してのまとめ（研究演奏会への仕上げ）

科目名	演奏法研究Ⅱ　(V0)						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIL137500	科目コード	IL1375d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0			科目分類	専門必修		
前提科目	声楽実習Ⅱとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1．主題・到達目標

学生各自が研究テーマを持って、各レッスン担当教員からアドヴァイスを受け、自分の目標を達成させる。

2．授業概要

新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業実施方法の詳細は第1回授業で説明する。

年間３０回の個人レッスンによる

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
歌唱時に必要な表現法を、各自、検討して次回のレッスンに発表できるように準備しておくこと

４．成績評価の方法及び基準

修了演奏会（試験）100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各レッスン担当教員、及び論文担当指導教員がその都度指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
研究課題をしっかり決める, 1回1回のレッスンをを積み重ねていくことが望ましい

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究

3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括

7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析

11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係

15	前期のまとめ
授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス／修了演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究

3	選曲した作品の作曲家及び時代背景の研究
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究

7	前半のまとめ／修了演奏に向けてプログラムの確定
8	修了演奏会に選曲した曲の作品研究
9	修了演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	修了演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究

11	修了演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	修了演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	修了演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	修了演奏会に向けて、全体の流れを確認する

15	年間を通してのまとめ（修了演奏会への仕上げ）

科目名	創作研究Ⅰ　(CO)						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XIL151100	科目コード	IL1511d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO			科目分類	必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、創作研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

創作研究Ⅰは、前期に大きな編成による室内楽曲、後期に室内オーケストラや管弦楽曲を中心として研究する。

2．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（0. メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（大きな編成による室内楽など）

3	楽曲研究－基礎（大きな編成による室内楽など）
4	楽曲研究－応用（大きな編成による室内楽など）
5	楽曲研究－まとめ（大きな編成による室内楽など）
6	書法研究－導入（大きな編成による室内楽など）

7	書法研究－基礎（大きな編成による室内楽など）
8	書法研究－応用（大きな編成による室内楽など）
9	書法研究－まとめ（大きな編成による室内楽など）
10	構成とスケッチ－導入（大きな編成による室内楽など）

11	構成とスケッチー基礎（大きな編成による室内楽など）
12	構成とスケッチー応用（大きな編成による室内楽など）
13	構成とスケッチーまとめ（大きな編成による室内楽など）
14	楽譜の作成ー基礎（大きな編成による室内楽など）

15	楽譜の作成－応用（大きな編成による室内楽など）
授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（室内オーケストラや管弦楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）

3	楽曲研究－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（室内オーケストラや管弦楽曲など）
5	書法研究－導入（室内オーケストラや管弦楽曲など）
6	書法研究－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）

7	書法研究－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
8	書法研究－まとめ（室内オーケストラや管弦楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（室内オーケストラや管弦楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）

11	構成とスケッチー応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
12	構成とスケッチーまとめ（室内オーケストラや管弦楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）

15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	創作研究Ⅱ　(CO)						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XIL151600	科目コード	IL1516d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO			科目分類	必修		
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、創作研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

創作研究Ⅱは、前期に２０世紀の交響曲と管弦楽曲、後期に現代の多様な編成による楽曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（0. メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）

3	楽曲研究－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
4	楽曲研究－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
5	楽曲研究－まとめ（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
6	書法研究－導入（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）

7	書法研究－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
8	書法研究－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
9	書法研究－まとめ（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
10	構成とスケッチ－導入（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）

11	構成とスケッチ－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
12	構成とスケッチ－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
13	構成とスケッチ－まとめ（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
14	楽譜の作成－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）

15	楽譜の作成－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）

3	楽曲研究－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
5	書法研究－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
6	書法研究－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）

7	書法研究－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
8	書法研究－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）

11	構成とスケッチー応用（現代の多様な編成による楽曲など）
12	構成とスケッチーまとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
13	楽譜の作成ー基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
14	楽譜の作成ー応用（現代の多様な編成による楽曲など）

15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲理論研究Ⅰ　(CO)						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XIL157000	科目コード	IL1570d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO			科目分類	必修		
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。２年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅰは、前期にスタイル和声を研究、後期にフーガ書法を研究し、自作品にそれらの技法を取り入れられることを目標とする。

2．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『フーガ書法』（音楽之友社）
『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）
『Vingt Leçons d'Harmonie』（O.メシアン著／LEDUC社刊）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	授業概要 スタイル和声の研究（J.S.バッハ）
2	J.S.バッハ様式での創作のスケッチ

3	J.S.バッハ様式での創作のまとめ
4	スタイル和声の研究（W.A.モーツァルト）
5	W.A.モーツァルト様式での創作のスケッチ
6	W.A.モーツァルト様式での創作のまとめ

7	スタイル和声の研究（R. シューマン）
8	R. シューマン様式での創作のスケッチ
9	R. シューマン様式での創作のまとめ
10	スタイル和声の研究（J. ブラームス）

11	J. ブラームス様式での創作のスケッチ
12	J. ブラームス様式での創作のまとめ
13	スタイル和声の研究（R. ワーグナー）
14	R. ワーグナー様式での創作のスケッチ

15	R. ワーグナー様式での創作のまとめ 前期の総括と講評
授業計画	
	［後期］
1	授業概要 学習フーガ（４声）の様式について
2	学習フーガ　第１提示部の書き方

3	作曲演習１　第１提示部
4	学習フーガ　第１喜遊部の書き方
5	作曲演習２　第１喜遊部
6	学習フーガ　第２提示部の書き方

7	作曲演習３　第２提示部
8	学習フーガ　第２喜遊部の書き方
9	作曲演習４　第２喜遊部
10	学習フーガ　第３提示部の書き方

11	作曲演習５　第３提示部
12	学習フーガ　第３喜遊部の書き方
13	作曲演習６　第３喜遊部
14	学習フーガ　提示部と喜遊部の総括

15	１年間の総括と講評

科目名	作曲理論研究Ⅱ　(CO)						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XIL157500	科目コード	IL1575d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO			科目分類	必修		
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。２年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅱは、前期にフーガ書法を研究して完成をめざし、後期にスタイル和声を研究し、自作品にそれらの技法を取り入れられることを目標とする。

2．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『フーガ書法』（音楽之友社）
『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）
『Vingt Leçons d'Harmonie』（O.メシアン著／Leduc社刊）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	授業概要 学習フーガ　主要追拍の書き方
2	作曲演習７　主要追拍

3	学習フーガ　対唱追拍の書き方
4	作曲演習８　対唱追拍
5	学習フーガ　平行調追拍の書き方
6	作曲演習９　平行調追拍

7	学習フーガ　真正追拍の書き方
8	作曲演習１０　真正追拍
9	学習フーガ　結尾部の書き方
10	作曲演習１１　結尾部

11	作曲演習１２　学習フーガのまとめ
12	学習フーガの浄書制作（４段譜）
13	学習フーガの浄書制作（２台ピアノ版）
14	学習フーガの試演、試聴

15	前期の総括と講評
授業計画	
	［後期］
1	スタイル和声の研究（J.P.ラモー）
2	J.P.ラモー様式での創作のスケッチ

3	J.P.ラモー様式での創作のまとめ
4	スタイル和声の研究（C.フランク）
5	C.フランク様式での創作のスケッチ
6	C.フランク様式での創作のまとめ

7	スタイル和声の研究（G.フォーレ）
8	G.フォーレ様式での創作のスケッチ
9	G.フォーレ様式での創作のまとめ
10	スタイル和声の研究（C.ドビュッシー）

11	C.ドビュッシー様式での創作のスケッチ
12	C.ドビュッシー様式での創作のまとめ
13	スタイル和声の研究（M.ラヴェル）
14	M.ラヴェル様式での創作のスケッチ

15	M. ラヴェル様式での創作のまとめ １年間の総括と講評

科目名	創作制作研究Ⅰ　(SC)						
代表教員	森　威功	授業コード	XIL1580B0	科目コード	IL1580d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC			科目分類	専門必修		
前提科目							
教員免許状							

1．主題・到達目標

創作制作研究は、音楽制作スキルの向上を図るものではなく、各自作品のクオリティーを重視した視点で指導する。また、音楽音響理論研究と連携して創作能力を養うことが目標である。

2．授業概要

原則、対面授業の実施を予定していますが、新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業とする場合があります。

音楽・音響デザインコースにおける創作制作研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容と合致する担当教員に師事することが必要であるが、これは「音楽音響理論研究」と合わせて事前面接によって決定される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内容を良く分析し、作品へ反映するための方法を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

研究成果５０%、研究態度50%、

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
この科目はレッスン形式であるため、シラバスの記載内容は一例に過ぎない。実際には担当教員と相談しながら決めることになる。

授業計画	
	［前期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	映像におけるシーンの分析と音楽の構成１（テーマ）
2	映像におけるシーンの分析と音楽の構成２（感情表現）

3	映像におけるシーンの分析と音楽の構成３（情景表現）
4	映像におけるシーンの分析と音楽の構成４（人物表現）
5	映像におけるシーンの分析と音楽の構成5（無機質表現）
6	シーンを設定してスケッチ（作曲）

7	スケッチについてディスカッション
8	スケッチの修正
9	楽器編成についての考察（小編成）
10	アレンジスコアの制作（各初期設定）

11	アレンジスコアの制作2（各修正作業）
12	アレンジスコアの制作３（演奏表現に関する部分を確認）
13	DTMにてシミュレーション1（トラックの構成とデータ入力）
14	DTMにてシミュレーション2（ミキシングと各調整）

15	作品の試聴とディスカッション

授業計画

	［後期］ 年度末試験における作品発表を念頭に、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	前期の作品にシンセサイザーの付加を検討
2	シンセサイザーの音色について考察

3	スコアのミックスとマスタリング
4	前期作品を弦楽四重奏にリアレンジ（準備）
5	対位的アプローチの導入1（２声）
6	対位的アプローチの導入2（3声）

7	対位的アプローチの導入3（４声）
8	弦楽四重奏にアレンジ（前半）
9	弦楽四重奏にアレンジ（中盤）
10	弦楽四重奏にアレンジ（後半）

11	弦楽四重奏のスコアの完成
12	DTMによるシミレーション１（トラックの構成とデータ入力）
13	DTMによるシミレーション2（ベロシティーの調整）
14	DTMによるシミレーション3（ミキシングと各調整）

15	作品試聴と講評

科目名	創作制作研究Ⅱ　(SC)						
代表教員	森　威功	授業コード	XIL1585B0	科目コード	IL1585d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC			科目分類	専門必修		
前提科目	「創作制作研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

創作制作研究は、音楽制作スキルの向上を図るものではなく、各自作品のクオリティーを重視した視点で指導する。また、音楽音響理論研究と連携して創作能力を養うことが目標である。

2．授業概要

原則、対面授業の実施を予定していますが、新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業とする場合があります。

音楽・音響デザインコースにおける創作制作研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容を網羅する担当教員に師事することが必要であるが、これは「音楽音響理論研究」と合わせて事前面接によって決定される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内容を良く分析し、作品へ反映するための方法を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

研究成果５０%、研究態度50%
研究成果に関しては、作品発表も含まれる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員の指示に従い準備すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
この科目はレッスン形式であるため、シラバスの記載内容は一例に過ぎない。実際には担当教員と相談しながら決めることになる。

授業計画	
	［前期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	映像におけるシーンの分析と音楽の構成１（テーマ）
2	映像におけるシーンの分析と音楽の構成２（感情表現）

3	映像におけるシーンの分析と音楽の構成３（情景表現）
4	映像におけるシーンの分析と音楽の構成４（人物表現）
5	映像におけるシーンの分析と音楽の構成5（無機質表現）
6	シーンを設定してスケッチ（作曲）

7	スケッチについてディスカッション
8	スケッチの修正
9	楽器編成についての考察（オーケストラ）
10	スコアの制作１（前半）

11	スコアの制作２（中盤）
12	スコアの制作３（後半）
13	DTMによるシミレーション１（前半）
14	DTMによるシミレーション２（中盤）

15	DTMによるシミレーション３（後半）
授業計画	
	［後期］ 年度末試験における作品発表を念頭に、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	前期の作品にシンセサイザーの付加を検討
2	シンセサイザーの音色について考察

3	スコアのミックスとマスタリング
4	前期作品を弦楽四重奏にリアレンジ（準備）
5	対位的アプローチの導入1（２声）
6	対位的アプローチの導入2（３声）

7	対位的アプローチの導入3（４声）
8	弦楽四重奏にアレンジ（前半）
9	弦楽四重奏にアレンジ（中盤）
10	弦楽四重奏にアレンジ（後半）

11	ハリウッド的オーケストラのアプローチ１（作品研究）
12	ハリウッド的オーケストラのアプローチ2(代表的なアプローチ)
13	ハリウッド的オーケストラのアプローチ3(簡単な楽曲を制作)
14	シンセサイザーアプローチ4（楽曲の制作とミックス）

15	作品試聴

科目名	音楽音響理論研究Ⅰ　(SC)						
代表教員	森　威功	授業コード	XIL1590B0	科目コード	IL1590d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC			科目分類	専門必修		
前提科目							
教員免許状							

1．主題・到達目標

音楽音響理論は、打ち込み技術やスコアリングなど楽曲制作上のスキル向上を目標とする。

2．授業概要

原則、対面授業の実施を予定していますが、新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業とする場合があります。

個々の研究テーマに沿って、必要な技術の修得を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回で学習した内容はテキストとしてデータ化しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

研究成果５０%、研究態度50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
この授業計画は学生ごとに異なるため、その一例であることに注意されたい。

授業計画	
	［前期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。ここではフィールドレコーディングを活用した作品制作を想定している。
1	研究に必要な技術の確認及び学習計画
2	これまでの自己の作品の検証

3	これまでの自己の作品の検証と整理
4	前期の作品制作の計画
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定

7	作品のモチーフを複数作成
8	モチーフの抽出
9	録音素材とモチーフの関連性を検討
10	作品全体の構成を調整

11	楽曲の指導（構成を中心に）
12	楽曲の指導（各セクションのについて）
13	楽曲の指導（録音素材のレストレーションを中心に）
14	作品のミックス

15	ミックスの仕上げ

授業計画

	［後期］ 後期は前期の反省点を踏まえ、引き続きフィールドレコーディングを活用した作品制作を想定している。
1	後期の作品発表に関する計画と確認
2	録音素材の活用視点と加工方法について

3	録音素材の発展方法について
4	録音素材の空間処理について
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定

7	楽曲の指導（構成を中心に）
8	楽曲の指導（各セクションのについて）
9	曲のの指導（録音素材のレストレーションを中心に）
10	ミキシング（前半部）

11	ミキシング（後半部、オートメーションなど）
12	ミキシング段階における楽曲の微調整
13	マスタリング（EQなど詳細処理）
14	マスタリング（全体のラウドネスの調整）

15	作品の試聴

科目名	音楽音響理論研究Ⅱ　(SC)						
代表教員	森　威功	授業コード	XIL1595BO	科目コード	IL1595d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC			科目分類	専門必修		
前提科目	「音楽音響理論研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音楽音響理論は、打ち込み技術やスコアリングなど楽曲制作上のスキル向上を目標とする。　。

2．授業概要

原則、対面授業の実施を予定していますが、新型コロナウィルス感染予防対策のため、遠隔授業とする場合があります。

個々の研究テーマに沿って、必要な技術の修得を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回で学習した内容はテキストとしてデータ化しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

研究成果５０%、研究態度50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
この授業計画は学生ごとに異なるため、その一例であることに注意されたい。

授業計画	
	［前期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	修了作品についてのディスカッション
2	修了作品と副論文の関係性についての検証

3	前期の作品制作の計画
4	作品の録音素材を選定
5	作品の収録スケジュールの設定
6	作品のモチーフを複数作成

7	モチーフの抽出
8	録音素材とモチーフの関連性を確認
9	作品全体の構成を調整
10	楽曲の指導（構成を中心に）

11	楽曲の指導（各セクションのについて）
12	楽曲の指導（録音素材のレストレーションを中心に）
13	作品のミックス
14	ミックスの仕上げ

15	マスタリング作業

授業計画

	［後期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	修了作品に関する計画と確認（後期作品）
2	録音素材の活用視点と加工方法について

3	録音素材の発展方法について
4	録音素材の空間処理について
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定

7	楽曲の指導（構成を中心に）
8	楽曲の指導（各セクションのについて）
9	曲のの指導（録音素材のレストレーションを中心に）
10	ミキシング（前半部）

11	ミキシング（後半部）
12	ミキシング段階における楽曲の微調整
13	マスタリング（前半部）
14	マスタリング（後半部）

15	作品の試聴

科目名	副科研究１　(MP)						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XIL2051C0	科目コード	IL2051d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：希望する実技の個人レッスンによる学習を主題とする。
到達目標：:基礎から始まり、より高いレベルでの修得に向けて、自らの音楽能力を高めること到達目標とする。

２．授業概要

選択した演奏分野や担当教員により異なる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。それぞれ1～2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［半期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み

3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習

7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ

11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ

15	総括
授業計画	
1	
2	

3	
4	
5	
6	

7	
8	
9	
10	

11	
12	
13	
14	

15

科目名	副科研究２　(MP)						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XIL2052C0	科目コード	IL2052d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：希望する実技の個人レッスンによる学習を主題とする。
到達目標：:基礎から始まり、より高いレベルでの修得に向けて、自らの音楽能力を高めること到達目標とする。

２．授業概要

選択した演奏分野や担当教員により異なる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。それぞれ1～2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［半期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み

3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習

7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ

11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ

15	総括
授業計画	
1	
2	

3	
4	
5	
6	

7	
8	
9	
10	

11	
12	
13	
14	

15

科目名	副科研究３　(MP)						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XIL2053C0	科目コード	IL2053d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：希望する実技の個人レッスンによる学習を主題とする。
到達目標：:基礎から始まり、より高いレベルでの修得に向けて、自らの音楽能力を高めること到達目標とする。

２．授業概要

選択した演奏分野や担当教員により異なる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。それぞれ1～2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［半期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み

3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習

7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ

11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ

15	総括
授業計画	
1	
2	

3	
4	
5	
6	

7	
8	
9	
10	

11	
12	
13	
14	

15

科目名	副科研究４　(MP)						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XIL2054C0	科目コード	IL2054d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP			科目分類	専門選択		
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：希望する実技の個人レッスンによる学習を主題とする。
到達目標：:基礎から始まり、より高いレベルでの修得に向けて、自らの音楽能力を高めること到達目標とする。

２．授業概要

選択した演奏分野や担当教員により異なる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。それぞれ1～2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）
特になし

授業計画	
	［半期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み

3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習

7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ

11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ

15	総括
授業計画	
1	
2	

3	
4	
5	
6	

7	
8	
9	
10	

11	
12	
13	
14	

15